

2016年度 専任教員の教育研究業績一覧表

天使大学 看護栄養学部

天使大学大学院看護栄養学研究科

目 次

[看護学科]

佐藤 昇子	1
荒井 春生	4
蝦名 美智子	11
菅原 邦子	13
本宿 美砂子	17
吉田 礼維子	20
大野 和美	26
柴田 和恵	30
高橋 順子	34
谷 規久子	38
針金 佳代子	41
伊藤 治幸	48
ケン スレイマン	52
佐々木 雅彦	54
澤田 優美	56
臺野 美奈子	60
田中 さおり	64
鶴木 恭子	67
前田 朝子	71
若山 好美	76
伊織 光恵	78
小澤 涼子	80

田中 裕子	83
富川 将史	85
中洞 真理子	88
新関 幸子	90
矢萩 実幸	93
横山 聖美	95

[栄養学科]

武藏 学	97
山口 敦子	100
荒川 義人	108
大久保 岩男	113
佐藤 香苗	120
高島 郁夫	135
高野 廣子	139
山部 秀子	141
勝野 由美子	143
金澤 康子	145
清水 真理	147
鈴木 純子	152
西 隆司	156
岩渕 絵里子	159
岡部 哲子	162

長谷川 めぐみ	165
峯岸 夕紀子	170
百々瀬 いづみ	172
吉田 真弓	176
高桑 暁子	178
松下 真美	180

[教養教育科]

川口 雄一	190
田島 忠篤	193
堀井 泰明	196
室橋 春光	199
新井 英志	202
小原 琢	205
目時 光紀	207

V 教育研究等環境
1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 特任教授	氏名 佐藤 昇子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
他教科「生徒死のゼミ」を母性看護学に活用した学生授業展開		2014年01月01日 ～ 2014年01月31日	生と死のゼミのテーマ「出生前診断」を母性看護学Ⅰの母性の倫理にて、学生10名による発表で授業を展開。障害児の出生、妊娠中絶の防止、胎児の生存権と女性の自己決定について学生の視点で問題提起し教材の工夫をも含め反応は良く、効果的であった。
看護管理に関して ・キャリアに関する授業として新卒者2名による特別授業を実施		2014年11月01日 ～ 2014年11月30日	4年次卒業前最後の講義となる看護管理—キャリアデベロップメント—に関し、今年度は職場適応に焦点を当て、昨年度の卒業生(就職6ヶ月)2名に、職場適応への実態と対処についての講義を実施。新卒者としての具体的対応が語られ、学生の反応も非常に良いものであった
・天使大学へのコミットメントに関するレポート課題		2014年11月01日 ～ 2014年11月30日	職場適応における、教育機関と職場とのコミットメントの関係性は以前の私の研究で実施済みである。今年度は卒業前の4年次生が、天使大学のどのようなところにコミットしていたかについて知り、カリキュラム編成上に活用したいと考え、レポート課題とした。集計・分析は次年度に実施予定。
人間形成とキャリアデザインⅡに関して ・「自己評価」と「自己表現」についてのアンケート実施		2014年11月01日 ～ 2014年11月30日	人間形成において自己肯定と他者理解は重要なキーワードであり、培うために本学では修養会・大学行事等に組入れられている理念である。この理念を本授業において具現化するための1方法として、自記式で記入してもらい、自己の傾向と共に、2年次の成長過程における他者理解として、グループディスカッションを実施した。自分で感じる自己と他者から見た自己の両面からよく表現され、自己の成長への足掛かりとなっていた。
母性看護学Ⅰにおけるゼミ授業と学生によるテスト問題作成		2015年01月01日 ～ 2015年01月31日	女性のライフステージにおける健康について、学生96名に13テーマを希望にて決定し、ゼミ形式でディスカッションを行い、資料作成と発表の準備を行った。女性の健康に関する社会的影響、生命に対する倫理を含めて性に関する教育の見方を深めることができ、「大学生になった気分を実感できた」との発言もきかれた。教育方法として、一人の教員でも、96名を対象に学生の思いを捕らえながらのディスカッションの実施は学生のやる気を促進できた。
人間形成とキャリアデザインⅡに関して 1年次のポートフォリオ活用により「人間形成とキャリアデザインⅠ」との関連性を高め、自己成長を確認		2015年10月08日 ～ 2015年11月19日	1年次の人間形成とキャリアデザインⅠで使用の「理想とする看護師像」と、「看護師とは、どのようなことをするのか」について、2年次の講義の初回に書いて貰い、1年次からの自己の変化・成長の自覚を促し、学習することに拠る発展と自信へとつなげた。

「自己評価」と「自己表現」についての質問紙を使用し、その後グループディスカッションにて、自己肯定と他者理解の道具とした。	2015年10月15日 ～ 2015年11月15日	人間形成において自己肯定と他者理解は重要なキーワードであり、培うために本学では修養会・大学行事等に組入れられている理念である。この理念を本授業において具現化するための1方法として、自記式で記入してもらい、自己の傾向と共に、2年次の成長過程における他者理解として、グループディスカッションを実施した。自分で感じる自己と他者から見た自己の両面からよく表現され、自己の成長への足掛かりとなっていた。
グループワークのためのピア評価表の作成	2015年10月15日 ～ 2016年01月21日	グループワークにおけるピア評価表を作成し、ピア評価を実施。評価の仕方に個人差が大きく、客観性ある評価になるための工夫が必要であった。
プレゼンテーションに対する意見・評価表の作成と プレゼングループへの提示	2015年10月15日 ～ 2016年01月21日	プレゼンでの質疑応答、発表者からの問題提起と、意見交換を組み入れたが、時間的制約があるため、一人ひとりの意見を、コピーして氏名は伏せて、プレゼンのグループに返し、各グループへの反応として示したことで、プレゼンにおける資料、発表方法、質疑での深まりについて評価する一助となっていた。
母性看護学Ⅰにおけるゼミ授業と学生によるテスト問題作成	2015年10月20日 ～ 2016年01月14日	女性のライフステージにおける健康について、学生96名に16テーマを希望にて決定し、ゼミ形式でディスカッションを行い、資料作成と発表の準備を行った。女性の健康に関する社会的影響、生命に対する倫理を含めて性に関する教育の見方を深めることができていた。さらに、担当箇所のテストを作成して、提出し、基本的な知識の整理を行ったが、昨年より安易なテスト作成で、低いレベルものであり、課題の出し方への指導が課題として残った。
聖書の活用により、人間形成とキャリアデザインⅡと修養会との関連性を高めた。	2015年11月05日 ～ 2015年11月12日	修養会と直接的にキャリアとの授業を関連づけるため、修養会テーマについて授業で扱い、聖書でのテーマ「主体性」について話し、修養会には聖書を持参し、各グループで調べ、討議するよう促した。その結果、修養会のグループ発表では、「善きサマリア人」を使用して自己の主体性との関連性を発表したり、キャリアで使用する「自己評価」「自己表現」の質問紙から、自己のあり方と主体性についての発表があり、昨年より、明確に関連付けられていた。
支援学年の問題事項に対し、母性看護学Ⅰの発表「大学生のセクシュアリティ」を使い、支援学年への性のモラルについてのディスカッションを実施。	2016年01月21日 ～ 2016年01月21日	大学生の性のモラルについて、母性看護学のゼミ発表で使用する学生作成資料により、別学年の問題事項について、グループ討議を実施した。同じ大学生が問題視した事例のため、臨場感が強く、討議も活発であった。その中から、性に関する倫理を呼び起こすことが出来、効果的であった。この問題事項は、他の学年、学科にも関連することで、何だかの対策が必要。
2 作成した教科書、教材、参考書		
ゼミ教材	2007年04月01日 ～ 現在に至る	ライフサイクルに応じた女性の看護ゼミの教材を作成。これを基に学生の主体的なディスカッションを展開し身近な問題として考察を発展させている。
女性の看護ゼミ	2007年04月01日 ～ 現在に至る	学生による性教育の模擬授業展開の教材作成。小学生・中学生・高校生・大学生向けに教案を作成し模擬授業を展開し、対象生徒に即した内容を検討。

母性看護学実習 ―母性看護学ワークブックの作成―		2007年04月01日 ～ 現在に至る	実習前の基礎知識と技術の復習のための母性看護学ワークブックを作成し、実習までに自己学習を行うことで、実習の方向性を理解でき、学生の主体性を高める効果を果たしている。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
III 学会等および社会における主な活動					
2005年06月01日 ～ 現在に至る		日本カトリック看護協会札幌支部長			
2014年09月01日 ～ 2014年09月30日		北海道母性衛生学会44回学術講演会座長			
2015年09月18日 ～ 2015年09月18日		北海道母性衛生学会45回学術講演会座長			
2015年10月10日 ～ 現在に至る		日本カトリック医師会主催「カトリック医療関連学生セミナー2016in札幌」実行委員			

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 教授	氏名 荒井 春生	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
1. 精神障がい者の対象理解を促進する体験型学習の導入		2010年06月01日 ～ 現在に至る	大塚製薬（株）との連携により、幻覚や妄想がどのように感じられるのかバーチャルセデーション体験型学習を取り入れた。
2. 精神障がい者の服用時における嚥下障害を緩和する体験型学習の導入		2010年09月01日 ～ 現在に至る	大塚製薬（株）との連携により、OD剤（薬成分なし）の体験型学習を取り入れた。
3. 精神障がい者の社会復帰を促進する体験型学習の導入		2010年10月01日 ～ 現在に至る	Social Skills Trainingプログラムを用いて社会復帰を可能にするための体験型学習を取り入れた。
4. 精神の健康問題に取り組む人々からのメッセージを聴き対象者の理解を深める体験型学習の導入		2010年10月01日 ～ 現在に至る	精神障がい者を支援する専門職として、社会復帰を可能にするリカバリーストレングスモデル体験型学習を取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
2. 精神看護学臨地実習要項の作成		2008年04月01日 ～ 現在に至る	
3. 精神看護学演習補助教材の作成		2008年04月01日 ～ 現在に至る	
4. 精神看護学臨地実習指導案の作成		2008年04月01日 ～ 現在に至る	
1. アルコール依存症患者と家族の支援プログラム作成		2008年04月01日 ～ 現在に至る	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
(6)「看護とリカバリー」における講演		2011年09月01日	財団法人精神・神経科学振興財団主催 リカバリー全国フォーラム講座
学会発表 「がんを併発した統合失調症患者を看取る精神科看護師の戸惑いの要因」（神戸）		2011年09月12日	第17回日本臨床死生学会第17回日本死生学会大会誌p66. 荒井春生, 久松美佐子.

学会発表「がん体験者のSpiritual well-beingに関する先行研究の動向」第35回日本死の臨床研究会（千葉）	2011年10月13日	日本死の臨床研究会, Vol. 34, No. 2, p295. 荒井春生, 白土辰子.
学会発表「余命告知を受けたがん患者家族の不安要因に影響する要因」第35回日本死の臨床研究会（千葉）	2011年10月13日	日本死の臨床研究会誌, Vol. 34, No. 2, p236. 久松美佐子, 荒井春生.
(7)「自死遺族の支援」における講演	2011年11月01日	埼玉県庁主催 精神保健福祉ネットワーク講座
(8)「統合失調症の早期発見と看護」における講演	2012年05月01日	筑波学園病院主催 職員研修講座
(9)「うつ病と睡眠障害」における講演	2012年07月01日	筑波学園看護学校主催 医療連携講座
Oral presentation 「Anxieties of Nurses Involved in Palliative Care Mental Hospitals」 The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery (Kobe, Japan)	2012年07月18日	Harumi Arai, Misako Hisamatsu, p63.
Oral presentation 「To schizophrenic patients complicated with cancer care nurses suffering-case family denied the treatment-」 The 9th International Conference with the Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery (Kobe, Japan)	2012年07月18日	Misako Hisamatsu, Harumi Arai, p65.
学会発表「精神科病院で緩和ケアを促進する要因ー統合失調症患者と看護師の関係ー」第12回日本外来精神医療学会（東京）	2012年07月23日	第12回日本外来精神医療学会抄録集, p79. 荒井春生, 久松美佐子.
学会発表「がん患者のスピリチュアリティとレジリエンスの関連」第36回日本死の臨床研究会（京都）	2012年11月23日	日本死臨床研究会Vol. 35, No. 2, p334. 荒井春生
学会発表「末期がんで余命告知を受けた患者のレジリエンスとスピリチュアリティの関連」第18回日本臨床死生学学術集会（東京）	2012年11月27日	第18回日本臨床死生学学術集会抄録集, P63. 荒井春生, 久松美佐子, 植田麻実.
学会発表「精神科病院における緩和ケアの現状ーがんを合併した統合失調症患者と家族の関係ー」第18回日本臨床死生学学術集会（東京）	2012年11月27日	第18回日本臨床死生学学術集会抄録集, p79. 久松美佐子, 荒井春生, 植田麻実.
学会発表「精神科病院における緩和ケアの現状ーSupport Team Assessment Schedule; STAS-Jを用いた調査からー」日本精神科看護学術集会誌（宮城）	2013年05月06日	本精神科看護学術集会誌p4. 荒井春生, 久松美佐子, 齊藤康司, 黒岩京子, 下野義弘.
(10)「精神科病院の身体合併症予防」における講演	2013年06月01日	山梨県精神科病院協会主催 教育研修会

学会発表「がんを合併した統合失調症患者の看取りに関する文献検討」第44回日本精神科看護学術集会誌（群馬）	2013年09月13日	第44回日本看護学会精神看護学術集会抄録集, p124. 荒井春生
(11)「精神科病院の役割と退院支援の課題」における講演	2013年10月01日	山梨県精神科病院協会主催 教育研修会
(12)「老人性うつ病の早期発見」における講演	2013年12月01日	山梨県富士河口湖町主催 生涯学習講座
学会発表「がんを合併した統合失調症患者に向けた訪問看護の現状」第19回日本死生学学会学術集会誌（東京）	2013年12月11日	第19回日本臨床死生学学会学術集会抄録集, p52. 荒井春生, 植田麻美, 久松美佐子.
(13)「単科精神科病院におけるがんの合併状況とその背景」多職種連携講座座長	2014年01月01日	日本精神科看護出版主催
(14)「家族の心理教育セミナー」における講演	2014年08月01日	水海道厚生病院主催 看護師教育研修会
(15)「精神科病院における看取りの臨床的意義」座長	2014年09月01日	第21回日本精神科看護学術集会専門Ⅰ（鹿児島）
学会発表「精神科病院における看取りの臨床的意義」第21回日本精神科看護学術集会専門Ⅰ（鹿児島）	2014年09月12日	第21回日本精神科看護学術集会専門Ⅰ抄録集, p67-69. 荒井春生, 久松美佐子, 下野義弘.
(16)「単科の精神科病院における看護教育の検討」座長	2014年11月01日	第21回日本精神科看護学術集会専門Ⅱ（北海道）
学会発表「山梨県内単科精神科病院におけるがんの合併状況とその背景」第38回日本死の臨床研究会（大分）	2014年11月10日	第38回日本死の臨床研究会抄録集, p114-115. 荒井春生, 久松美佐子, 植田麻実.
学会発表「精神科病院でがんを併発した統合失調症患者の看取りー第1報ー」第38回日本死の臨床研究会（大分）	2014年11月10日	第38回日本死の臨床研究会抄録集, p167-168. 久松美佐子, 荒井春生, 植田麻実.
学会発表「精神科病院でがんを併発した統合失調症患者の看取りー第2報ー」第38回日本死の臨床研究会（大分）	2014年11月10日	第38回日本死の臨床研究会抄録集, p76-77. 前田則子, 久松美佐子, 荒井春生.
学会発表「単科の精神科病院における看護教育の検討ー院内研修の試みー」第21回日本精神科看護学会専門Ⅱ（北海道）	2014年11月23日	第21回日本精神科看護学会専門Ⅱ抄録集p103-105. 荒井春生, 斉藤康司, 中山晋, 古谷貴司.
(17)「臨床現場のコミュニケーション能力」における講演	2014年12月01日	天使大学看護学科主催 実習指導者研修会
(18)「東北大震災後の感情疲労」における講演	2015年02月01日	宮城県気仙沼市三峰病院主催 こころの健康講座
学会発表「がんを合併した統合失調症患者を看取った看護師の経験から明らかになったニーズ」日本精神保健看護学会第25回学術集会・総会（茨城）	2015年06月07日	第25回日本精神保健看護学会学術集会誌P109. 荒井春生, 久松美佐子.
学会発表「単科精神科病院における保護室の構造と設備-13施設を対象にして-」第46回日本看護学会ー精神看護ー（大阪）	2015年09月15日	第46回日本看護学会ー精神看護学術集会誌, P208. 荒井春生, 植田麻実.

Oral presentation 「Current State of Cancer Notification to Schizophrenic Patients with Cancer」 The 7th Asia Pacific Regional Conference of the International Association for Suicide Prevention (Tokyo, Japan)	2016年05月07日	Harumi Arai, Mami Ueda. p68.
(19)「東日本大震災から5年の歳月を経てー精神科看護師が受けとめたものー」	2016年06月11日	日本精神科看護学術集会ワークショップ座長
学会発表「がんを合併した統合失調症患者を看取る過程で行った身体的ケアと看護診断の活用状況ーA県内単科精神科病院8施設を対象としてー」 (京都)	2016年06月11日	第21回日本緩和医療学会誌, P398. 久松美佐子, 荒井春生, 植田麻実.
学会発表「がんを合併した統合失調症患者の在宅緩和ケアに取り組む訪問看護師の現状」 第21回日本緩和医療学会 (京都)	2016年07月08日	第21回日本緩和医療学会P537. 荒井春生, 植田麻実, 久松美佐子, 渡辺俊之.
(20)天使大学・北海道薬科大学連携公開講座「不眠とうつ病ー質の良い眠りで気持ちスッキリー」講師	2016年08月25日	
学会発表「単科精神科病院におけるがんの合併状況 統合失調症患者を看取る看護師の背景ー」 第31回日本保健医療行動科学学会 (北海道)	2016年09月10日	第31回日本保健医療行動科学学会誌, P46, 荒井春生, 園田和子.
学会発表「単科精神科病院におけるがんの合併状況 統合失調症患者の背景ー」 第31回日本保健医療行動科学学会 (北海道)	2016年09月10日	第31回日本保健医療行動科学学会誌, P46, 園田和子, 荒井春生.
学会発表「がんを合併した統合失調症患者の訪問看護の現状」 (北海道)	2016年10月08日	第40回日本死の臨床研究会誌, P404, 荒井春生, 久松美佐子.
学会発表「延命目的抗がん剤治療を受けるがん患者の配偶者の予期悲嘆の特徴」 (北海道)	2016年10月08日	第40回日本死の臨床研究会誌, P374, 久松美佐子, 荒井春生.
Oral presentation 「Current Status and Issues of the Nursing of Schizophrenic Patients with Cancer: A proposal for Nursing education with a focus on the patient care provided by psyshiatric nurses」 The 4th China Japan Korea Nursing Conference (Beijing, China)	2016年11月14日	Harumi Arai, Toshiyuki Watanabe, Mami Ueda, Tae Shigeoka. p16.
4 その他教育活動上特記すべき事項		
(5) 日本死の臨床研究会研究助成報告 「がん終末期の統合失調症患者を看取る精神科看護師の戸惑いと希望」 研究代表者	2010年10月01日 ～ 2011年09月30日	
(6) 日本精神科看護技術協会研究助成報告 「精神科病院における緩和ケアの現状と課題」 研究代表者	2011年02月01日 ～ 2012年01月30日	

(7) 公益財団法人勇美記念財団研究助成報告「がんを合併した統合失調症患者への在宅医療支援体制の取り組み」研究代表者		2012年07月01日 ～ 2013年06月30日			
(8) 公益社団法人日本アロマ環境協会研究助成報告「被災地で働く単科精神科病院の看護師を対象にしたアロマセラピーマッサージ実施後の気分変化の検討」研究代表者		2014年09月01日 ～ 2015年06月30日			
(9) 科学研究基盤C「がん患者配偶者の悲嘆プロセスの縦断的研究」研究分担者		2015年01月01日 ～ 2017年12月31日			
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
ブータンにおけるアルコール 依存症患者の治療と看護-瞑 想に導かれたアルコール依存 症からの回復-	単著	2012年11月01日	精神看護出版		p47-53.
ブータンにおけるアルコール 依存症患者の治療と看護-西 洋医療と伝統医療の融合-	単著	2012年12月01日	精神看護出版		p49-54.
精神科臨床からの緩和ケアへ の眼差し 第1回欧米で緩和ケアが生ま れた背景とその歴史	単著	2014年01月10日	精神看護出版		p50-56.
精神科臨床からの緩和ケアへ の眼差し 第2回がんを合併した統合失 調症患者の痛みを考えるー Support Team Assessment Scheduleを用いた調査からー	単著	2014年02月10日	精神看護出版		p41-48.
精神科臨床からの緩和ケアへ の眼差し 第3回がんを合併した統合失 調症患者の看取り考えるー患 者と看護師のかかわりから見 えてきた精神的ケアの内容ー	単著	2014年03月10日	精神看護出版		p51-58.

精神科臨床からの緩和ケアへの眼差し 多職種の視点から単科精神科病院における緩和ケアを考える	共著	2014年04月10日	精神看護出版	荒井春生, 小林一彦, 小佐野智子他	p50-61.
精神科病院における終末期ケアの現状と課題 がんを合併した統合失調症患者の実態調査から考える	共著	2016年03月10日	精神看護出版	荒井春生, 林文	p4-14.
論文					
16. がん患者家族の余命告知における死別への受け止め方の性的特徴	共著	2011年06月01日	日本死の臨床研究会誌Vol. 34, No. 1	久松美佐子, 荒井春生	p116～p120
17. 余命告知を受けた化学療法中のがん患者家族の不安に影響する要因	共著	2012年06月01日	日本臨床死生学会誌Vol. 17, No. 1	久松美佐子, 荒井春生	p9～18.
18. 精神科病院における緩和ケアの現状—Support Team Assessment Schedule;STAS-Jを用いた調査から—	共著	2013年05月01日	日本精神科看護学会誌Vol. 56, No. 1	荒井春生, 久松美佐子, 齊藤康司, 下野義弘.	p31～38.
19. がん終末期の統合失調症患者を看取る精神科看護師の戸惑いと希望	共著	2013年06月01日	日本死の臨床研究会誌Vol. 36, No. 1	荒井春生, 久松美佐子	p140～144.
20. 日本におけるがんを合併した統合失調症患者の緩和ケアに関する文献的考察	単著	2014年02月01日	第44回日本看護学会論文集—精神看護—		p156～160.
21. がんを合併した統合失調症患者を看取る精神科看護師の緩和ケアを促進する要因	共著	2016年06月10日	日本死の臨床研究会誌Vol. 39, No. 1	久松美佐子, 荒井春生, 植田麻美, 前田則子	153～158
22. Patients with Cancer Hospitalized at Psychiatric Hospitals in Japan	共著	2017年01月01日	Journal of Palliative Medicine	Harumi Arai ,Toshiyuki Watanbe, Fumi Hayashi, Mami Ueda, Misako Hisamatsu.	
III 学会等および社会における主な活動					
2006年04月01日 ～ 現在に至る		日本緩和医療学会、日本精神保健学会、日本外来精神医療学会、日本死の臨床研究会、日本死生学会、日本質的心理学会 他			

2009年01月01日 ～ 2011年12月31日	日本精神科看護技術協会鹿児島県支部顧問
2009年01月01日 ～ 現在に至る	埼玉県精神衛生相談委員会指導者
2009年01月01日 ～ 現在に至る	医療法人水海道厚生病院「看護研究」講師
2009年01月01日 ～ 現在に至る	筑波学園看護専門学校「看護研究」講師
2011年01月01日 ～ 現在に至る	医療法人回生堂病院「看護研究」講師
2011年01月01日 ～ 現在に至る	医療法人荑崎東ヶ丘病院「看護研究」講師
2011年01月01日 ～ 現在に至る	医療法人山角病院「看護研究」講師
2011年01月01日 ～ 現在に至る	山梨県内における単科精神科病院多職種連携体制の取組み 回生堂病院・荑崎東ヶ丘病院・住吉病院・日下部記念病院・山角病院・ 峡西病院・三生会病院との地域連携研究代表者
2011年01月01日 ～ 現在に至る	精神障がい者の就労支援ネットワークシステムの形成 山梨県精神科看護協会・小山メンタルクリニック・坂東ホスピタル・回生堂 病院・荑崎東ヶ丘病院・山角病院・日下部記念病院・鹿児島県立始良病院との共同研究代表者
2013年01月01日 ～ 現在に至る	アロマセラピー学会編集委員
2013年01月01日 ～ 現在に至る	日本精神科看護技術協会「こころの健康出前講座」講師
2013年01月01日 ～ 現在に至る	精神看護出版主催「多職種の視点から単科精神科病院における緩和ケアを考える」ファシリテーター
2014年01月01日 ～ 現在に至る	札幌市内単科精神科病院保護室の構造と環境における取組み 日本精神科看護協会札幌支部・石金病院・旭山病院・佐藤病院・手稲 病院・トロイカ病院・五稜会病院・長野病院・花園病院・平松記念病院・林下病院・さっぽろ香雪病院・岡本病院との共同研究代表 者
2014年01月01日 ～ 現在に至る	被災地支援－精神科病院に勤務する看護師の感情疲労に対する取り組み－三峰病院・公益社団法人日本アロマ環境協会との共同研究 代表者
2016年04月01日 ～ 現在に至る	日本精神保健看護学会第27回学術集会企画委員

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 特任教授	氏名 蝦名 美智子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 教授	氏名 菅原 邦子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
看護学原理		2005年04月01日 ～ 2014年03月31日	1 年前期科目であること、看護の体験がない学生であること考慮し、文献課題レポートやグループ活動、プレゼンテーション、事例を取り入れて、イメージが持てるように工夫している。看護の本質と専門性、看護の役割機能について展開している。授業評価はいずれの項目も 8 0 % 以上の高い評価を得ている。わかりやすく看護に興味をもてる授業と評価を受けている
看護技術論 I		2005年04月01日 ～ 2014年03月31日	オムニバス方式の看護技術の共通技術を教授するクラスである。担当は技術の意味、コミュニケーション技術、NP 技術・看護記録、教育・相談技術である。体験学習や事例によるイメージを図り、8 0 % 以上の高い評価を得ている。
看護ケア提供システム論		2005年04月01日 ～ 2014年03月31日	保健医療福祉制度の概要の理解と看護が提供される場の理解。チーム医療における他職種の理解と看護師の役割について、講義とワークブックを活用して展開。さらに、基礎看護学臨地実習 I を授業進行の中間に配置し講義やグループ学習した内容を臨地現場で学び、各自が体験した内容をGW、プレゼンテーションなどをうい後半のクラスで共有し、看護職の役割を広い視野で把握できるように工夫している。授業評価では、グループ人数以外は 8 0 % 以上の評価を得、看護職への動機が高まったと高い評価を得ている。
人間関係論		2005年04月01日 ～ 2014年03月31日	援助的人間関係の形成能力に必要な自己理解とコミュニケーション技術を理論と体験学習、作成したガイドブック、23年度よりインタビューガイドにより展開。インタビュー技術、傾聴技術の基本を3人1組演習により展開。自己理解を客観的に捉えるツールにより自己の傾向を把握し、コミュニケーションへの影響を分析。授業評価では、教授学習方法の多様な工夫、自己理解などが得られた等、いずれの項目も 8 0 % 以上の高い評価を得ている。
生と死の看護ゼミナール		2005年04月01日 ～ 2014年03月31日	天使大学独自の統合科目として今年度は2年次と3年次に配置し、学生と看護学科教員による少人数教育科目の企画運営責任者として展開。人間のいのち、生と死に関する多様なテーマを取り上げ、プレゼンテーション資料の作成と討議、患者・家族と専門家による特別講演により展開。3年次は、臨地実習で体験した具体的な事例から自己の死生観・看護観の育成を図っている。授業評価では、天使大学独自の期待していた科目であること、学生自身の関心のあるテーマに基づいて学習できる少人数科目であること、患者・家族の生の声が聞ける企画であること等、いずれの項目もほぼ 1 0 0 % と高い評価を得ている。

人間形成とキャリアデザインⅡ	2013年04月01日 ～ 2014年03月31日	25年度より開始された人間形成とキャリアデザインⅠに続く2年次生対象科目、講義、3看護専門職による講演、専門職とはを探究するグループ活動、プレゼンテーション、内省性を目的とした修養会など多様なプログラムから編成した。GW活動評価はルーブリック評価項目によるピュア評価とした。助産師・保健師・看護師の活動の講演など、将来の職業への動機づけとなったとの評価を得た。			
2 作成した教科書、教材、参考書 人間関係論インタビューガイド A 4 6項	2011年04月01日 ～ 現在に至る	インテイクインタビュー用のガイドの作成			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
Ⅱ 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
親をがんで亡くした家族の体験—主介護者でないきょうだいに焦点を当てて	共著	2012年02月01日	日本がん看護学会第26日本がん看護学会学術集	前田久恵	325～325
終末期がん患者の治療・療養の場の選択における意思決定のプロセスと影響要因	共著	2012年02月01日	日本がん看護学会第26日本がん看護学会学術集	高橋未央	282～282

婦人科がん術後患者に関わる看護師のセクシュアリティのケア（１）	共著	2013年02月01日	日本がん看護学会第27日本がん看護学会学術集	野際奈美絵	287～287
婦人科がん術後患者に関わる看護師のセクシュアリティのケア（２）	共著	2013年02月01日	日本がん看護学会第27日本がん看護学会学術集	野際奈美絵	288～288
20歳代悪性腫瘍患者の「最後まで治療したい」という気持ちに寄り添う	共著	2013年06月01日	死の臨床61 36(1)	井上 聡	134～135
看護師が捉える成人急性白血病患者に対する終末期看護の認識	共著	2014年02月01日	日本がん看護学会第27日本がん看護学会学術集	大友陽子	164～164
がんで配偶者を亡くした子どもを抱える寡婦の死別後ストレスと対処	共著	2014年02月01日	日本がん看護学会第27日本がん看護学会学術集	横山聖美	182～182

III 学会等および社会における主な活動

2005年04月01日 ～ 2012年03月31日	日本死の臨床研究会 北海道地区世話人
2005年04月01日 ～ 2013年03月31日	J A札幌厚生病院院内研修会「看護研究計画案」の指導講師
2007年04月01日 ～ 2012年09月30日	北海道 保健師助産師看護師等実習指導者講習会講師
2011年04月01日 ～ 2014年03月31日	日本死の臨床研究会 北海道地区常任世話人
2011年04月01日 ～ 2014年03月31日	日本死の臨床研究会 北海道支部常任世話人
2011年04月01日 ～ 2012年03月31日	北海道薬科大学非常勤講師「基礎看護学」
2011年04月01日 ～ 2012年03月31日	日本がん看護学会査読委員
2011年04月01日 ～ 2012年03月31日	第16回日本看護管理学会年次大会企画委員
2011年04月01日 ～ 2014年03月31日	日本がん看護学会評議員
2011年09月17日 ～ 2011年09月17日	日本死の臨床研究会北海道支部秋の研修会座長

2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	日本がん看護学会査読委員
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	日本死の臨床研究会年次大会事例検討座長
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	日本死の臨床研究会北海道支部春の研究会事例検討座長
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	日本死の臨床研究会常任世話人
2012年04月01日 ～ 2014年03月31日	日本看護倫理学会学評議員
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	日本看護倫理学会学術雑誌査読委員
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	第16回日本看護管理学会年次大会口演座長
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	第16回日本看護管理学会年次大会実行委員
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	北海道薬科大学非常勤講師「基礎看護学」
2012年11月01日 ～ 2012年11月30日	北海道 保健師助産師看護師等実習指導者講習会講師
2013年04月01日 ～ 2014年03月31日	北海道薬科大学非常勤講師「基礎看護学」
2013年09月01日 ～ 2013年09月30日	北海道 保健師助産師看護師等実習指導者講習会講師
2013年11月01日 ～ 2013年11月30日	天使病院 院内研修「看護理論」講師
2013年11月01日 ～ 2013年11月30日	北海道 保健師助産師看護師等実習指導者講習会講師
2013年11月01日 ～ 2013年11月30日	日本死の臨床研究会年次大会ポスター座長
2013年12月01日 ～ 2013年12月31日	天使大学看護栄養学看護学科臨床指導者研修会パネラー

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 教授	氏名 本宿 美砂子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2013年08月01日 ～ 2013年08月31日	ハイリスク助産学演習では、新生児蘇生法（NCPR）のAコース認定を行っている。修了後すぐに臨床で実践できるため好評である。
		2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	マタニティサイクル助産ケアⅢ：助産過程の演習に先立ち、「看護過程・助産過程のルール」について講義し、自己学習・実習に役立たせている。
		2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	マタニティサイクル助産ケアⅢ：新生児のバイタルサイン演習では、市販のCDを使用し、心雑音などを実感できるようにしている。
		2014年08月01日 ～ 2014年08月31日	ハイリスク助産学演習では、新生児蘇生法（NCPR）のAコース認定を行っている。修了後すぐに臨床で実践できるため好評である。
		2014年11月01日 ～ 2014年11月30日	ウイメンズヘルス演習に「ピル外来」の見学・演習を導入した。助産師の役割として思春期・成熟期・更年期の幅広い女性のライフサイクルに必要な治療として有効であることが認識でき、助産師の役割の拡大・深化に結び付いた。
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年04月01日 ～ 2013年03月31日	「学習ガイド」マタニティサイクル助産ケア 出産期を担当
		2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	「学習ガイド」マタニティサイクル助産ケア 産褥・新生児期を担当
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2012年02月01日	苫小牧市立病院 第1回新人助産師教育研修会にて講演
		2012年05月01日	第26回日本助産学会学術集会「専門職大学院における教育評価-修了生の評価-」発表
		2013年02月01日	苫小牧市立病院 第2回新人助産師教育研修会にて講演
		2014年03月01日	第28回日本助産学会学術集会「専門職大学院における教育評価-上司からの評価-」発表

4　その他教育活動上特記すべき事項		2012年10月01日　～ 2012年11月30日	JICA　地域別研修　アフリカ英語圏「母子保健（Ｂ）」講師		
		2013年08月01日　～ 2014年08月31日	ハイリスク助産演習「新生児蘇生法NCPR研修会」インストラクター補助		
		2013年10月01日　～ 2013年11月30日	JICA　地域別研修　アフリカ英語圏「母子保健（Ｂ）」講師		
Ⅱ　研究活動					
著書・論文等の 名　　　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
「専門職大学院における教育 評価」	共著	2012年05月01日	第26回日本助産学会学術誌	大石時子、本宿美砂子、宮本涼子、	77～77
「専門職大学院における教育 評価-修了生の上司のインタ ビューから-」	共著	2014年03月01日	第28回日本助産学会学術誌	本宿美砂子、津田万寿美	127～127
Ⅲ　学会等および社会における主な活動					
2008年04月01日　～　2015年03月31日		エンブリオ北海道サポーター			
2008年04月01日　～　2015年03月31日		JCNA札幌会員			
2008年04月01日　～　2015年03月31日		日本助産師会および北海道助産師会会員			
2008年04月01日　～　2015年03月31日		全国助産師教育協議会個人会員			

2008年04月01日 ～ 2015年03月31日	母性衛生学会会員および北海道母性衛生学会会員
2008年04月01日 ～ 2015年03月31日	子ども虐待防止協会会員
2012年06月01日 ～ 2014年03月31日	日本看護研究学会北海道地方会監事
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	全国助産師教育協議会 資格・専門能力委員として第98回助産師国家試験問題の検討および報告書の作成を行う。

V 教育研究等環境
1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 教授	氏名 吉田 礼維子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
在宅看護論		2009年04月01日 ～ 現在に至る	在宅看護の必要性となった背景について既習の学び等を想起して各自がカードに記入し、グループで分類するKJ法を行いた学習展開を実施した。療養の場の選択を自分に引き寄せて考えるようにバズセッションを実施して考えさせている。また、制度やサービスの活用については、訪問看護制度利用のフローチャートを作成し、事例を用いて具体的实际的に理解できるようにした。
健康生活看護学（地域）Ⅲ		2009年04月01日 ～ 2014年04月01日	地域におけるヘルスケアシステムと看護活動の講義については、実践的な理解のために、地域活動の実践例を用いた授業展開を行い、地域特性との関連の理解、各々の活動方法の特徴や組み合わせ、活動のつながりや発展の理解に効果をあげている。
公衆衛生看護学特論Ⅱ（大学院）		2011年04月01日 ～ 現在に至る	公衆衛生看護実践において、個人・家族の支援に活用できる理論として、ペンダーのヘルスプロモーション看護論を精読し実践例に適応させ、討議を通して理解を深めた
公衆衛生看護学特論演習Ⅰ（大学院）		2011年04月01日 ～ 2012年03月31日	「実践ヘルスプロモーション」を精読、検討し、PRECEDE-PROCEED MODELを活用して、実践現場のデータを用いて地域診断を行い、計画立案までのプロセスを検討した。それらの結果は、院生が学会で発表した。
健康生活看護学（地域）Ⅲ		2011年04月01日 ～ 現在に至る	地区活動論の講義では、実習予定の市区町の基礎データを個人で把握分析し、その後グループでコミュニティアズパートナーモデルの枠組を用いて地域アセスメントを行い、地域のニーズを明らかにして計画を立案する演習を実施している。地域看護過程の展開の理解を深めるとともに実習地域に関心をもち、モチベーションを高めている。
健康生活看護学(地域)Ⅰ		2012年04月01日 ～ 現在に至る	地域看護学の導入として「私の住むまちの特徴と保健活動」のテーマで課題を出し、自ら情報収集をして資料を作成し、グループ内で発表した。自分のまちへの興味・関心を持ち、さまざまな保健サービスをうけ暮らしていることを再確認する場となり、学生の評価も高く、導入として効果的であった。
健康生活看護学臨地実習(地域)Ⅱ		2012年04月01日 ～ 現在に至る	2012年度より保健師教育課程の選択科目として位置づけ、2週間の必修の地域実習に継続して実施した。継続支援をととして家族の健康課題を多面的に理解し、セルフケアを促す支援を実施、評価し、家族看護過程の理解を深めた。また、実習町の健康なまちのビジョンを描き、地域看護活動計画の立案をととして、地域を単位とした看護過程における保健師の役割・機能の理解を深め、地域のヘルスケアニーズ、地域ケアシステムについて検討することにより、保健師野専門性について学ぶ機会とした。

人間形成とキャリアデザインⅠ	2012年04月01日～ 現在に至る	看護職の歩みを始めた学生が生涯をとおりて成長できる能力を修得するために自分を 知り、課題解決のために主体的・自律的に行動し、学ぶ態度を身につけることを目的 に新たに開設した科目の責任者として企画・運営を実施した。キャリア教育について の基礎講義と合わせて、個人ワークやグループワークを取り入れ、学生主体の授業展 開とした。自己分析を具体的にするためのワークや先輩の看護師や学生の話からイ メージをもてるような機会を設定した。学生は目指す看護師に向かって自己の課題を 明確にして、1年間の目標を設定し、達成のための活動を計画することができた。
公衆衛生看護学特論演習Ⅰ（大学院）	2013年04月01日～ 2014年03月31日	「実践ヘルスプロモーション」を精読、検討し、PRECEDE-PROCEED MODELを活用して、 実践現場のデータを用いて地域診断を行い、計画立案までのプロセスを検討した。そ れらの結果は、院生が学会で発表した。
在宅看護学Ⅱ	2013年04月01日～ 2015年03月31日	講義において在宅看護過程の基本を確認し、脳血管疾患の事例を用いて、疾患や健康 障害の特徴など基礎的な学習について段階的に自己学習をさせ、グループワークでの アセスメントにつなげていった。グループワークでは、積極的に意見交換をして、疾 患や生活の視点でのアセスメントの不足を検討することができ、計画が立案できた。 また、ロールプレイを行い在宅における看護展開の特徴を実践的に理解し、セルフケ アを促す看護の役割の理解を深めることができた。
公衆衛生看護学特論演習Ⅰ（大学院）	2014年04月01日～ 2015年03月31日	「実践ヘルスプロモーション」を精読、検討し、PRECEDE-PROCEED MODELを活用して、 実践現場のデータを用いて地域診断を行い、計画立案までのプロセスを検討した。そ れらの結果は、院生が学会で発表した。
公衆衛生看護学特論Ⅰ（大学院）	2016年04月01日～ 現在に至る	公衆衛生看護の概念と基盤となる理念について、プレゼンと討議により理解を深め、 保健師活動の特徴とその専門性について考察する。
2 作成した教科書、教材、参考書 「在宅看護の歴史」「感染看護」	2014年03月01日～ 2014年03月01日	在宅看護学授業に活用できる教科書として、在宅看護の歴史（15-19頁）、感染看護 （360-371頁）を開発した。 在宅看護学第4刷増補版（クリティケア）波川京子 三徳和子編集
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 本学大学院で養成する高度専門職業人に共通するコンピテンシー の明確化～両専攻共通科目の提言に向けて～	2013年04月01日	キリスト教を基盤に看護栄養学研究科を設置している「本学の特徴を活かした大学 院修士課程における共通科目の在り方」を検討し、共通科目の内容や教授法の提言、 カリキュラムの検討につなげていくことを目的に特別研究に取り組んだ。 2013年度は、本学研究科修士課程において高度専門職として修得すべき共通のコン ピテンシーを明らかにすることを目的に、文献検討によりコンピテンシー項目の抽 出、FD研修会において本学教員によるグループ討議、アンケートによる専門家調査を 実施し、コンピテンシー項目とカテゴリー案を作成しその結果を本学研究報告会およ び公衆衛生学会で報告した。2014年度は、コンピテンシー項目精選のために、全国調 査を実施し、その結果を分析してコンピテンシー項目を決定した結果を本学研究報告 会で報告した。

4 その他教育活動上特記すべき事項					
日高振興局保健環境部新人保健師等現任研修	2010年04月01日 ～ 2012年03月31日	新人保健師が年間を通して地域アセスメントを実施し「私のまち（担当地区）の健康課題」を明確化する研修に、現任教育の助言者として、企画の助言、経過における指導者への助言等関与している。最終発表日においては、発表の講評を行い「専門職が行う健康課題の抽出についてー健康課題の決定と構造化ー」の講義を実施し、評価のグループワークに参加した。受講者は地域アセスメントの重要性を再認識し、今後の課題を見出していた。			
日高振興局保健環境部新人保健師等現任研修	2012年04月01日 ～ 2015年03月31日	新人保健師研修を新たに3年間のプログラムとして保健所が企画・実施をして現任教育に企画段階からかかわっている。1年目は、地域の基礎情報を収集し、整理・分析して、健康課題を抽出すること、2年目は、1つの健康課題に焦点をあて、健康課題の焦点化と関連要因を分析することを目標に1年間取り組んだ内容について発表した。2013年度は、3年目の研修生が、地域アセスメントに基づき、事業を見直すなど地域の課題解決に必要な活動の計画と評価の視点について報告した。それらの発表について講評し、一連のプロセスを意義づけ、地域に責任を持つ保健師の責任について助言した。また、研修プログラムの評価にも参加した。			
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
在宅看護学第3刷増補版	共著	2012年03月01日	クオリティケア	波川京子 三徳和子編集	在宅看護の歴史 17-21頁，感染看護 310-321頁
在宅看護学第4刷増補版	共著	2014年03月01日	クオリティケア	波川京子 三徳和子編集	在宅看護の歴史 15-19頁，感染看護 360-371頁
在宅看護学第5刷増補新訂版	共著	2016年02月15日	クオリティケア	波川京子 三徳和子編集	在宅看護の歴史8-13頁，感染看護 376-387頁
論文					
The Development of the Guidelines of Public Health Nursing Practice for Promotion of Long-Term Care Prevention Systems	共著	2011年07月01日	THE 2nd JAPAN-KORIA JOINT COFERENCE COMMUNITY HEALTH NURSING	REIKO YOSHIDA, HISAKO IZUMI, KYOKO KATASKURA, KYOKO NAMIKAWA	201～201

介護予防システムを推進する 保健師の活動―活動の現状と 基本属性との関連―	単著	2011年10月01日	日本公衆衛生雑誌 Vol58.No10 第70回日本公衆衛生学会総会抄録集		281～281
介護予防システムを推進する 保健師の活動指標の開発	共著	2012年03月01日	地域看護学会誌vol. 14. No. 2	吉田礼維子, 和泉比佐子, 片倉洋子, 波川京子	5～13
農村部における在宅高齢女性 の食生活および生活の満足に 影響する食行動の要因	共著	2012年03月01日	日本公衆衛生雑誌vol. 59. No. 3	吉田礼維子, 長谷部幸子, 白井英子	151～160
大都市における介護予防事業 に地域の健康課題をどう反映 させるか～PRECEDE-PROCEED MODELを用いた地域診断から の考察～	共著	2012年03月02日	第1回日本保健師学会抄録集	岡島さおり 吉田礼維子 白井英子	137～137
先天性心疾患児を抱える養育 者への育児支援の課題～ PRECEDE-PROCEEDモデルを用 いて～	共著	2012年03月02日	第1回日本保健師学会抄録集	守村里美 吉田礼維子 白井英子	109～109
乳幼児健診における問診の工 夫―事前問診方式を取り入れ た効果について―	共著	2013年01月01日	第1回公衆衛生看護学会学術集会抄 録主	中野知子 阿久津雅子 岩本泉 北山 明子 吉田礼維子	
生活習慣病予備群にある壮年 期男性が生活習慣に保健行動 を組み込む過程	共著	2013年06月01日	日本保健医療行動科学会雑誌 vol. 28. No. 1	小澤涼子, 吉田礼維子, 白井英子	60～70
介護予防システムを推進する 保健師の活動指標の開発	共著	2013年08月01日	第16回日本地域看護学会総会	吉田礼維子, 和泉比佐子, 片倉洋子, 波川京子	5～13
母親が実母から伝承された食 生活と3歳児の食の問題 第1 報実母からの伝承の実態	共著	2013年10月01日	日本公衆衛生雑誌第60巻第10号 第72回日本公衆衛生学会総会抄録集	吉田礼維子 針金佳代子 小澤涼子 白井英子	372～372
母親が実母から伝承された食 生活と3歳児の食の問題 第2 報 実施している事と食問題 の関連	共著	2013年10月01日	日本公衆衛生雑誌第60巻第10号 第72回日本公衆衛生学会総会抄録集	針金佳代子 吉田礼維子 小澤涼子 白井英子	372～372
3歳児の母親が食生活で伝承 され実施していることおよび 家族機能と食生活の問題の関 連	共著	2014年01月01日	第2回日本公衆衛生看護学会学術集 会講演集	針金佳代子 吉田礼維子 小澤涼子 白井英子	93～93

A町小学5年生の生活習慣及び 両親の職業と肥満との関連 —小児生活習慣病検診の結果 より—	共著	2014年01月01日	第2回日本公衆衛生看護学会学術集 会講演集	内村彩華 吉田礼維子 針金佳代子	
保健師の専門性の学びを深める 選択実習の試み：健康なま ちビジョン、計画立案を通し て	共著	2014年10月01日	日本公衆衛生雑誌第60巻第10号 第73回日本公衆衛生学会総会抄録集	吉田礼維子 針金佳代子 小澤涼子 若山好美	554～554
高度専門職業人としての看 護・栄養職に共通するコンピ テンシー項目の作成プロセス	共著	2014年10月01日	日本公衆衛生雑誌第60巻第10号 第73回日本公衆衛生学会総会抄録集	佐藤香苗 吉田礼維子	548～548
北海道における幼児の肥満と 生活習慣との関連	共著	2014年12月01日	第66回北海道公衆衛生学会	内村彩華、針金佳代子、吉田礼維子	30～30
幼児肥満と生活習慣、親の認 識、近隣環境との関連	共著	2015年08月01日	日本地域看護学会第18回学術集会 講演集	内村彩華、針金佳代子、吉田礼維子	78
脳性麻痺と診断される前に NICUを退院した乳幼児を持つ 母親の育児上のニーズ～診断 される前の時期に焦点化して～	共著	2015年08月01日	日本地域看護学会第18回学術集会講 演集	守村里美、吉田礼維子、針金佳代子、 白井英子	213
保健師の専門性の学びを深める 選択実習の成果—健康なま ちビジョン、計画立案をとお して—	共著	2015年08月31日	天使大学紀要No. 15. Vol. 2	吉田礼維子、針金佳代子、若山好美、 小澤涼子	1～13
高度専門職業人としての看 護・栄養職に共通するコンピ テンシー項目の作成	共著	2015年10月15日	日本公衆衛生雑誌	吉田礼維子、佐藤香苗	504
高度専門職業人としての看 護・栄養職に共通するコン ピテンシーの構造	共著	2015年12月	日本民族衛生雑誌	佐藤香苗、吉田礼維子、大久保岩男	
幼児を持つ母親の食生活に関 する世代間伝承第1報実母か ら伝承され実施していること	共著	2016年01月24日	第4回日本公衆衛生看護学会学術集 会講演集	吉田礼維子、針金佳代子、小澤涼子、 白井英子	288
幼児を持つ母親の食生活に関 する世代間伝承第2報母親自 身が大切に実施していること	共著	2016年01月24日	第4回日本公衆衛生看護学会学術集 会講演集	針金佳代子、吉田礼維子、小澤涼子、 白井英子	289

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2010年04月01日 ～ 2017年03月31日	日高振興局保健環境部新人保健師等現任研修
2011年04月01日 ～ 2021年03月31日	日本公衆衛生学会認定専門家
2011年04月01日 ～ 2012年03月31日	手稲高校「学び体験ゼミ」講師
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	手稲高校「学び体験ゼミ」講師
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	北海道薬科大学「看護学概論」非常勤講師
2012年04月01日 ～ 2017年03月31日	北海道公衆衛生学雑誌編集委員・査読委員
2013年04月01日 ～ 2014年03月31日	北海道薬科大学「看護学概論」非常勤講師
2013年06月01日 ～ 2018年05月31日	日本公衆衛生看護学会査読委員
2014年08月01日 ～ 2014年08月31日	全国保健師教育機関協議会第29回夏季教員研修会 分科会の講師を務める「保健師教育の上乗せおよび大学院化に向けて保健師教育の大学院教育推進に向けて戦略について～保健師教育大学院化決定までの検討プロセス～」
2014年12月01日 ～ 2014年12月31日	北海道公衆衛生学会一般演題座長
2014年12月01日 ～ 現在に至る	北海道公衆衛生協会理事
2015年04月01日 ～ 2018年03月31日	日本公衆衛生学会査読委員
2015年12月16日 ～ 2015年12月16日	苫小牧保健所中堅保健師研修会講師

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 准教授	氏名 大野 和美	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)	(表10)	
Ⅰ 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書 ゴードンの機能的健康パターンに基づくアセスメントガイド：成人編		2015年09月01日 ～ 2015年10月14日	成人看護学Ⅲ（看護過程について学習）の講義および演習（グループ学習）、3・4年次の実習で使用するアセスメントガイドを、成人看護学領域の教員で作成し、活用してきたが、今回見直しを行い、学生がより理解しやすく、妥当なアセスメントを導き出せるような内容となるよう修正した。		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 実習指導者研修会における講演「学生の成長を促す実習評価」 天使大学臨地実習指導者研修会 基調講演「アセスメントの展開における学生の理解の現状」 天使大学臨地実習指導者研修会 基調講演「改正カリキュラムとその評価－4年を経過して－」		2011年09月20日 2015年12月02日 2016年11月30日	専門学校北海道保健看護大学校 実習指導者研修会・講師 教育評価の分類と概要、実習評価、成人看護学実習での実践例等について講義を行った。 臨床指導者および教員を対象に、看護過程のアセスメントに対する学生の基礎的な理解状況、実習での展開状況、学生が陥りやすい課題と指導上強化している内容について講義を行った。 臨床指導者および教員を対象に、看護師教育に特化した天使大学2012年度改正カリキュラムで目指したこと、および4年を経過しての評価について報告を行った。		
4 その他教育活動上特記すべき事項					
Ⅱ 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					

看護学事典 第2版	共著	2011年07月25日	日本看護協会出版会	総編集：見藤隆子，小玉香津子，菱沼典子	14頁，34頁，36頁，44頁，52頁，58頁，76頁，80頁，87頁
論文					
末梢動脈疾患患者から見た心血管イベントー鍵となるリスク認識	単著	2011年07月01日	ベストナース 第22巻 第7号		51～53
末梢動脈疾患患者の初回血行再建術施行後の再開塞の実態と関連要因について	単著	2012年09月23日	第9回日本循環器看護学会学術集会抄録集		90～90
維持期の心臓リハビリテーションを継続できている患者の参加理由・継続理由の検討	共著	2014年10月04日	第11回日本循環器看護学会学術集会抄録集	◎及川玲子，吉岡尚美，大野和美	63～63
成人看護学臨地実習における専門・認定看護師等同行実習での学び	共著	2014年11月29日	第34回日本看護科学学会学術集会講演集	◎大野和美，臺野美奈子，坂野恵子，柴田和恵，前田明子	430～430
成人看護学臨地実習における外来看護体験実習での学生の学び	共著	2014年11月29日	第34回日本看護科学学会学術集会講演集	◎柴田和恵，大野和美，臺野美奈子，坂野恵子，前田明子	403～403
成人看護学臨地実習における専門・認定看護師等同行実習での学び	共著	2015年08月31日	天使大学紀要 第15巻 第2号	◎大野和美，臺野美奈子，坂野恵子，柴田和恵，前田明子	15～29
成人看護学臨地実習における外来看護体験実習での学び	共著	2015年08月31日	天使大学紀要 第15巻 第2号	◎柴田和恵，大野和美，臺野美奈子，坂野恵子，前田明子	41～53
神経難病患者の在宅療養への円滑な移行を可能にする熟練看護師の実践	共著	2015年12月06日	第35回日本看護科学学会学術集会講演集	◎坂野恵子，大野和美	578～578
腫瘍が自壊した状態で進行乳がんと診断された患者の体験（第一報）－受診前の体験に焦点を当てて－	共著	2016年12月10日	第36回日本看護科学学会学術集会講演集	◎中洞真理子，大野和美	203～203
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

2012年03月17日 ～ 2012年03月17日	第76回日本循環器学会学術集会 ラウンドテーブルディスカッション2【末梢動脈疾患に対する包括的リハビリテーション普及に向けて】－看護師の立場から－ 演者「末梢動脈疾患患者の心血管疾患に関するリスク認識と健康行動」
2012年04月01日 ～ 2012年12月31日	市立札幌病院 看護職員研究指導
2012年07月15日 ～ 2012年07月15日	第18回日本心臓リハビリテーション学会学術集会 シンポジウム8【PADのリハビリテーション】演者「PAD患者の心血管疾患に関するリスク認識」
2012年11月09日 ～ 2012年11月09日	愛心メモリアル病院 研究報告会 講師（講評）
2012年12月08日 ～ 2012年12月08日	北海道看護協会札幌第4支部 平成24年度看護研究発表会 基調講演「臨床における看護研究」講師
2013年02月04日 ～ 2013年02月04日	市立札幌病院看護職員研修 看護研究発表会 講師（講評）
2013年04月01日 ～ 2014年03月31日	日本循環器看護学会誌（和文）専任査読委員
2013年06月06日 ～ 2013年06月06日	愛心メモリアル病院 「看護研究に関する学習会」講師
2013年06月20日 ～ 2013年06月20日	愛心メモリアル病院 「看護研究に関する学習会」講師
2013年07月01日 ～ 2014年03月31日	愛心メモリアル病院 看護職員研究指導
2013年08月08日 ～ 2013年08月08日	KKR札幌医療センター斗南病院 「看護診断に関する研修会」講師
2013年08月23日 ～ 2013年08月23日	KKR札幌医療センター斗南病院 「看護診断に関する研修会」講師
2013年11月08日 ～ 2013年11月08日	愛心メモリアル病院 研究報告会 講師（講評）
2013年11月11日 ～ 2013年11月11日	市立札幌病院 平成25年度看護職員研修 看護研究指導
2014年02月01日 ～ 2014年02月28日	市立札幌病院 平成25年度看護職員研修 看護研究指導
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	愛心メモリアル病院 看護職員研究指導
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	日本循環器看護学会誌（和文）専任査読委員
2014年05月01日 ～ 2014年12月31日	市立札幌病院 看護職員研究指導
2014年11月14日 ～ 2014年11月14日	愛心メモリアル病院 研究報告会 講師（講評）
2015年02月09日 ～ 2015年02月09日	市立札幌病院 平成26年度看護職員研修 看護研究発表会 講師
2015年04月01日 ～ 2016年03月31日	愛心メモリアル病院 看護職員研究指導

2015年04月01日 ～ 2016年03月31日	日本循環器看護学会誌（和文）専任査読委員
2015年11月13日 ～ 2015年11月13日	愛心メモリアル病院 研究報告会 講師（講評）
2016年04月01日 ～ 2017年03月31日	愛心メモリアル病院 看護職員研究指導
2016年10月22日 ～ 2016年10月22日	第13回日本循環器看護学会学術集会 一般演題：口演5「精神的ケア」座長
2016年11月11日 ～ 2016年11月11日	愛心メモリアル病院 研究報告会 講師（講評）
2016年11月26日 ～ 2016年11月26日	北海道看護協会札幌第4支部 平成28年度看護研究発表会 基調講演「臨床における看護研究」講師
2016年12月02日 ～ 2017年01月16日	札幌医科大学「札幌保健科学雑誌」査読者
2017年01月18日 ～ 2017年01月18日	北海道大野記念病院 看護師研修会 講義「看護研究Ⅰ」講師
2017年03月29日 ～ 2017年03月29日	北海道大野記念病院 看護職員研究指導

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

(表10)

所属 看護学科	職名 准教授	氏名 柴田 和恵	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
看護実践能力の育成		2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	成人看護学Ⅳの演習において、成人看護学臨地実習Ⅱとの連動を意識し、術前アセスメント（サージカルリスクの査定）と術当日の看護計画立案、ならびに術直後のフィジカルアセスメントを事前自己学習課題やGWによる共有学習、実習記録用紙の活用・工夫を試み、関連させた学習を試みた。
主体的学習を促進する教材開発・学習方略の工夫		2015年 ～ 現在に至る	成人看護学Ⅳにおいて、術後の早期離床の支援について個人ワークとグループワーク、ロールプレイングを用いて、自ら考える授業展開を工夫した
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
		2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	実習調整委員会活動の一環として、看護学生の医療事故へのリスク感性向上の一助となるよう実習全体オリエンテーション時にイラストを用いた危険予知トレーニング（KYT）を企画・実施した（3年生と4年生）。学生の感想・意見の記述から、医療事故防止に対する意識向上につながる成果が確認された。
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称
			編者・著者名 （共著の場合のみ記入）
著書			該当頁数

2013年度看護師国家試験対策 出題傾向がみえる基礎看護学	共著	2012年11月01日	ピラールプレス	◎高橋ゆかり・柴田和恵	要点編 18頁-100頁
2014年度看護師国家試験対策 出題傾向がみえる基礎看護学	共著	2013年08月01日	ピラールプレス	◎高橋ゆかり・柴田和恵	要点編 16頁-109頁
2014年度看護師国家試験対策 出題傾向がみえる成人看護学 上	共著	2013年11月01日	ピラールプレス	◎高橋ゆかり・柴田和恵・片貝智恵	要点編 18頁-85頁
2014年度看護師国家試験対策 出題傾向がみえる成人看護学 下	共著	2013年12月01日	ピラールプレス	◎高橋ゆかり・柴田和恵・片貝智恵	要点編 128頁-194頁
2014年度看護師国家試験対策 出題傾向がみえる疾病の成り 立ちと回復の促進	共著	2013年12月01日	ピラールプレス	◎高橋ゆかり・柴田和恵・片貝智恵	要点編 18頁-54頁, 146頁-161 頁
2015年度看護師国家試験対策 出題傾向がみえる疾病の成り 立ちと回復の促進	共著	2014年04月01日	ピラールプレス	◎高橋ゆかり・柴田和恵・片貝智恵	要点編 19頁-55頁, 147頁-162頁
2015年度看護師国家試験対策 出題傾向がみえる基礎看護学	共著	2014年07月01日	ピラールプレス	◎高橋ゆかり・柴田和恵	要点編 16頁-137頁
2015年度看護師国家試験対策 出題傾向がみえる成人看護学 上	共著	2014年09月01日	ピラールプレス	◎高橋ゆかり・柴田和恵・片貝智恵	要点編 18頁-86頁
2015年度看護師国家試験対策 出題傾向がみえる成人看護学 下	共著	2014年10月01日	ピラールプレス	◎高橋ゆかり・柴田和恵・片貝智恵	要点編 129頁-195頁
論文					
成人看護学看護過程演習の評 価 ―自己評価による学習 到達度と授業評価アンケート より―	共著	2011年06月01日	天使大学紀要第11巻	柴田和恵、前田明子、大野和美、白石 直美、大道梨乃	29頁～37頁
看護学生の職業的アイデン ティティの形成 - 年次の特徴 -	共著	2012年08月01日	第22回日本看護学会教育学会学術集会	柴田和恵、古市清美、高橋ゆかり、本 江朝美、鹿村真理子	208頁～208頁
臨床看護師の自己肯定感と ハーディネスおよびSense of Coherenceとの関連	共著	2013年04月01日	第43回日本看護学会論文集―看護管 理	高橋ゆかり、本江朝美、柴田和恵、古 市清美	371頁～374頁

看護職者のためのストレスマネジメントスキル尺度の構造と信頼性・妥当性の検討	共著	2013年08月01日	第23回日本看護学教育学会学術集会	高橋ゆかり、本江朝美、柴田和恵	235頁～235頁
看護学性のストレスマネジメントスキルと日常生活スキルおよび自己肯定感との関連	共著	2013年08月01日	第39回日本看護研究学会学術集会 日本看護研究学会雑誌 VoL36, No3	高橋ゆかり、本江朝美、柴田和恵	340頁～340頁
看護学生のストレスマネジメントスキルとストレス耐性およびストレス対処との関連	共著	2013年12月01日	第33回日本看護科学学会学術集会講演集	高橋ゆかり、本江朝美、柴田和恵、市村路子	626頁～626頁
看護学生および看護師における批判的思考態度と文化的自己感との関連	共著	2014年08月23日	第40回日本看護研究学会学術集会 日本看護研究学会雑誌 voL37, No3	高橋ゆかり、本江朝美、柴田和恵	208頁～208頁
成人看護学臨地実習における外来看護体験実習での学生の学び	共著	2014年11月01日	第34回日本看護科学学会学術集会	柴田和恵、大野和美、臺野美奈子、坂野恵子、前田明子	403頁～403頁
成人看護学臨地実習における専門・認定看護師同行実習での学び	共著	2014年11月01日	第34回日本看護科学学会学術集会	大野和美、臺野美奈子、坂野恵子、柴田和恵、前田明子	430頁～430頁
成人看護学臨地実習における外来看護体験実習での学生の学び	共著	2015年08月01日	天使大学紀要15(2)	柴田和恵、大野和美、臺野美奈子、坂野恵子、前田明子	41～53
成人看護学臨地実習における専門・認定看護師等同行実習での学び	共著	2015年08月01日	天使大学紀要15(2)	大野和美、臺野美奈子、坂野恵子、柴田和恵、前田明子	15～29
実習直前での危険予知トレーニング(KYT)の試みー看護学生の危険予知の実態第1報	共著	2015年09月01日	第46回日本看護学会学術集会ー看護管理	柴田和恵、田中さおり、小澤涼子、那須典政	345
実習直前での危険予知トレーニング(KYT)の試みー看護学生の危険予知の実態第2報	共著	2015年12月01日	第35回日本看護科学学会学術集会	田中さおり、柴田和恵、小澤涼子、那須典政	265
実習直前の危険予知トレーニング(KYT)の試みー実習修了後の危険予知に対する意識の学年比較	共著	2015年12月01日	第35回日本看護科学学会学術集会	小澤涼子、柴田和恵、田中さおり、那須典政	266
III 学会等および社会における主な活動					
2008年05月01日 ～ 2012年05月31日		北海道看護協会 学会委員会委員			

2011年05月27日 ～ 2011年05月27日	平成23年度 北海道看護研究学会 運営協力員
2011年11月10日 ～ 2011年11月10日	北海道看護協会第4支部 看護過程研修会 講師
2012年02月20日 ～ 2012年03月23日	平成24年度 北海道看護研究学会 論文査読・指導
2012年05月27日 ～ 2012年05月27日	平成24年度 北海道看護研究学会 運営協力員
2013年04月01日 ～ 2013年09月30日	北海道文教大学非常勤講師
2015年10月01日 ～ 現在に至る	天使病院院内看護研究指導
2016年05月31日 ～ 現在に至る	国家公務員共済連合会斗南病院看護研究研修会 講師

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

(表10)

所属 看護学科		職名 准教授		氏名 高橋 順子		大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
1) グループワークの活性化と学びの深化を目指した演習の導入 (2014年度末授業評価において総合評価3.7/4.0)				2014年09月01日 ~ 2014年12月31日		「高齢者看護活動論Ⅰ」(高齢者看護学、2年次配当、半期、必修1単位において演習を実践した。具体的には、グループワークを活性化することを目指し、シミュレーションゲームを導入した少人数制(5~6人)のグループワークを実施した。その結果ディスカッションが活性化し、学生たちの反応から学びの深化が確認された。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) 清拭のデモンストレーションDVD				2014年09月01日 ~ 2014年12月31日		「高齢者看護活動論Ⅰ」(高齢者看護学、2年次配当、半期、必修1単位において清拭のデモンストレーションDVDを作成した。片麻痺のある高齢者への更衣並びに部分清拭のデモンストレーションを、高齢者の自立を高める援助内容を網羅したオリジナルの教材として作成した。	
2) グループワークを活性化するためのシミュレーションゲームを取り入れた教材(再掲)				2014年09月01日 ~ 2014年12月31日		「高齢者看護活動論Ⅰ」(高齢者看護学、2年次配当、半期、必修1単位においてカード教材を作成した。選択するカードによって患者発言が異なるゲーム性の高い教材であり、学生の主体的能動的演習参加を目指した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	
著書							

論文					
認知症高齢者を介護する配偶者の感情に関する研究-バーンアウトスケールによる検討-	共著	2011年08月01日	日本看護研究学会題37回学術集会プログラム及び内容要旨	◎高橋順子, 眞鍋知子, 山本道代	頁335～335
健康維持と青年期の体力との関連	共著	2011年08月01日	日本看護研究学会題37回学術集会プログラム及び内容要旨	眞鍋知子, ◎高橋順子	頁166～166
老年看護コミュニケーション演習の効果-シミュレーションゲームの導入による学生の学び-	共著	2012年07月01日	日本老年看護学会第17回学術集会抄録集	◎高橋順子, 眞鍋知子	頁96～96
北海道の過疎地域における高齢者の生活機能に関する現状と課題-生活機能の概要(第一報)-	共著	2013年06月01日	日本看護老年学会第18回学術集会抄録集	◎高橋順子, 深澤圭子, 納谷知里	頁88～88
北海道の過疎地域における高齢者の生活機能に関する現状と課題-過疎地記域高齢者の主観的幸福感(第二報)-	共著	2013年06月01日	日本看護老年学会第18回学術集会抄録集	納谷知里, 深澤圭子, ◎高橋順子	頁186～186
認知症高齢者を介護する配偶者の介護継続意思を支える要因-配偶者特有の認識-	共著	2013年09月01日	看護総合科学研究会誌15(1)	◎高橋順子, 眞鍋知子	頁3～14
Home health care for terminally ill elderly patients with dementia in Japan:A literature review.	共著	2014年02月01日	17th EAFONS conference	◎高橋順子, 眞鍋知子, 深澤圭子, 納谷知里	頁25～25
Health maintenance factors associated with lifestyle disease prevention.	共著	2014年02月01日	17th EAFONS conference	眞鍋知子, ◎高橋順子, 櫻井裕	頁44～44
老年看護学におけるコミュニケーション演習の効果-シミュレーションゲーム導入による学生の学び-	共著	2014年03月01日	札幌保健医療大学紀要1	◎高橋順子, 眞鍋知子, 山本道代	頁3～15

生活機能に焦点をあてた認知症高齢者の視聴覚教材の作成と看護過程演習への活用に向けての課題の検討	共著	2014年03月01日	札幌保健科学雑誌(3)	木島輝美, 安川揚子, ◎高橋順子, 奥宮暁子	頁35～42
在宅認知症高齢者のターミナルケアに関する文献検討-看護師の役割に焦点をあてて-	共著	2014年05月01日	日本認知症ケア学会誌第15回認知症ケア学会大会 プログラム・抄録集	◎高橋順子, 眞鍋知子	頁297～297
The peak time and the peak value of the postprandial glucose among healthy subjects in Japan	共著	2014年08月01日	8th ICN INP/APNN conference 2014	眞鍋知子, 原美弥子, ◎高橋順子, 桶貝繁香, 田中初枝, 櫻井裕	
臨地実習における学生の認識・行動の変容と教授活動-実習目標達成に向けた教授活動の分析-	共著	2014年08月01日	日本看護学教育学会第24回学術集会講演集	◎高橋順子, 林裕子, 眞鍋知子	頁118～118
大学の理念に基づく看護学教員養成課程におけるカリキュラム評価に関する研究	共著	2014年08月01日	日本看護学教育学会第24回学術集会講演集	眞鍋知子, 松田安弘, ◎高橋順子	頁203～203
高齢者看護学における「観察強化のプログラム」の導入とその効果	共著	2014年11月01日	第18回看護総合科学研究会学術集会	◎高橋順子, 林裕子, 眞鍋知子	頁10～10
介護職の看取りに対する態度と勤務継続の関連性の検討-縦断調査による介護職継続群と脱落群の比較検討より-	共著	2015年06月06日	第26回日本老年医学会北海道地方会	山本道代, 大西浩文, 山本武志, ◎高橋順子他	
高齢者コミュニケーション演習による臨地実習への効果	共著	2015年06月13日	第20回日本老年看護学会学術集会抄録集	◎高橋順子, 山本道代, 眞鍋知子他	頁142～頁142
特別養護老人ホームにおける介護職の看取りに対する態度の経時的変化	共著	2015年06月13日	第20回日本老年看護学会学術集会抄録集	山本道代, 山本武志, ◎高橋順子	頁256～頁256
特別養護老人ホームにおける介護職の看取りに対する態度のへかと看取りの経験との関連	共著	2015年08月09日	日本保健医療福祉連携教育学会抄録集	山本道代, 大浦麻絵, ◎高橋順子他	頁49～頁49

認知症高齢者の日常生活機能に焦点を当てた視聴覚教材の活用と評価-自由記載分析-	共著	2015年08月22日	第25回日本看護学教育学会学術集会抄録集	木島輝美, ◎高橋順子他	頁211～頁211
成人期にある健常者の食行動と血糖値の変化	共著	2015年08月22日	日本看護研究学会第41回学術集会抄録集	眞鍋知子, ◎高橋順子他	頁132～頁132
認知症高齢者の日常生活機能に焦点をあてた視聴覚教材の使用評価-生活機能の学生理解-	共著	2015年08月22日	研究学会	◎高橋順子, 木島輝美他	頁205～頁205
認知症高齢者の日常生活機能に焦点をあてた視聴覚教材の評価-看護学生の認知症の程度と援助必要度の認識-	共著	2016年08月23日	日本看護学教育学会第26回学術集会	高橋順子, 木島輝美, 眞鍋知子, 安川揚子, 奥宮暁子	236～236
観察強化プログラムを用いた老年看護学実習への効果		2016年12月26日	天使大学紀要17(1)		1～11
職業経験年数の違いによる介護職の看取りに対する思い	共著	2016年12月27日	北海道科学大学研究紀要42	山本道代, 高橋順子, 大浦麻絵	1～7
III 学会等および社会における主な活動					
2013年05月01日 ～ 2014年09月30日		独立行政法人北海道医療センター看護研究研修講師			
2013年10月01日 ～ 現在に至る		東苗穂病院看護研究講師			
2014年02月01日 ～ 現在に至る		NPO法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク第21回全国の集いin北海道 2015の実行委員			
2014年07月01日 ～ 現在に至る		一般社団法人日本看護研究学会北海道地方役員			
2015年04月01日 ～ 現在に至る		看護総合科学研究会評議員			

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 准教授	氏名 谷 規久子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
2 作成した教科書、教材、参考書			
介護福祉士養成テキストブック		2013年03月01日 ～ 2013年03月31日	今後の認知症施策の方向性や認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）等の最新の認知症の施策を担当した。
看護師認知症対応能力向上研修テキスト		2013年03月01日 ～ 2013年03月31日	医療・介護サービスを担う人材の育成の取り組みである一般病院勤務の医療従事者に対する認知症対応力向上研修時に使用するテキストとして認知症に関する知識、身体面の特徴を担当した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
栃木県矢板市教育委員会 やいたみんなのつどい実行委員会		2012年02月01日	一般市民、80人、いざという時の備え（減災）をみんなで考えよう、講師として震災の備えについて基調講演を行った。
栃木県教育委員会県民カレッジ防災学習推進事業		2012年10月01日	一般市民70人、もっとよく知ろう！わが家の防災・減災～天災は忘れた頃にやって来る～、講師として震災の備えについて基調講演を行った。
栃木県看護協会北支部研修会		2012年10月01日	地域の病院や施設の看護職、60人、認知症の人とかかわるために、認知症に関する最新の情報や看護について講義を行った。
日本老年看護学会生涯学習支援委員会		2013年10月01日	受講者30人、基礎編①高齢者の理解と援助への活用、高齢者の心身を捉える視点と評価方法、高齢者のみかた、アセスメント等の講義を行った。
厚生労働省 国別研修タイ「ケアマネジメント研修」		2014年07月01日	高齢者の認知症に関する基本的な知識と対応について講義を行った。
厚生労働省 国別研修タイ「ケアマネジメント研修」		2014年09月01日	高齢者の認知症に関する基本的な知識と対応について講義を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項			
栃木県看護協会		2009年04月01日 ～ 現在に至る	ファーストレベル研修、講師として看護業務基準、看護倫理の講義、演習を行っている。

老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進事業、認知症地域支援推進員研修における効果的な人材育成のあり方に関する研究		2012年06月01日 ～ 2013年03月31日	研修、企画、実施、評価の報告書を作成した。		
老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進事業、認知症地域支援推進員研修における効果的な人材育成のあり方と認知症地域支援推進員の活動体制の構築に関するに関する研究		2013年06月01日 ～ 2014年03月31日	研修、企画、実施、評価の報告書を作成した。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
高齢者看護すぐに実践ナビ	共著	2013年03月01日	MCメディカ出版	岡本充子・西山みどり・塩塚裕子・田中久美・高梨早苗他	pp109～125、pp180～188
介護福祉士養成テキストブック	共著	2013年03月01日	ミネルヴァ書房	本間昭・井上千鶴子・澤田信子・白澤正和・児玉恵子他	pp142～159（再掲）
看護師認知症対応能力向上研修テキスト	共著	2013年05月01日	東京都福祉保健局高齢社会対策部	湯浅美千代・桑田美代子・山元智穂他	pp17～27（再掲）
認知症ケア最前線－理論と実践－	共著	2014年06月01日	ぱーそん書房	長谷川和夫・本間昭・永田久美子・今井幸充・繁田雅弘・加藤伸司他	pp13～28
総特集老人看護専門看護師の実践にみる！ エンド・オブ・ライフを見据えた“高齢者看護のキホン” 100	共著	2015年03月15日	日本看護協会出版会	桑田美代子・岡本充子・吉岡佐知子・西山みどり他	pp026～027
生活機能からみた老年看護過程+病態・生活機能関連図	共著	2016年11月01日	医学書院	山田律子・萩野悦子・内ヶ島信也・井出訓	p p 409～423
認知症ケア用語辞典	共著	2016年11月01日	株式会社ワールドプランニング	一般社団法人日本認知症ケア学会認知症ケア用語辞典編集委員会	
論文					
看護実践能力強化プログラムの実施と評価 第1報－介入プログラム前後の比較－	共著	2011年12月01日	第33回日本看護科学学会学術集会	村松由紀・大野明美・重久加代子・松本郁子・谷規久子・塩澤百合子・瀬戸口まゆみ・福島道子	
認知症ケア最前線	単著	2013年04月01日	株式会社QOLサービス		

からだの科学	共著	2013年06月01日	日本評論社	山田正仁・熊谷亮一・新井平伊・本間昭・山口晴保・藤本直規他	pp128～136
平成23年度認知症地域支援推進員の活動の現状と課題	単著	2013年12月01日	第35回日本看護科学学会学術集会		pp599～599
ステージ別認知症ケアの現状と課題	単著	2014年01月01日	高齢者安心安全ケア実践と記録 日総研出版		pp46～50
総特集 老人看護専門看護師の実践にみる！エンド・オブ・ライフを見据えた 高齢者看護のキホン100 看護管理者と創る超高齢者社会に求められる看護	共著	2015年03月01日	日本看護協会出版会	桑田美代子・岡本充子・藤田冬子・得居みのり・吉岡佐知子・西山みどり・兼田美代・森山祐美・塩塚優子・松本佐知子・鈴木真理子・田中久美・田中和子・高道香織・高梨早苗・鶴屋邦江・花房由美子・直井千津子・山元智穂・山下由香・齋田綾子他	pp026～027
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
1978年04月01日 ～ 現在に至る	日本看護協会正会員				
1997年10月01日 ～ 現在に至る	日本老年看護学会正会員				
1997年10月01日 ～ 現在に至る	日本看護科学学会正会員				
2005年10月01日 ～ 現在に至る	日本専門看護師協議会正会員				
2009年04月01日 ～ 現在に至る	栃木県看護協会非常勤講師				
2009年04月01日 ～ 2012年03月31日	群馬大学大学院保健学研究科非常勤講師				
2011年06月01日 ～ 現在に至る	日本認知症ケア学会評議員				
2012年04月01日 ～ 2014年04月30日	認知症ケア事例ジャーナル編集委員				
2012年04月01日 ～ 2014年03月31日	東京都認知症介護研修カリキュラム等検討委員				
2012年04月01日 ～ 2014年03月31日	東京都看護師認知症対応能力向上研修委員				
2012年04月01日 ～ 現在に至る	東京都看護師認知症対応能力向上研修ワキング				
2014年07月01日 ～ 現在に至る	山梨大学大学院医学工学総合教育部大学院非常勤講師				
2015年07月01日 ～ 2016年03月31日	独協医科大学大学院看護学研究科非常勤講師				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 准教授	氏名 針金 佳代子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2013年10月01日 ～ 2015年01月31日	科目：家族看護学（2年後期 必須1単位15時間） 2012年カリキュラムの改善点である実践力の強化、主体的な学習行動・判断力を育成することをねらい工夫した。在宅看護学領域の事例を用いて家族看護学の理論をベースに、ゴードン機能的パターンの家族の役割・関係パターンをアセスメントする力および家族とのパートナーシップを形成する技術の修得をゼミ指した授業を展開した。さらその事例への看護について、学生間でバズセッションを行った後に、学生主体で事例検討を行った。また授業の開始時は、前回の授業への学生からの質問を学生間で意見交換をしながら整理していく方法を用い、学生が主体的に授業を創り上げているという認識がもてるように展開した。最終講義の出席ガードに学生が記載した感想の抜粋：「『学び』とは本来どうあるべきか成人してやっと本当の意味を教えてもらった」「初めは理論ばかりでよく判らなかったが、事例検討を通して面白いなと思った。復習したい」「家族は第2の患者であることがよく判った」「自分の家族を大切にしたい」「祖母のお見舞いに行ったとき、看護師が冷たかった理由が分かった」などであった。試験は理論を用いたアセスメント力を問う設問も含めて、国家試験レベルの出題をしたが、再試験はいなかった。 2014年度は、上記内容に、家族の生活、家族のライフステージ別健康課題、地域ケアシステムにおける家族と医療機関の位置づけについて強化した。最終講義の出席ガードに学生が記載した感想の抜粋：「家族看護は学べば学ぶほど面白いと実感した」「本当に楽しかった。元気が出た」「家族を理解するためにも社会問題に関心をもたなければならない」「春休みを利用して色々な本を読んでみようと思った」「理論の大切さが少しわかった」「自分の家族を客観的に見つめてみようと思った」「来年の実習に活かしたい。もっと学びたい」さまざまな視点からの、前向きな感想が寄せられた。
ヘルスプロモーション活動論一厚真町の保健師活動を学びに行こう（現地学習）		2015年11月26日 ～ 現在に至る	地域で展開されるヘルスプロモーション活動の実際を学び、個人・家族、集団、組織、地域を対象として、地域で生活する人々の健康レベルの向上のために行われる看護について理解を深めることを目的として、厚真町の保健師活動の実際を見学した。介護予防や健康づくり事業に参加し、住民の方々から健康や生活についてお聞きしたり、支援の一部を経験することを通し、住民のQOLを高めるための看護の意味を学ぶとともに、その責任とやり甲斐を実感していた。看護師志望の学生は、地域包括ケアの推進との関係から、施設内の看護師の役割や課題について考察する機会になっていた。どこまでも諦めないしつこい看護について、深く感動していた。

）大学院保健師コース 公衆衛生看護学原論 利尻島における現地学習	2016年06月12日 ～ 2016年06月14日	北海道本島の他の過疎地域では学習することができない地域医療の現状と課題、そのことを踏まえ公衆衛生および公衆衛生看護の役割・機能そして専門性の本質的意味を入学後の早期において離島において学習することは、その後の学習の基盤となり、北海道に働く保健師としての責任を実感し、保健師のアイデンティティの基盤を形成することができと考え、利尻島で現地学習を実施した。 「生きるとは、生活とは、人生とは」というテーマで住民の方々にインタビューを行い、町内の地区踏査も実施する。大都市での生活しか経験がない院生にとって、限界集落を抱える町の現状やそこで生きる人々の覚悟、それを支える行政、そして専門職としての保健師の責務を具体的にかつ衝撃的に学んでいた。保健師のイメージを根幹から問い直す経験になっていた。
家族看護継続実習、 公衆衛生看護展開実習、 公衆衛生看護管理実習Ⅰ	2016年08月28日 ～ 2017年02月28日	大学院において公衆衛生看護の専門性を実践的に学ぶ3つの実習に関する企画・運営・評価の役割を担う。 院生は、家族看護継続実習においては家族看護理論を用いて地域で子育てをする家族の理解や的確な看護技術の活用の重要性など、さらに地域の特徴を踏まえた家族の発達支援について継続的に学んでいる。また公衆衛生看護展開実習では、研究的な視点をもって地域の健康課題の抽出、地区活動計画を立案するために、統計的手法をもちいて量的に分析したり、住民や専門職種、行政関係者から質的データを収集しながら分析し、新しい地区活動を見出していた。将来の自治体の健康課題の解決に向け、住民と共に多職種と連携・協働しながらまちづくりをしていくプロセスにおいて保健師の専門性について学んでいた。修士2年目に開講予定の公衆衛生看護管理実習Ⅱ（ねらい：政策化・施策化の実践的能力の開発）の実習に向けて同様の役割を担う。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2013年10月01日 ～ 2013年10月31日	地域看護学実習Ⅱ：地域看護学実習において、実習町の健康課題を解決するために、システム理論ベースに専門職間での連携方法のついて教授し、小学校との連携が図れるように指導した。保健師・栄養士に窓口になってもらい、学生主体で小学校（校長、栄養教諭）との連携を取り、それまで実現が難しかった連携システムを創る糸口を形成した。小学校と町の間で検討が開始された。

社会の要請に応じて進化する大学の教育と人材育成—建学の精神に基づき多様な学生を育てる— 大学で学ぶということ 国民投票権を持つ君たちへの憲法授業 生き方としての性（生）を見つめる—大学生の性的自律の目標は…	2014年04月01日 ～ 2014年07月31日	栄養看護演習：栄養学科と看護学科合同で展開する栄養看護演習のカリキュラムの原案を提示し、担当教員間で検討した。演習への基礎講義として、専門職の概念、管理栄養士・看護職の法的根拠と倫理観、システム理論をベースに、保健医療福祉チームの概念、チーム医療の概念、背景や根拠、専門職間での連携協働の倫理と技術、大学における専門職教育の課題について、オリジナルな内容の講義を組み立て授業を担当した。
	2014年10月01日 ～ 2015年01月31日	ヘルスプロモーション活動論：ヘルスプロモーションの基礎理論を踏まえ、教員が教材化した北海道の実際の保健師活動を用いて、格差社会におけるソーシャルキャピタルの意味やその必要性を、世界的な動向の中で理解できるように展開した。その理念や理論を基に、健康学習支援の企画・技術まで一連の教授し、実践的な学びを体験させるために、東区健康フェスティバルの参加を促した。学生13名がボランティアとして参加し、健康教育を行った。学生は、住民に寄り添う意味や学習支援のプロセスを学んでいた。
	2015年04月03日 ～ 現在に至る	4月第1回目のアッセンブリーアワーにおいて、朝日新聞の特集記事を活用し、社会が求める学生そして教育の責任について説明し、主体的に学ぶとは、何のために学ぶのか、社会と自己の繋がりをなどを認識し、学習姿勢を見直すことができることをねらった。学生は、卒業までのスケジュールを確認し、生活そして学習への向き合い方を見直す機会になったと考える。
	2015年06月16日 ～ 現在に至る	アッセンブリーアワーにおいて、毎日新聞の特集の記事を教材に、自分たちの生活と憲法の関連について、またカトリック大学で学び意味について話し合う。多くの学生は憲法制定の歴史や世界に誇れる我が国の憲法の特徴について理解していなかった。医療を行う上での憲法の位置付けについても話し合い、自らの意思で国政に参加する責任について確認しあった。
	2016年01月20日 ～ 現在に至る	自律した人間として、また思慮ある女性として成長していくために、アッセンブリーアワーにおいて、カトリック教会から刊行されている資料なども活用し、3年生学生支援教員4名で学生と討論会を開いた。学生間での成長の差は大きい、学生によっては初めて気づく、あるいは考える機会になっていた。何を指して「自律」とするのかを意識し、自分の生活、そして学習への向き合い方を見直すきっかけになっていた。

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
大槻町 保健師による全戸家庭訪問と被災地復興	共著	2012年03月15日	明石書店	村嶋幸代 鈴木るり子 岡本玲子	189頁
家族看護学 改訂第2版	共著	2015年12月20日	南江堂	山崎あけみ 原礼子編集	102頁
家族看護学 改訂第2版	共著	2015年12月20日	南江堂	山崎あけみ、原礼子編集	

論文					
大学で家族看護学を学ぶ意義	共著	2011年06月26日	第18回日本家族看護学学術集会講演集	針金佳代子、白井英子	109～109頁
3歳児をもつ母親の食習慣に関する世代間伝承と家族機能	共著	2011年10月01日	2010年度 明治安田こころの健康財団 通巻第46号 研究助成論文集	針金佳代子、白井英子	68～76頁
青年期にある学生が家族看護学を学ぶ意義	共著	2012年03月31日	天使大学紀要 Vol. 12	針金佳代子、白井英子	15～31頁
3歳児をもつ母親の食習慣に関する世代間伝承	共著	2012年06月23日	第15回日本地域看護学会総会 抄録集	針金佳代子、白井英子	130～130頁
感染症と気象変動の相関構造に関する研究－宮城県における水痘の流行動態を例として－	共著	2012年11月09日	第64回北海道公衆衛生学会総会 抄録集	針金佳代子、鷺見紋子、小林宣道	50～50頁
母親が実母から伝承された食生活と3歳児の食の問題 第1報 実母からの伝承の実態	共著	2013年01月01日	日本公衆衛生雑誌第60巻第10号 第72回日本公衆衛生学会総会抄録集	吉田礼維子 針金佳代子 小澤涼子 白井英子	P372～372
母親が実母から伝承された食生活と3歳児の食の問題 第2報 実施している事と食問題の関連	共著	2013年01月01日	日本公衆衛生雑誌第60巻第10号 第72回日本公衆衛生学会総会抄録集	針金佳代子 吉田礼維子 小澤涼子 白井英子	P372～372
家族の食生活の世代間伝承と家族機能との関連	共著	2013年06月01日	天使大学紀要 Vol. 13	針金佳代子、白井英子	27～39頁
3歳児の母親が食生活で伝承され実施していることおよび家族機能と食生活の問題の関連	共著	2014年01月01日	第2回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集	針金佳代子 吉田礼維子 小澤涼子 白井英子	p 93～93
A町小学5年生の生活習慣及び両親の職業と肥満の関連－小児生活習慣病健診結果より－	共著	2014年01月01日	第2回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集	内村彩華 吉田礼維子 針金佳代子	p 182～182

The role of temperature in reported chickenpox cases from 2000 to 2011 in Japan	共著	2015年01月15日	Epidemiol. Infect., Page 1 of 13. © Cambridge University Press 2015doi:10.1017/S095026881400363X	K. HARIGANE1, A. SUMI2*, K. MISE3 AND N. KOBAYASHI2 1Department of Nursing, Tenshi College, Sapporo, Hokkaido, Japan 2Department of Hygiene, Sapporo Medical University School of Medicine, Sapporo, Hokkaido, Japan 3 Center of Medical Education, Department of Admission, Sapporo Medical University School of Medicine, Sapporo, Hokkaido, Japan	1～13頁
幼児肥満と生活習慣、親の認識、近隣環境との関連		2015年08月01日	日本地域看護学会第18回学術集会講演集		P78
脳性麻痺と診断される前にNICUを退院した乳幼児をもつ母親の育児上のニーズ		2015年08月02日	日本地域看護学会第18回学術集会講演集		P213
保健師の専門性の学びを深める選択実習の試み：健康なまちビジョン、計画立案を通して	共著	2015年10月05日	第73回日本公衆衛生学会総会抄録集	吉田礼維子、針金佳代子、若山好美、小澤涼子	P554
	共著	2016年07月02日			
	単著	2016年07月03日			
中堅保健師が地域を活動の対象と捉える理解とそれに影響する経験	共著	2016年10月28日		第75回 日本公衆衛生学会学術集会講演集	
脳性麻痺児をもつ母親の育児上のニーズー乳幼児期に焦点を当ててー	共著	2017年02月10日	日本地域看護学会誌	守村里美 吉田礼維子 針金佳代子 白井英子	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2011年05月02日 ～ 2011年05月06日	岩手県大槌町住民基本台帳作成ボランティア活動				
2011年05月23日 ～ 2011年05月23日	平成22年度北海道渡島総合振興局保健環境部八雲地域保健室 母子保健技術研修会（管内新任保健師研修会）講師				
2011年06月21日 ～ 2011年06月21日	平成23年度北海道空知総合振興局保健環境部深川地域保健室 管内新任保健師研修会 講師				
2011年07月08日 ～ 2011年07月08日	平成22年度看護教員養成講習会 看護教育方法「家族関係論」講師				

2011年07月27日 ～ 2011年07月27日	平成22年度看護教員養成講習会 看護教育方法「家族関係論」講師
2011年12月26日 ～ 2011年12月26日	平成23年度北海道空知総合振興局保健環境部深川地域保健室 管内新任保健師研修会 講師
2012年03月13日 ～ 2012年03月13日	さっぽろ神経内科クリニック研修会 講師
2012年03月27日 ～ 2012年03月27日	さっぽろ神経内科クリニック研修会 講師
2012年07月10日 ～ 2012年07月10日	北海道看護協会 家族看護研修会 講師
2012年08月17日 ～ 2012年08月17日	北海道深川保健所管内地域保健関係職員初任者研修会 講師
2012年08月27日 ～ 2012年08月27日	看護教員養成講習会 講師
2012年08月29日 ～ 2012年08月29日	看護教員養成講習会 講師
2012年08月30日 ～ 2012年08月30日	看護教員養成講習会 講師
2013年01月08日 ～ 2013年01月08日	北海道看護協会 家族看護研修会 講師
2013年01月08日 ～ 2013年01月08日	北海道深川保健所管内地域保健関係職員初任者研修会 講師
2013年02月20日 ～ 2013年02月20日	江別市養育支援研修会および事例検討会 講師
2013年06月29日 ～ 2013年06月29日	第5回 多発性硬化症（MS）ナースハンズオンセミナー 講師
2013年07月05日 ～ 2013年07月05日	北海道看護協会 家族看護研修会 講師
2013年08月22日 ～ 2013年08月22日	2013年度天使大学・北海道薬科大学連携講座 講師
2013年12月07日 ～ 2013年12月07日	北海道看護協会 2013年度 保健指導ミーティング 講師
2014年01月22日 ～ 2014年01月22日	北海道看護協会 家族看護研修会 講師
2014年03月07日 ～ 2014年03月07日	2013年度 北海道静内保健所地域保健関係職員研修 講師
2014年07月01日 ～ 2014年07月01日	北海道看護協会 家族看護研修会 講師
2014年11月12日 ～ 2015年01月28日	札幌保健医療大学非常勤講師 担当科目「家族看護学」
2014年12月02日 ～ 2014年12月02日	2014年度 第66回北海道公衆衛生学会 映画フォーラム テーマ「地域の当たり前の生活と健康を守ること」～震災で見えた公衆衛生の原点と伝承～
2014年12月06日 ～ 2014年12月06日	北海道看護協会 2014年度 保健指導ミーティング 講師

2015年01月16日 ～ 2015年01月16日	北海道看護協会 家族看護研修会 講師
2015年09月30日 ～ 2015年10月28日	札幌保健医療大学看護学科 家族看護論 講師
2016年01月07日 ～ 2016年01月08日	北海道看護協会 家族看護研修会 講師
2016年01月30日 ～ 現在に至る	北海道看護協会 室蘭支部平成27年度 保健師職能集会 「地域で生活する人々に寄り添う保健指導のために～家族看護の基本を学ぶ」講師
2016年06月01日 ～ 2016年06月02日	公衆衛生に関わる専門家研究会議(中頓別町) 健康づくりセミナー第1回講演会
2016年11月01日 ～ 2017年04月11日	北海道公衆衛生学雑誌編集委員 (現在)
2016年12月03日 ～ 2016年12月03日	看護学生の在宅看護実習における「看護の継続性」の理解 第36回日本看護学会学術集会 東京
2016年12月18日 ～ 2016年12月18日	北海道八雲地域保健室管内地域保健関係職員研修会において講 義「地域で生活する人々に寄り添う保健指導のために」～家族看護の視点から～ 演 習 (グループワーク) 「軽度の認知症 (夫)、被害妄想症状がある (妻) ため、地域での生活が困難な高齢者夫婦が地域で暮らすために」のスーパーバイズを行う。
2017年01月21日 ～ 2017年01月21日	養護者による高齢者虐待の予防にかかる市町村保健師の認識と訪問支援との関連 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会 仙台
2017年01月22日 ～ 2017年01月22日	介護予防システムを推進する保健師の活動の構造 (第1報) —基本属性との関連に焦点をあてて— 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会 仙台 2017. 1. 22
2017年01月22日 ～ 2017年01月22日	介護予防システムを推進する保健師の活動の構造 (第2報) —取り組みを困難にする理由との関連— 第5回日本公衆衛生看護学会学術集会 仙台

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 准教授	氏名 伊藤 治幸	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)				
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
3) 精神看護学への興味を促進するための臨床講義の導入		2009年05月01日 ～ 2015年03月31日	精神看護学実習の中で臨床指導者と教員が連携し学生に精神科臨床におけるトピックや精神科臨床特有の議題について講義を実践した。				
1) アルコール代謝の体質を理解するためのアルコールパッチテストの導入		2010年10月01日 ～ 2015年03月31日	アルコールパッチを用いて、学生自身が自分のアルコール体質を知ること知ることを目的とした行った。加えて、アルコールの代謝過程およびアルコール依存に関する講義を併せて行った。				
2) 精神障害者の理解を促進する当事者参加型の授業の導入		2010年10月01日 ～ 2015年03月31日	授業の中で当事者の体験に基づく講義を実施した。体験の中から、障害を持ちながら地域のなかで生活する苦悩等を語ってもらい精神障害理解のための講義を行った。				
2 作成した教科書、教材、参考書							
1) アルコール依存症の病態理解を促進する資料の作成		2009年04月01日 ～ 2013年03月31日	アルコール依存症の病態理解を促進するための資料を作成した。				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
看護研究における統計の基礎の講義		2014年04月01日	青森県看護協会における看護研究Ⅰ（統計の基礎）の講師				
看護研究における統計の基礎の講義		2015年04月01日	青森県看護協会における看護研究Ⅰ（統計の基礎）の講師				
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							

論文					
Epidemiological Feature of Leukemia in Japan.	共著	2011年	Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology, 21(2)	Tetsu Endo, Juichi Sakamoto, Maki Miyazawa, Koshi Sumigawa, Yoshinobu Chiba, Manabu Hamano, Takashi Nomura, Satoshi Urushidate, Mituhiro Tanaka, Haruyuki Ito, Seikou Ohta, Mutuo Yamada.	138～145
Epidemiological Feature of Breast Cancer in Japan.	共著	2011年	Journal of Physical Fitness, Nutrition and Immunology, 21(2)	Masashi Matuzaka, Kazuma Danjo, Shinichiro Aoki, Haruyuki Ito, Hidehiko Matumoto, Tomohiko Yano, Ayumi Tanimoto, Hidefumi Kamitani, Yuichiro Hirakawa, Tomohiko Ishizaki, Akira Ishikawa, Yasuyuki Ishibashi, Tomomi Katagiri.	83～87
一般地域女性における口腔内環境が骨密度に及ぼす影響	共著	2011年	体力・栄養・免疫学雑誌, 21(3)	高橋一平, 伊藤治幸, 須田芳正, 岩間孝暢, 工藤うみ, 北川直子, 瀬戸尾真梨子, 塚本利昭, 岡本典慶, 梅田孝, 中路重之.	p259～261
地域で生活する統合失調症者の食事摂取状況に関する研究 BMIの違いに焦点を当てて	共著	2011年10月01日	日本ヒューマンケア科学会誌4巻2号	伊藤 治幸, 熊谷 貴子, 清水 健史, 木村 緑, 小池 祥太郎, 手塚 祐美子	p37～37
若年女性の栄養摂取状況と抑うつ症状および酸化ストレスとの関連	共著	2011年10月01日	第70回日本公衆衛生学会総会抄録集	熊谷 貴子, 李 相潤, 伊藤 治幸, 橋本 淳一	p468～468
精神障害者の就労に求められるもの～精神障害者への就労支援を実践している施設職員を対象にして～	共著	2011年11月10日	日本ヒューマンケア科学会誌4巻2号	清水 健史, 伊藤 治幸, 手塚 祐美子, 藤井 博英	p34～34
INFLUENCE OF TRACE ELEMENTS WITHIN NORMAL PHYSIOLOGICAL RANGE ON NEUTROPHIL BASAL REACTIVE OXYGEN SPECIES PRODUCTION IN THE JAPANESE GENERAL POPULATION.	共著	2012年	Hirosaki Med J Vol.63(2)	Haruyuki Ito, Ippei Takahashi, Masashi Matuzaka, Sangun Lee, Kazuyoshi Itai, Shinji Fukui, Naoko Hamada, Yuriko Saito, Takashi Umeda, Shigeyuki Nakaji.	85～95

閉経及び加齢が口腔内環境と骨密度の関に及ぼす影響	共著	2012年02月01日	日本衛生学雑誌67巻2号	高橋 一平, 狭戸尾 真梨子, 北川 直子, 伊藤 治幸, 須田 芳正, 岩間 孝暢, 工藤 うみ, 塚本 利昭, 梅田 孝, 中路 重之	p296～296
地域で生活する統合失調症患者の調理項目に関するニーズ調査 アンケート調査の結果から	共著	2012年10月01日	日本ヒューマンケア科学会誌5巻2号	伊藤 治幸, 熊谷 貴子, 清水 健史, 手塚 祐美子	p125～125
新規に精神看護学実習を受け入れた実習指導者の指導体験	共著	2012年11月01日	第32回日本看護科学学会学術集会講演集	手塚 祐美子, 清水 健史, 伊藤 治幸	p552～552
統合失調症患者の食生活に対する自己効力感尺度の開発	共著	2013年04月01日	文部科学省科学研究費補助金 若手研究 (B)	伊藤治幸	
Nutritional intakes of obese elementary school children residing in the Shimokita Peninsula of Aomori, Japan.	共著	2014年	International Journal of Public Health Science 3(3)	Takak kumagai, Yumiko Nakamura, Emi Naijo, Akiko Sumimoto, Barry Kavanagh, Haruyuki Ito.	195～205
統合失調症患者の就労感に関する研究	共著	2014年03月01日	日本ヒューマンケア科学会誌7巻1号	伊藤 治幸, 清水 健史	p110～111
新規に実習を受け入れた病院スタッフとの連携に関する研究	共著	2014年03月01日	日本ヒューマンケア科学会誌7巻1号	伊藤 治幸, 清水 健史	p58～59
妊婦および同居者の喫煙と5歳児肥満の関連	共著	2014年07月01日	東北公衆衛生学会誌	熊谷 貴子, 真野 由紀子, 伊藤 治幸, 小笠原 メリッサ	p17～17
青森県民の食塩摂取量の推移に関する考察	共著	2015年	厚生 の指標62(13)	熊谷貴子, 伊藤治幸, 真野 由紀子	31～38
Dietary Intake In Body Mass Index Differences In Community-Based Japanese Patients With Schizophrenia.	共著	2015年	Iranian journal of public Health 44(5)	Haruyuki Ito , Takako Kumagai, Midori Kimura, Shotaro Koike, Takeshi Shimizu.	639～645
Pre-School Children Mother's Awareness and Application of the Growth Curve in Japan	共著	2016年	International Journal of Health Sciences Vol.4(2)	Takako Kumagai Haruyuki Ito Yukiko Mano	11～20
健康診査検査値の経年変化の特徴について	共著	2016年10月	日本公衆衛生学会総会抄録集	山田 真司, 熊谷 貴子, 伊藤 治幸	418～418
III 学会等および社会における主な活動					

2011年10月01日 ～ 2011年10月30日	第4回日本ヒューマンケア科学学会学術集会企画・実行委員
2012年06月01日 ～ 2012年06月30日	平成24年度青森県立保健大学公開講座 講師
2012年09月01日 ～ 2012年09月30日	平成24年度青森県アップリートフェスタの企画・展示
2014年05月01日 ～ 2014年05月31日	Villanova Universityとの国際交流事業における受け入れ担当
2014年07月01日 ～ 2014年07月31日	ココかれっじ（NPO法人と青森県立保健大学による子育て支援プロジェクト）における講師
2014年07月01日 ～ 2014年07月31日	「あおもり健康リーダー育成ゼミ」講師（青森市主催）
2014年09月01日 ～ 2014年09月30日	平成26年度社会福祉主事資格認定講習会の講師

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 准教授	氏名 ケネス・ジェラード・スレイマン	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

(表18)

所属 看護学科	職名 講師	氏名 佐々木 雅彦	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
在宅看護学 第4刷増補版	共著	2014年02月17日	クオリティケア	編者：波川京子、三徳和子	第8章
チーム エンド・オブ・ライ フケア 実践テキスト	共著	2014年04月01日	先端医学社	監修：石谷邦彦 編者：平山泰生、小池和彦、長谷川美 栄子、大串祐美子	pp82-89

在宅看護過程演習ーアセスメント・統合・看護計画から実施・評価へー	共著	2015年03月20日	クオリティケア	編著者：上田泉 分担執筆者（五十音順）：青柳道子、岩本幹子、岡田尚美、菊地ひろみ、新藤ゆかり、竹生礼子、照井レナ、横山まどか	pp147-163
論文					
訪問看護における必須となるアセスメント項目の分析 在宅看護分野の文献・書籍検討	共著	2016年11月19日	日本在宅看護学会誌	水口和香子, 上田泉, 佐々木雅彦, 横山まどか	100～100
III 学会等および社会における主な活動					
2006年04月01日 ～ 2016年02月29日	札幌市厚別区地域ケア連絡会 企画幹事				
2006年04月01日 ～ 現在に至る	北海道訪問看護ステーション連絡協議会 役員。訪問看護師のためのポータルサイトの開発、訪問看護師のためのSNS運営、および訪問看護の質向上を目的とした研修事業の運営。				
2015年08月28日 ～ 現在に至る	北海道看護協会 精神科訪問看護基本療養費算定要件研修会に於いて、ファシリテータとして協力。				
2016年08月27日 ～ 2016年08月27日	第21回日本難病看護学会学術集会 一般演題口演第11群 座長				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 准教授	氏名 澤田 優美	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)				
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
論文							
働く母親の育児困難感	共著	2011年09月01日	第41回北海道母性衛生学会学術講演会	澤田優美, 斉藤早香枝, 木浪智佳子, 三国久美, 草薙美穂			

働く母親の首尾一貫感覚 (SOC) と育児との関連	共著	2011年09月01日	第41回北海道母性衛生学会学術講演会	斉藤早香枝, 澤田優美, 木浪智佳子, 三国久美, 草薙美穂	
乳幼児を保育園に預けて働く母親のワークライフバランスとその要因	共著	2011年10月01日	乳幼児保健学会第5回学術集会	澤田優美, 三国久美, 斉藤早香枝, 木浪智佳子, 草薙美穂, 廣瀬たい子	
つどいの広場を利用する母子の児の成長に伴うNCAST得点の変化	共著	2011年10月01日	乳幼児保健学会第5回学術集会	森脇智子, 川崎裕美, 山下理子, 三国久美, 廣瀬たいこ, 木浪智佳子, 澤田優美	
女子大学生の親和性及び女子大学生がもつ母親のイメージ 育児観-高校生になるまでの母親の就労状況との関連-	単著	2012年07月01日	母性衛生, 53(2)		227~233
働く母親の育児困難感	共著	2012年08月01日	北海道母性学会誌41 (1)	澤田優美, 斉藤早香枝, 木浪智佳子, 三国久美, 草薙美穂	33~35
働く母親の首尾一貫感覚 (SOC) と育児との関連	共著	2012年08月01日	北海道母性学会誌41 (1)	斉藤早香枝, 澤田優美, 木浪智佳子, 三国久美, 草薙美穂	36~39
524名の産後母における体調の実態調査報告及び産後運動ケアの提案	共著	2012年09月01日	第42回北海道母性衛生学会学術講演会	寅嶋静香, 遠藤紀美恵, 澤田優美	
つどいの広場の利用頻度とNCAST得点の関連性の検討	共著	2012年09月01日	乳幼児保健学会第6回学術集会	山崎智子, 川崎裕美, 三国久美, 木浪智佳子, 澤田優美, 寺本妙子, 山下理子, 廣瀬たいこ	
Work Life Balance among working mothers with infant in japan	共著	2013年03月01日	The 5th International conference on community health nursing resaerch	Yumi Sawada Kumi Mikuni Chikako Kinami	
524名の産後母における体調の実態調査報告及び産後運動ケアの提案	共著	2013年09月01日	北海道母性学会誌42 (1)	寅嶋静香, 遠藤紀美恵, 澤田優美	
産後のコンディションが子育てに及ぼす影響及びコンディショニングケアガイドラインの提案	共著	2013年10月01日	第54回日本母性衛生学会学術集会	寅嶋静香, 遠藤紀美恵, 澤田優美	
2歳児を持つ母親のWLBとその関連要因	共著	2013年11月01日	第65回北海道公衆衛生学会	澤田優美, 三国久美, 木浪智佳子, 斉藤早香枝, 草薙美穂, 廣瀬たい子	

産後コンディショニングケア活動による心身への影響及びケア継続性の実態調査に関して	共著	2014年03月01日	第44回北海道母性衛生学会学術講演会	寅嶋静香, 遠藤紀美恵, 澤田優美	
看護学科における模擬患者参加型授業とOSCEの実施・評価(その3) -OSCEの作成と運営-	共著	2016年03月31日	北海道医療大学看護福祉学部学会誌2016年第12巻1号		
母子看護学臨地実習における段階的実習と選択的実習の効果	共著	2016年07月25日	天使大学紀要Vol. 16 No. 2. 2016		
高等学校に勤務する養護教諭と一般教諭の小児がんに関する認識とがん体験者との関わり	共著	2016年07月31日	小児保健研究2016第75巻第4号		
産後2～9か月にある女性の身体的健康状態における実態調査 第一報～高齢出産群と他年齢出産群との比較から～	共著	2016年07月31日	母性衛生 第57巻 2号		
小児科外来における育児相談の実態と利用者による評価	共著	2016年12月20日	北海道医療大学看護福祉学部紀要, No. 23 2016年		
III 学会等および社会における主な活動					
2010年04月01日 ～ 現在に至る	日本看護科学学会、日本子ども虐待防止学会、日本母性衛生学会、乳幼児保健学会、北海道公衆衛生学会、北海道母性衛生学会、日本小児保健協会				
2010年04月01日 ～ 2013年03月31日	北海道医療大学看護福祉学部学会学術大会実行委員				
2012年05月01日 ～ 2012年05月31日	第26回 日本助産学会学術集会実行委員				
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	北海道看護協会札幌第4支部推薦委員				
2015年04月01日 ～ 2016年03月31日	日本看護協会予備代議委員				
2015年06月25日 ～ 2015年06月25日	北海道教育大学岩見沢校一般公開講座「子育てとヘルスプロモーション」講師				
2015年09月26日 ～ 2015年09月26日	北海道母性衛生学会学術講演会一般口演座長				
2016年02月22日 ～ 2016年03月17日	ファミリーパートナーシップモデルによる育児支援講習会ファシリテーター				
2016年03月19日 ～ 2016年03月24日	JNCAST講習会 講師				

2016年06月01日 ～ 現在に至る	北海道教育大学岩見沢校 地域貢献講座 子育て応援～産後のお母さんのための健康講座No.1～「母子相互作用」講師
2016年06月29日 ～ 現在に至る	北海道教育大学岩見沢校 地域貢献講座 子育て応援～産後のお母さんのための健康講座No.2～「母子相互作用」講師
2016年07月25日 ～ 現在に至る	千歳市母子保健課母子保健係「お母さんのための骨盤ケア」「赤ちゃんとのコミュニケーション」講師
2016年11月24日 ～ 現在に至る	石狩市「産後の健康講座」「赤ちゃんとのコミュニケーション」講師
2016年11月28日 ～ 現在に至る	千歳市母子保健課母子保健係「お母さんのための骨盤ケア」「赤ちゃんとのコミュニケーション」講師

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 講師	氏名 臺野 美奈子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
健康生活看護学臨地実習Ⅳ-1（成人慢性）		2011年06月01日 ～ 2011年07月31日	4年生において成人（慢性・急性）の指導を行った。手術療法を受ける対象者は入院から手術、退院に至るまでの展開が早いと、対象者の状況に合わせた看護過程の展開が行えるように学習進度や心理面・身体面の確認をしながら、指導を行った。生活の再構築が必要な対象者を受け持った学生は自己管理方法の充実（退院パンフレット作成など）にウエイトが置かれがちになるため、そのような学生には病態・生理などの知識やアセスメントの根拠となる知識の重要性を意識づけるように指導した。
健康生活看護学臨地実習Ⅳ-2（成人急性）		2011年06月01日 ～ 2011年07月31日	4年生において成人（慢性・急性）の指導を行った。手術療法を受ける対象者は入院から手術、退院に至るまでの展開が早いと、対象者の状況に合わせた看護過程の展開が行えるように学習進度や心理面・身体面の確認をしながら、指導を行った。生活の再構築が必要な対象者を受け持った学生は自己管理方法の充実（退院パンフレット作成など）にウエイトが置かれがちになるため、そのような学生には病態・生理などの知識やアセスメントの根拠となる知識の重要性を意識づけるように指導した。
基礎看護学臨地実習Ⅱ		2011年08月01日 ～ 2011年09月30日	2年生において基礎実習の指導を行った。初めての長期臨地実習であるため、受け持ち対象者との援助的人間関係を通して、健康の回復・維持・増進に向けた看護実践が行えるように支援・指導を行った。また、看護のすばらしさや、楽しさが体現でき、看護に興味を持てるように工夫した。
生と死の看護ゼミ		2011年10月01日 ～ 2012年01月31日	3年生に対して、学生が選択したテーマ（終末期ケア・遺族ケア・家族ケア）について自己の体験や臨地実習での体験を想起しながら、グループワークを通して、自己の看護観や死生観を深めることができるように指導した。
健康生活看護学（成人）Ⅳ		2012年04月01日 ～ 2012年07月31日	3年生において成人期の生活習慣を要因とする動脈硬化性血管疾患の中で主に、脳梗塞を発症した人の看護の講義を担当し、周手術期における看護技術演習、救急看護演習、集中治療管理で必要となる看護技術演習、自己管理として行う技術（血糖測定）などの指導を担当した。
健康生活看護学臨地実習（成人）Ⅱ		2012年05月01日 ～ 2012年07月31日	4年生が臨地看護学実習を通して、多様で複雑（高度）な治療を受けている成人期にある対象者とその家族に必要な看護の実際を学ぶための、環境や人間関係の調整、学習進度の確認と必要な指導を行った。また、学生が積極的に楽しく、実習に取り組めるような声かけや動機づけの工夫を心がけながら指導を行った。

健康生活看護学隣地実習（統合）Ⅱ	2012年05月01日～ 2012年07月31日	4年生が臨地看護学実習において、看護チームの一員として複数の対象者を受け持ちながら看護の実際を学び、また、チームリーダーとしての役割と責任を実感できるためのあらゆる支援と調整を行った。
健康生活看護学臨地実習（成人）Ⅰ	2012年09月01日～ 2012年10月31日	成人期の生活習慣病に起因する健康障害やがんの発症などにより治療を要する受け持ち患者の看護を通して、看護の実際と他職種との連携やチーム医療の実際を学ぶための支援と調整を行った。また、学生が積極的に楽しく、実習に取り組めるような声かけや雰囲気づくりなどの工夫を心がけながら指導を行った。健康生活看護学臨地実習（成人）Ⅰは2012年度からのスタートであったため、実習目的に沿った対象者選択が難しかった。
健康生活看護学（成人）Ⅱ	2012年09月01日～ 2013年01月31日	2年生において主に呼吸障害をもつ人の特徴と看護についての講義、演習、グループワークの指導などを担当した。
健康生活看護学（成人）Ⅲ	2012年09月01日～ 2012年12月31日	2年生において事例を用いて、成人期にある対象の発達段階や健康レベルに応じた看護過程の展開方法の指導を行った。
健康生活看護学臨地実習（成人）Ⅰ	2012年09月01日～ 2012年10月31日	3年生が臨地看護学実習において、生活習慣病に起因する健康障害やがんの発症などにより治療を要する受け持ち患者の看護を通して、看護の実際と他職種との連携やチーム医療の実際を学ぶための支援と調整を行った。また、学生が積極的に楽しく、実習に取り組めるような声かけや動機づけの工夫を心がけながら指導を行った。
健康生活看護学臨地実習（統合）Ⅰ	2012年09月01日～ 2012年10月31日	4年生に対して、看護技術経験録を元に卒業までに習得しなければならない主な技術の指導と、習得状況の確認を行った。
成人看護学Ⅳ	2013年04月01日～ 2013年07月31日	3年生において成人期の生活習慣を要因とする動脈硬化性血管疾患の中で主に、脳梗塞を発症した人の看護の講義を担当し、周手術期における看護技術演習、救急看護演習、集中治療管理で必要となる看護技術演習、自己管理として行う技術（血糖測定）などを指導した。
健康生活看護学臨地実習（統合）Ⅰ	2013年04月01日～ 2013年04月30日	4年生に対して、看護技術経験録を元に卒業までに習得しなければならない主な技術の指導と、習得状況の確認を行った。
統合看護演習	2013年04月01日～ 2013年12月31日	4年生に対し、実習での学習を科学的根拠に基づき、論理的にまとめるケーススタディの方法論の指導と、ポスター発表の方法を指導した。
健康生活看護学臨地実習（成人）Ⅱ	2013年05月01日～ 2013年07月31日	4年生が病棟実習や、外来看護体験実習、専門・認定看護師等の同行実習を通して、多様で複雑（高度）な治療を受けている成人期にある対象者とその家族に必要な看護の実際を学ぶために、実習環境や、人間関係の調整、学習進度等の確認と必要な指導を行った。
健康生活看護学臨地実習（統合）Ⅱ	2013年05月01日～ 2013年07月31日	4年生の臨地看護学実習において、学生が看護チームの一員として複数の対象者を受け持ちながら看護の実際を学び、チームリーダーとしての役割と責任を実感できるためのあらゆる支援と調整を行った。

成人看護学Ⅱ	2013年09月01日 ～ 2014年01月31日	2年生において主に呼吸障害をもつ人の特徴と看護についての講義、演習、グループワークの指導を行った。また、心筋梗塞の患者に対する患者教育演習をTBLを活用して行った。			
成人看護学Ⅲ	2013年09月01日 ～ 2013年12月31日	2年生において事例を用いて、成人期にある対象の発達段階や健康レベルに応じた看護過程の展開方法を指導した。			
健康生活看護学臨地実習（成人）Ⅰ	2013年09月01日 ～ 2013年10月31日	3年生の臨地看護学実習において、生活習慣病に起因する健康障害やがんの発症などにより治療を要する受け持ち患者の看護を通して、看護の実際と、他職種との連携やチーム医療の実際を学ぶための支援と調整を行った。また、学生が積極的に楽しく、実習に取り組めるような声かけや動機づけの工夫を心掛けながら指導を行った。			
生と死の看護ゼミ	2013年09月01日 ～ 2014年01月31日	3年生に対して、学生が選択したテーマ（精神疾患、自殺など）について自己の体験や臨地実習での体験を想起しながら、グループワークを通して、自己の看護観や死生観を深めることができるように指導した。			
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 2013年度 後期研究報告会における研究発表	2013年03月20日	テーマ「TBLを活用した教育方法の効果」を天使大学学術振興委員会が主催する2013年度後期研究報告会にて発表した			
4 その他教育活動上特記すべき事項					
Ⅱ 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

臨地看護学実習において臨床指導者が抱く困難と期待に関する質的調査	単著	2013年08月01日	第23回日本看護学教育学会学術集会		
臨地看護学実習評価が不合格となり留年となった学生の体験 -インタビューを用いた学生時代の振り返りから-	単著	2014年06月01日	天使大学紀要 Vol. 14 No. 2 2013		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 講師	氏名 田中 さおり	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
小児看護学Ⅰ		2013年10月01日 ～ 現在に至る	
統合看護技術演習		2014年04月 ～ 現在 に至る	
小児看護学Ⅱ		2014年04月01日 ～ 現在に至る	
母子看護学臨地実習Ⅰ		2014年04月01日 ～ 現在に至る	
母子看護学臨地実習Ⅱ		2015年05月 ～ 現在 に至る	
統合看護臨地実習		2015年11月 ～ 現在 に至る	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程	共著	2012年06月01日	医歯薬出版株式会社	荃津智子、井上由紀子、草薙美穂、岩城依子、工藤悦子、宮部麻衣子	P74～P84
論文					
（示説）SGA性低身長症児を持つ家族の治療継続に関する研究	共著	2013年12月01日	第33回日本看護科学学会学術集会講演集	田中さおり、荃津智子、草薙美穂、宮部麻衣子	P518～P518
思春期・青年期にあるキャリアオーバーした当事者の病気や医療に対する思い	単著	2014年03月01日	天使大学紀要第14巻2号		101～115
（示説）小中学校教員の死別した子どもとのかかわりに関する実態調査	共著	2015年06月19日	小児保健研究74巻講演集	田中さおり、荃津智子、草薙美穂	160～160
（示説）SGA性低身長症児を持つ親のGH療法継続に伴う体験ーGH療法開始時の母親の体験に焦点を当ててー	共著	2015年07月25日	日本小児看護学会第25回学術集会講演集	田中さおり、荃津智子、草薙美穂	158～158
（示説）死別や死の問題を子どもと話すことへの小学校教員の認識	共著	2015年11月28日	日本学校保健学会第62回学術大会講演集	荃津智子、田中さおり	195～195
（示説）小学校教員がとらえる「子どもの死の理解」について	共著	2015年11月28日	日本学校保健学会第62回学術大会講演集	荃津智子、田中さおり	195～195
（示説）小中学校教員の死別した子どもと死を語ることへの思いー自由記述内容の分析からー	共著	2015年11月28日	日本学校保健学会第62回学術大会講演集	田中さおり、荃津智子	196～196
（示説）実習直前での危険予知トレーニング（KYT）の試み 看護学生の危険予知の実態 第2報	共著	2015年12月05日	第35回日本看護科学学会学術集会講演集	田中さおり、柴田和恵、小澤涼子、那須典政	265～265

(示説) 実習直前での危険予知トレーニング(KYT)の試み 実習終了後の危険予知に対する意識の学年比較	共著	2015年12月05日	第35回日本看護科学学会学術集会講演集	小澤涼子、柴田和恵、田中さおり、那須典政	266～266
母子看護学臨地実習における段階的実習と選択的実習の効果	共著	2016年07月	天使大学紀要	草薙美穂、荃津智子、佐藤昇子、澤田優美、田中さおり	P5～P15
SGA性低身長症児をもつ母親の成長ホルモン療法に伴う体験	共著	2016年07月20日	日本小児看護学会誌	田中さおり、荃津智子、草薙美穂	P16～P23
(示説) 死別した経験を持つ子どもに対する小学校教員の対応や考えー自由記述内容からの分析ー	共著	2016年07月24日	日本小児看護学会第26回学術集会講演集	荃津智子、工藤悦子、田中さおり	269～269
(示説) 死別した経験を持つ生徒に対する中学校教員の対応や考えー自由記述内容からの分析ー	共著	2016年07月24日	日本小児看護学会第26回学術集会講演集	工藤悦子、荃津智子、田中さおり	270～270
(示説) GH療法を受けるSGA性低身長症児とその家族に対する小児科外来看護師の認識と実施している支援	共著	2016年12月10日	第36回日本看護科学学会学術集会	田中さおり、荃津智子	PB- 7 -40～PB- 7 -40
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2016年07月03日 ～ 2016年07月03日	成長ホルモン治療にかかわる医療従事者の為の小児外来セミナー 講演「SGA性低身長症児とその家族のGH療法に伴う体験と必要な支援」				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 講師	氏名 鶴木 恭子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2010年04月01日 ～ 2013年03月31日	【基礎看護学臨地実習Ⅰ】学生とのカンファレンスにて実習目標の共通理解を図り、その達成に向けて意図した行動がとれるよう意識付けを行った。学生は学習の内容が明らかとなり学習への取り組みが強化された。
		2010年04月01日 ～ 2013年03月31日	【基礎看護学臨地実習Ⅱ】実習期間の中間時点で形成的評価を取り入れた。学生は残された課題を明確にすることができ目標達成を意図した学習に取り組むことができた。
		2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	【人間工学】学生にベッドメイキングを行ってもらい、実施中の動きをビデオ撮影した。その結果、客観的に自分の動作を振り返ることができ、人間工学の知識を活用した看護実践に向けてどうするとよいのか考察する契機となった。
		2013年06月01日 ～ 現在に至る	【基礎看護学技術論Ⅳ】与薬技術演習の前に演習に関する課題の提出を課した。技術の確実な実施に向けて、技術チェック項目のみ提示したその横に各自で必要と思うことに関して補うためのスペースを大きくとり、知識の確認や実施に向けての準備を行えるようにした。また、教科書に付属しているDVDを見てから答える設問項目も作成した。DVDを注意深く確認することで、授業での学びの振り返りと自分で獲得していく知識を得る機会になった。課題はほぼ全員が提出し、記載の内容には個人差はあったが、提出した学生全員が何らかの自己学習を行っており、自己学習の促進につながったと考えられる。
		2013年09月01日 ～ 現在に至る	【基礎看護学技術論Ⅱ】行った看護を客観的に振り返るための基礎として、必要な視点を提示し、毎回その項目に沿って評価し提出を課した。回を重ねるごとに、観察した結果や課題も具体的になってきた。また、対象に意識を向ける必要性に気づけるようになってきたことがこの提出物から明らかになった。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年04月01日 ～ 2013年03月31日	【看護観察技術論・基礎看護技術論】講義用補助教材を作成した。教材はその学習で行うことのアウトラインを示す程度にとどめ、自らメモを取るなど自分なりの工夫を加えて完成する形態とし、授業への集中力を増す工夫を行った。対象学年が1年生であることから復習するときのきっかけとなるよう教科書の該当するページ数を入れた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			

4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
OSCE実施の流れと実施後の評価	共著	2011年05月01日	看護展望、36巻6号	菅原美樹、宮崎みち子、田中広美、大野夏代、藤井瑞恵、鶴木恭子	26頁～26頁
S大学卒業生のキャリア発達―卒業後半年の実態調査より	共著	2011年08月01日	第21回日本看護学教育学会学術集会	鶴木恭子、太田晴美、河村奈美子、工藤京子、樋之津淳子、中村恵子	
臥床患者の安楽を促進する技術としての指圧を取り入れたマッサージ	共著	2011年09月01日	達人ナース、32巻5号	大野夏代、鶴木恭子、山本勝則	22頁～25頁
重曹を清拭剤として使用した場合の効果について	単著	2011年10月01日	日本看護技術学会第10回学術集会		
看護管理者と指導者から見た新人看護師の看護実践能力と教育側に期待すること―入職後半年の調査より	共著	2011年12月01日	第31回日本看護科学学会学術集会	工藤京子、鶴木恭子、太田晴美、河村奈美子、山本真由美、清水光子、樋之津淳子、中村恵子	
OSCE実施時に評価者が「採点しにくい」と感じた理由―1.2年生OSCE評価者アンケート結果から	共著	2012年03月01日	札幌市立大学研究論文集(第6巻第1号)	鶴木恭子、宮崎みち子、内田雅子、大野夏代、清水光子、田中広美、藤井瑞恵、三上智子、中村恵子	11頁～18頁
安楽を提供するマッサージ―看護師による実践報告	共著	2012年07月01日	第38回日本看護研究学会学術集会	大野夏代、小坂橋喜久代、山本勝則、鶴木恭子、本間由紀子	

キャリア教育の体系的支援推進の試みー大学教職員はすべてキャリア支援担当者	共著	2012年08月01日	第22回日本看護学教育学会学術集会	鶴木恭子、樋之津淳子、宮崎みち子、太田晴美、中村恵子	
皮膚の汚れを効果的に拭き取る温タオルの使い方	単著	2012年09月01日	第20回日本人間工学会看護人間工学部会研究発表会		
清拭に重曹を用いた場合の効果についてー温湯のみとの比較	単著	2012年09月01日	日本看護技術学会第11回学術集会		
就業先の指導者から見たA大学卒業生の特徴ー学社連携就業力育成プログラム意見交換会からー	共著	2013年08月08日	第23回日本看護学教育学会学術集会	太田晴美、鶴木恭子、藤井瑞恵、スーディ神崎和代、宮崎みち子、樋之津淳子、中村恵子	
臨床現場の教育担当者が捉える新人教育の課題ー学社連携就業力育成プログラム意見交換会からー	共著	2013年08月08日	第23回日本看護学教育学会学術集会	藤井瑞恵、鶴木恭子、太田晴美、スーディ神崎和代、宮崎みち子、樋之津淳子、中村恵子	
就業先の指導者から見たA大学卒業生の特徴ー学社連携就業力育成プログラム意見交換会からー	共著	2013年08月08日	第23回日本看護学教育学会学術集会	太田晴美、鶴木恭子、藤井瑞恵、スーディ神崎和代、宮崎みち子、樋之津淳子、中村恵子	
臨床現場の教育担当者が捉える新人教育の課題ー学社連携就業力育成プログラム意見交換会からー	共著	2013年08月08日	第23回日本看護学教育学会学術集会	藤井瑞恵、鶴木恭子、太田晴美、スーディ神崎和代、宮崎みち子、樋之津淳子、中村恵子	
清拭に重曹を用いたときの効果	単著	2014年03月01日	天使大学紀要(第14巻第2号)		
マッサージによるリスクを最小化する試み	共著	2014年11月23日	日本看護技術学会第13回学術集会・交流セッション	大野夏代、鶴木恭子、山本礼美子、山本勝則、河内香久子、近政彩子	
看護師が行うマッサージ」を教えます	共著	2015年08月	日本看護学教育学会第25回学術集会・交流セッション	鶴木恭子、大野夏代、山本勝則、北山敬子、吉岡真実	114～114
触れるケアはイキイキ働く看護師を育てます	共著	2016年08月22日	日本看護学教育学会第26回学術集会・交流セッション	鶴木恭子、大野夏代、山本勝則、岩見喜久子、山本礼美子、新関幸子	
III 学会等および社会における主な活動					
2007年04月01日 ～ 現在に至る		日本看護学教育学会・日本看護研究学会・日本人間工学会看護人間工学部会・日本看護科学学会 所属			
2007年04月01日 ～ 2013年03月31日		臨床看護師のための指圧マッサージ実践講座(札幌市立大学公開講座)			
2009年04月01日 ～ 現在に至る		日本看護技術学会 所属			

2010年04月01日 ～ 2013年03月31日	日本人間工学会看護人間工学部会役員(会計)
2011年04月01日 ～ 2013年03月31日	勤医協札幌中央病院への看護教育支援
2011年04月01日 ～ 現在に至る	手稲溪仁会病院でのマッサージ実践活動
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	北海道看護協会小樽支部看護研修会講師
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	札幌市立大学公開講座 講師

V 教育研究等環境
1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 講師	氏名 前田 朝子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
基礎看護技術論Ⅰ		2014年04月01日～ 現在に至る	安全・安楽の2コマを担当した。安全の概念と事故発生要因の学習に重点を置いた。さらに事例を用いた要因分析を行うとともに、KY事例Tを用い感受性を高めるようにした。安楽では、学生相互のタッチの演習を通してケアにおける専心の重要性を体験できるよう試みた。
基礎看護技術論Ⅲ		2014年04月01日～ 現在に至る	感染予防を担当した。感染予防の原則と標準予防策特に防護具の着脱、滅菌物の取り扱いについて演習で強化した。また、針刺しなど職業感染防止について、日本環境感染学会作成のビデオを使用し啓蒙した。
基礎看護技術論Ⅳ		2014年04月01日～ 現在に至る	診察・検査に伴う援助を担当した。実習に向けて、教科書の学習以外に写真などを多く用い、まだ見たことがない検査機器などの理解を深めた。実習で見学することが考えられる放射線検査については防護について周知するとともに、MRI検査では事故が多いため事故事例を用い啓蒙するとともに、実際にMRIの発する音について録音したものを聞かせ体感してもらった。
ヘルスアセスメント		2014年04月01日～ 現在に至る	頭頸部を担当した。主に甲状腺・リンパ腺の触知に重点を置いて演習を行った。また、感覚器の観察(見え方・聞こえ方など)にはコミュニケーションから得るものが大きいことを伝えた。
栄養・演習看護		2014年04月01日～ 現在に至る	ICFシート作成ならびに援助計画の立案についてGWで助言を行った。違う学科の協働演習ということで、互いの専門性を認めることができるように関わった。指導では一般論的な援助計画ではなく、患者の個別性に着目できるよう指導を行った。
人間形成とキャリアデザインⅠ		2014年04月01日～ 現在に至る	GWの助言を通して、指示された課題が達成できるように援助した。GWに慣れていないため発言しやすい雰囲気づくりに努めた。
基礎看護学臨地実習Ⅱ		2014年08月01日～ 2014年09月30日	学生にとっては初めて患者を受け持つ実習となるため、コミュニケーションが円滑にとれるよう支援した。また、実習病院の責任者として実習指導教員の支援も行った。
基礎看護技術論Ⅱ		2014年09月01日～ 現在に至る	感染予防、環境整備、ボディメカニクス、ベットメイキング、リネン交換、体位変換、移乗・移動、寝衣交換を担当した。それぞれ、技術の根拠と手順を合わせて指導し、確実な技術の習得に努めるとともに、看護技術における安全・安楽・自立・個別性を必ず意識して実施するようにした。実施後はレポートにより、振り返りを促した。

基礎看護学臨地実習Ⅰ	2014年10月01日～ 2014年10月31日	臨地実習Ⅰ－1を担当した。初めての実習ということで、特に態度面、提出物の指導を強化した。実習先では各階巡回し時間内に遅延なくベッドメイキング・環境整備ができるよう支援した。
看護管理	2015年04月01日～ 現在に至る	統合看護臨地実習と連動するように内容を変更した。新人看護師として臨床で勤務する際に必要となる看護管理の諸知識について、豊富な臨床経験を教材として授業を展開した。
看護管理特論	2015年04月01日～ 現在に至る	高度実践看護師を目指す学生に対し、豊富な臨床での看護管理経験を教材にして、知識の習得のみではなく、実践的に考えることに重点を置き、プレゼンテーションとディスカッションにより学びを深めた。
基礎看護技術論Ⅲ	2016年04月01日～ 2017年03月31日	基礎看護技術論Ⅲの感染予防において、職業感染防止ビデオの視聴やN95マスクのフィットテストを実施し、職業感染防止の意識を高める工夫を行った。
基礎看護技術論Ⅰ	2016年04月01日～ 2017年03月31日	安全安楽では、KYTや要因分析について事例を多く用いて講義を行った。健康教育・患者教育では、糖尿病の事例を用いながら患者主体で考える事の重要性を演習を通じて伝えた。
人間形成とキャリアデザインⅠ	2016年04月01日～ 2017年03月31日	看護師になりたいという動機づけを強化するために、意識障害のある患者の看護ドキュメンタリーの視聴や、看護協会作成の「キラリ看護の仕事」を使って看護職の働く場や、助産師・保健師についても紹介した。ポートフォリオの活用を強化するために、ポートフォリオを用いた支援教員面談時のプレゼンテーションを取り入れた。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項	2012年04月01日～ 2013年03月31日 2012年04月01日～ 2013年03月31日	日本感染環境学会・職業感染制御研究会共催 「職業感染予防トレーニングコース」修了 日本環境感染学会主催 「医療疫学トレーニングコース」修了

			2014年06月01日 ～ 2014年06月30日	日本看護協会 認定看護管理者（CNA）取得（認定登録番号 2462 ）	
Ⅱ 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
教育・事例検討・研究に役立 つ 看護倫理実践事例46	共著	2014年04月01日	日総研出版	監修・執筆 清水哲郎 分担執筆者58名	第1章倫理的な問題の分析・対応 と看護倫理教育 第5講(21) 看 護研究の倫理的審査システムの 構築 P195-200
論文					
「看護倫理研修」の取り組み 第2報-目標達成度が上がった 要因の分析-	共著	2011年06月01日	日本看護倫理学会 第4回予稿集 P53	◎米重順子、千葉美恵子、密山敦子、 前田朝子	
CVポート関連血流感染―各種 血管デバイスとの比較―	共著	2012年02月01日	日本環境感染誌 巻：27 号： Supplement P97	◎石角鈴華 、土佐理恵子、前田朝子	
看護部倫理指針に基づいた看護 実践の患者評価	共著	2012年04月01日	日本看護学会論文集 看護管理 巻：42th	大家恵子、千葉美恵子、仁木恵美子、 前田朝子、高木日登美、野本美津子	ページ：435～438
患者に車椅子乗車のままナース ステーションで過ごしてもら う行為についての意識調査	共著	2012年06月01日	日本看護倫理学会 第5回予稿集 P43	◎千葉美恵子、米重順子、密山敦子、 前田朝子	
「かんりんかい」の活動報告 第2報-テーマ「身体拘束を 考えよう」の開催報告-	共著	2012年06月01日	日本看護倫理学会 第5回予稿集 P89	◎前田朝子、密山敦子、千葉 美恵子	
救命救急センターにおける MRSAの感染制御-入院時監視 培養と感染予防策の徹底-	共著	2013年02月01日	日本環境感染誌 巻：28 号： Supplement P482 2013	◎土佐理恵子、前田朝子 、石角鈴 華、上田晃	

患者に車椅子乗車のままナースステーションで過ごしてもらった行為についての意識調査第2報	共著	2013年06月01日	日本看護倫理学会 第6回予稿集 P124	◎密山敦子、米重順子、千葉美恵子、前田朝子	
新型インフルエンザ受け入れシミュレーションの実施と課題	共著	2014年02月01日	日本環境感染学会誌 巻：29 号：Supplement P440	◎山本謙太郎、土佐理恵子、前田朝子	
中小規模病院の看護師長の経験に含まれる倫理的問題とその対応 -どうしてよいか悩んだ、解決が難しかった経験の語りから-	単著	2014年04月01日	札幌市立大学 看護学研究科看護学専攻 博士前期課程 看護マネジメント学分野 看護教育・管理学領域看護管理学コース 修士論文		
「看護倫理研修」の取り組み第3報 -持参事例による事例検討に変更した効果-	共著	2014年06月01日	日本看護倫理学会 第7回予稿集 P115	◎千葉美恵子、密山敦子、米重順子、前田朝子	
中小規模病院の看護師長の経験に含まれる倫理的問題とその対応	共著	2015年06月13日	日本看護倫理学会第8回年次大会予稿集	前田朝子、猪股千代子	

III 学会等および社会における主な活動

2010年06月01日 ～ 2012年05月30日	日本看護倫理学会会員
2010年10月01日 ～ 2015年08月31日	日本救急看護学会評議員
2011年04月01日 ～ 2012年03月31日	看護倫理研修（講演）会講師 時計台記念病院、札幌南1条病院、同交会病院、他3施設
2011年10月01日 ～ 現在に至る	日本感染環境学会学会員
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	看護倫理研修（講演）会講師 労災病院北海道・東北ブロック 中堅看護師研修、他3施設
2012年06月01日 ～ 2015年06月30日	日本看護倫理学会評議員
2013年04月01日 ～ 2014年03月31日	看護倫理研修（講演）会講師 北海道医療センター、北光記念病院、森山病院、他3施設
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	看護倫理研修（講演）会講師 市立釧路総合病院、空知中央病院、他2施設
2014年06月01日 ～ 現在に至る	日本看護管理学会学会員
2014年06月01日 ～ 現在に至る	日本看護技術学会学会員
2014年07月01日 ～ 現在に至る	日本看護科学学会学会員

2014年10月01日 ～ 2014年10月31日	看護倫理事例検討アドバイザー （静和会グループ 看護管理者会議
2015年04月01日 ～ 2016年03月31日	看護倫理研修（講演）会講師 市立滝川病院、北海道大野病院、小樽協会病院、他3施設
2016年04月01日 ～ 2017年03月31日	看護倫理研修（講演）会講師 市立滝川病院、北海道大野病院、釧路市立総合病院 札幌佐藤病院
2016年11月25日 ～ 現在に至る	第48回日本看護学会-看護管理-学術集会抄録委員会委員

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

(表10)

所属 看護学科		職名 講師		氏名 若山 好美		大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
保健医療福祉システム論				2014年04月01日 ～ 2016年03月31日		保健医療福祉システム論は、看護職に必要な安心して生活できる場が保障される諸制度・根拠を理解する科目である。学生の生活が保健医療福祉システムとどう関連があるのか、新聞記事やニュースの解説など身近な出来事から自分の身に引きよせ考えられるよう工夫した。	
地域看護学				2014年04月01日 ～ 2016年03月31日		地域での健康課題に対し、学生が主体的に、地域保健活動の実践例を文献から学ぶ機会を設け、看護職の役割・機能について意見交換した。	
健康危機管理特論				2016年09月01日 ～ 現在に至る		保健師教育で、健康危機管理特論と公衆衛生看護展開実習との連動により、科目内演習を試みた。 災害の視点からの地区アセスメントや、平常時の意図的な保健師活動の重要性の理解が深まった	
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称		編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書							

論文					
地域社会における高齢者に対する役割期待と遂行のための促進要因—フォーカスグループインタビュー法を用いて	共著	2014年09月01日	日本保健福祉学会誌第21巻1号	佐藤美由紀、齊藤恭平、若山好美、堀籠春江、鈴木佑子、岡本麗子	25～33頁
保健師の専門性の学びを深める選択実習の意義～健康なまちビジョン、計画立案を通して～	共著	2014年11月01日	第73回日本公衆衛生学会総会	吉田礼維子、針金佳代子、若山好美、小澤涼子	554頁～554頁
地域社会における高齢者の役割の見直しに基づく地域活動創出に至るプロセス	共著	2014年11月01日	第73回日本公衆衛生学会総会	佐藤美由紀、齊藤恭平、若山好美、芳賀博	333頁～333頁
アクションリサーチによる地域高齢者の社会参加促進型ヘルスプロモーション・プログラムのプロセス	共著	2016年04月	老年社会科学	佐藤美由紀、齊藤恭平、若山好美、芳賀博	3～20
看護学生の在宅看護実習における「看護の継続性」の理解	共著	2016年12月10日	日本看護科学学会第36回学術集会	◎若山好美、吉田礼維子、針金佳代子、小澤涼子	
介護予防システムを推進する保健師の活動の構造（第1報）-基本属性との関連に焦点をあてて	共著	2017年01月22日	日本公衆衛生看護学会第5回学術集会講演集	吉田礼維子、若山好美、小澤涼子、針金佳代子、白井英子	152～152
介護予防システムを推進する保健師の活動の構造（第2報）-取り組みを困難にする理由との関連		2017年01月22日	日本公衆衛生看護学会第5回学術集会講演集		153～153
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2013年04月01日 ～ 2015年03月31日		北海道看護協会札幌第4支部保健師職能委員長			
2014年12月01日 ～ 現在に至る		北海道公衆衛生学会評議員			
2015年12月24日 ～ 現在に至る		第22回日本在宅ケア学会学術集会企画委員			
2016年09月30日 ～ 現在に至る		第22回日本在宅ケア学会生涯学習事業・札幌研究サポートセミナー			

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 助教	氏名 伊織 光恵	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科		職名 講師	氏名 小澤 涼子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)			
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
健康生活看護学（地域）Ⅳ		2012年04月01日 ～ 2015年04月30日	健康危機管理、災害保健活動について4年次の講義を担当した。災害保健活動は、身近な災害から考え保健活動の理解を深めるとともに、平常時から復興期への一連の活動が実践的に理解できるように、災害保健活動に従事した体験を踏まえ講義を展開した。				
保健医療福祉システム論		2013年04月01日 ～ 現在に至る	母子保健対策と生活習慣病対策について、保健医療福祉に関する法律とそれに基づき提供されているサービスが、学生自身や身近な人々に関わるものであることなど具体的な例をとおして理解や関心が深まるように工夫して展開した。				
地域看護学		2014年04月01日 ～ 現在に至る	成人・母子・高齢者の地域における保健活動を担当し、対象者の生活や社会背景などを動向や新聞記事、事例を通してイメージし、健康課題を身近に考えられるよう展開を検討した。				
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							

論文					
生活習慣病予備群にある壮年期男性が生活習慣に保健行動を組み込む過程	共著	2013年06月01日	日本保健医療行動科学会雑誌28(1)	小澤涼子, 吉田礼維子, 白井英子	60～70頁
母親が実母から伝承された食生活と3歳児の食の問題 第1報 実母からの伝承の実態	共著	2013年10月01日	日本公衆衛生雑誌第60巻第10号 第72回日本公衆衛生学会総会抄録集	針金佳代子 吉田礼維子, 小澤涼子 白井英子	372頁～372頁
母親が実母から伝承された食生活と3歳児の食の問題 第2報 実施している事と食問題の関連	共著	2013年10月01日	日本公衆衛生雑誌第60巻第10号 第72回日本公衆衛生学会総会抄録集	吉田礼維子, 針金佳代子, 小澤涼子, 白井英子	372頁～372頁
3歳児の母親が食生活で伝承され実施していることおよび家族機能と食生活の問題の関連	共著	2014年01月01日	第2回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集	針金佳代子, 吉田礼維子, 小澤涼子, 白井英子	93頁～93頁
保健師の専門性の学びを求める選択実習の意義：健康なまちビジョン、計画立案を通して	共著	2014年10月01日	第73回日本公衆衛生学会総会抄録集	吉田礼維子, 針金佳代子, 若山好美, 小澤涼子	554頁～554頁
保健師の専門性の学びを深める選択実習の成果—健康なまちビジョン、計画立案をとおして—	共著	2015年	天使大学紀要15巻2号	吉田礼維子, 針金佳代子, 若山好美, 小澤涼子	1頁～13頁
実習直前での危険予知トレーニング(KYT)の試み—看護学生の危険予知の実態 第2報—	共著	2015年	日本看護科学学会学術集会講演集35回	田中さおり, 柴田和恵, 小澤涼子, 那須典政	265頁
実習直前での危険予知トレーニング(KYT)の試み—実習終了後のアンケート結果—	共著	2015年	日本看護科学学会学術集会講演集35回	小澤涼子, 柴田和恵, 田中さおり, 那須典政	266頁
幼児をもつ母親の食生活に関する世代間伝承第1報実母から伝承され実施していること	共著	2016年	第4回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集	吉田礼維子, 針金佳代子, 小澤涼子, 白井英子	288頁
幼児をもつ母親の食生活に関する世代間伝承第2報母親自身が大切に実践していること	共著	2016年	第4回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集	針金佳代子, 吉田礼維子, 小澤涼子, 白井英子	289頁

	共著	2016年			
保健師が捉えている第一次産業従事者にとっての健康－積雪寒冷地の自治体保健師へのインタビューから－	共著	2016年	第36回日本看護科学学会学術集会	小澤涼子, 吉田礼維子	
看護学生の在宅看護実習における「看護の継続性」の理解	共著	2016年	第36回日本看護科学学会学術集会	若山好美, 吉田礼維子, 針金佳代子, 小澤涼子	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2017年01月20日 ～ 2017年01月22日		第5回日本公衆衛生看護学会学術集会実行委員			

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 助教	氏名 田中 裕子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
統合看護技術演習	2016年04月07日 ～ 2016年04月25日	卒業時まで修得することが求められている看護技術について学生自ら学習し、自己の課題を明確化できるように指導した。	
事例研究	2016年04月08日 ～ 2016年12月15日	実習の1事例における看護実践を論理的に振り返ることで、学生が実践した看護の意味づけや自己の課題の明確化、看護研究のプロセスを理解できるように指導した。	
老年看護学Ⅲ（摂食・嚥下障害のある高齢者の食事援助と口腔ケアに関する授業と演習）	2016年05月30日 ～ 2016年06月06日	摂食・嚥下障害のある高齢者の食事援助と口腔ケアに関する演習では、事例を提示し、演習前後の課題提出や学生同士での実技演習を実施することで知識と技術の修得、学生間で学びが共有されるように努めた。	
老年看護学臨地実習Ⅱ	2016年08月29日 ～ 2016年10月28日	受け持ち高齢者やその家族が望む生活の実現に向けて、必要とされる看護援助を対象者の価値観を尊重しつつ学生が実践できるように臨地実習指導者や臨地実習指導教員とともに指導に携わった。	
統合看護臨地実習	2016年10月31日 ～ 2016年11月11日	学生が今まで学習してきた知識と技術などを統合することができるように臨地実習指導者と調整し、指導に携わった。	
老年看護学臨地実習Ⅰ	2016年11月04日 ～ 2017年01月13日	介護老人保健施設における見学実習を通して、学生が主体的に学び、自己の学習課題を明確にすることができるように臨地実習指導者や臨地実習指導教員とともに学生の指導に携わった。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
老年看護学演習	2016年06月03日 ～ 2016年06月06日	摂食・嚥下障害のある高齢者の食事援助と口腔ケアに関する演習の事例と課題を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			

天使大学看護栄養学部看護学科（実習指導教員）		2013年12月01日～ 2016年03月31日	看護学科2年生の老年看護学演習、老年看護学臨地実習Ⅰ、看護学科3年生の老年看護学演習、老年看護学臨地実習Ⅱ、看護学科4年生の統合看護技術演習において実習指導教員として学生への指導に携わった。		
Ⅱ 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
介護老人保健施設入所者の口腔セルフケアと口腔内の状態	単著	2013年09月01日	北海道医療大学大学院 看護福祉学研究科		
介護老人保健施設入所者の口腔セルフケア	共著	2013年09月07日	北海道医療大学看護福祉学部学会 第10回学術大会抄録集	田中裕子、山田律子、萩野悦子	10～10
介護老人保健施設に入所する認知症の高齢有歯顎者における口腔内状態と口腔セルフケア	共著	2014年06月14日	日本老年歯科医学会 老年歯科医学講演抄録集 第29巻第2号	田中裕子、山田律子、池田和博、平井敏博、植木沢美、岡橋智恵、木本恵美子、村田幸枝	168～168
介護老人保健施設に入所する軽度・中等度認知症高齢者の良好な口腔環境を維持するための予防ケア	共著	2015年09月26日	日本認知症予防学会 第5回日本認知症予防学会学術集会抄録集	田中裕子、山田律子、池田和博、村田幸枝、木本恵美子、平井敏博	177～177
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2010年09月01日～現在に至る		北海道医療大学看護福祉学部学会正会員			
2012年05月01日～現在に至る		日本看護研究学会正会員			
2013年04月01日～現在に至る		日本老年歯科医学会正会員			
2015年06月01日～現在に至る		日本認知症予防学会正会員			
2016年06月01日～現在に至る		日本老年看護学会正会員			
2017年03月～現在に至る		日本看護学教育学会正会員			

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 助教	氏名 富川 将史	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
基礎看護学臨地実習Ⅰ・Ⅱ		2013年04月01日～ 現在に至る	1年生は初めての病院実習であるため、少しでも学んだ知識・技術を活用しながらベッドメイキング・環境整備が行えるよう指導した。2年生には、初めて患者を受け持つ実習となるため、まずは患者のところへ自ら向かえるよう支援・指導した。また、初めて学生指導する実習指導教員の支援も行った。
統合看護技術演習		2013年04月01日～ 現在に至る	
基礎看護技術論Ⅱ		2014年04月01日～ 現在に至る	
基礎看護技術論Ⅲ		2014年04月01日～ 現在に至る	バイタルサインズの教授方略としてTBLを用い、学生の主体的な学びが深まり、知識・技術の習得につながるよう指導した。
基礎看護技術論Ⅳ		2014年04月01日～ 現在に至る	
ヘルスアセスメント		2014年04月01日～ 現在に至る	ヘルスアセスメントでは、解剖生理学と各系統別フィジカルイグザミネーションに関する多様な知識が必要とされるため、学生が知識・技術の習得に結び付けやすいように主要な循環・呼吸・消化器系の解剖の内容については、確認テストや解剖に関するTシャツ作成（GW）、フィジコを用いた演習、人間関係論と連携したインタビューとフィジカルイグザミネーションの合同演習も展開しながら指導した。
ホスピス・緩和ケア論		2014年04月01日～ 現在に至る	がん患者が抱える苦痛（疼痛）の捉え方をトータルペインの視点や事例を用いて展開し、緩和の必要性和実際についてもイメージしやすうように指導した。
事例研究		2014年04月01日～ 現在に至る	4年間で行った実習の1事例を用いて振り返り、学生が行った看護の意味づけや自己課題が明確にできるよう指導した。また、看護研究のプロセスも理解できるよう指導した。
統合看護臨地実習		2015年04月01日～ 現在に至る	卒業前の最後の実習であるため、今まで学んだ知識・技術等を統合させられるよう指導者と調整を行い、少しでも就職した時をイメージしながら展開できるよう指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書			

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
子どものがん性疼痛アセスメントに関する看護師の知識の実態調査	単著	2011年11月01日	第9回日本小児がん看護学会（日本小児血液・がん学会学術集会・日本小児がん看護学会・財団法人がんと子供を守る会公開シンポジウムプログラム・総会号）		270頁～270頁
当院におけるヒックマンカテーテル留置手技の変化	共著	2011年11月01日	第10回日本小児がん看護学会（日本小児血液・がん学会学術集会・日本小児がん看護学会・財団法人がんと子供を守る会公開シンポジウムプログラム・総会号）	◎飯田潤一、小林良二、佐野弘純、鈴木大介、上村浩太、富川将史、渡部由希代、谷安弘、後藤順一、土橋誠一郎、坂田博美、小野寺一彦、堀江卓、目黒順一、米川元樹、川村明夫、安田一恵、小林邦彦	347頁～347頁
小児移植看護実践における困難と学習ニーズの検討～小児移植看護学習支援プログラムの構築へ向けて～	共著	2012年02月01日	第34回日本造血幹細胞移植学会（日本造血細胞移植学会総会プログラム・抄録集）	◎上村浩太、佐々木智子、渡部由希代、川合智子、細口美香、富川将史、工藤久美子、佐々木由紀子	325頁～325頁

小児がん看護に携わる看護師の教育ニーズ ～病棟看護師への調査より～	共著	2012年12月01日	第10回日本小児がん看護学会（日本小児血液・がん学会学術集会・日本小児がん看護学会・財団法人がんの子供を守る会公開シンポジウムプログラム・総会号）	◎富川将史、佐々木由紀子、佐々木智子、上村浩太	309頁～309頁
PCAポンプの導入と安全な使用に向けた取り組み	共著	2013年02月01日	第33回札幌病院学会抄録集	◎立花瞳、富川将史、橋本みどり、佐々木由紀子	29頁～29頁
子どものがん性疼痛アセスメントに関する看護師の知識の実態調査	単著	2013年12月01日	天使大学紀要（Vol. 14 No. 1）		1頁～18頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2014年07月01日 ～ 2014年07月01日		札幌北楡病院 研修会「がん看護」			
2015年04月10日 ～ 現在に至る		日本死の臨床研究会北海道支部 世話人			

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 助教	氏名 中洞真理子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

V 教育研究等環境
1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 助教	氏名 新関 幸子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
「ヘルスアセスメント」		2016年04月01日 ～ 2016年07月31日	2年生に対し、身体の構造をイメージしながらフィジカルイグザミネーションとアセスメントができるように学生の理解度を確認しながら指導した。
「基礎看護技術論Ⅲ」		2016年04月01日 ～ 2016年06月30日	2年生に対し、患者に必要な看護を捉えられるように、事例を通して計画の立案、実施、評価の一連について指導を行った。演習では患者の安全、安楽、自立、個性の重要性を強調しながら指導した。
「事例研究」		2016年04月01日 ～ 2016年12月31日	4年生に対し、実習での受け持ち患者の看護実践について論理的にまとめられるように指導した。また、ポスター発表の方法についても指導した。
「統合看護技術演習」		2016年04月01日 ～ 2016年05月31日	4年生に対し、卒業までに修得することが求められている看護技術について主体的に学習し、課題の明確化に向け指導した。また、事例を通して安全・安楽に基づいた計画の立案、実施、評価できるように指導した。
「基礎看護技術論Ⅳ」		2016年05月01日 ～ 2016年07月31日	2年生に対し、治療処置に伴う援助の基礎的知識・技術・態度の意識付けに向けて、学生の理解度を確認しながら指導した。
「基礎看護技術論Ⅰ」		2016年05月01日 ～ 2016年07月31日	1年生に対し、看護における記録と報告の目的、必要性、注意事項について理解できるように図や表を多く活用しながら講義を行った。
「基礎看護学臨地実習Ⅱ」		2016年08月01日 ～ 2016年09月30日	2年生に対し、看護計画や看護技術において、学生へのフィードバックの時間を多くとり、次につなげることができるように指導した。臨床実習指導者と一貫した指導や助言が行えるように調整した。
「基礎看護技術論Ⅱ」		2016年09月01日 ～ 2016年01月31日	1年生に対し、日常生活援助における安全、安楽の必要性・重要性について意識付けできるように授業を展開した。演習では患者設定を行い患者の自立、個性を意識できるように指導した。また、患者体験からの気づき、学びが今後につなげられるように課題用紙を工夫した。
「基礎看護学臨地実習Ⅰ」		2016年10月01日 ～ 2016年10月31日	1年生に対し、初めての实習であることから、学生との関わりを多くし実習目標の達成に向け指導した。
2 作成した教科書、教材、参考書			

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項 公立大学法人札幌市立大学（ティーチング・アシスタント）		2011年10月01日 ～ 2012年02月29日	看護学部1年生80名の基礎看護技術論における演習の補助を行った（体位変換、食事介助、洗髪、全身清拭、足浴、導尿、経口与薬、皮下注射・筋肉注射等）。また、「導尿」では教授の指導の下に授業案の作成を行った。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
仰臥位による足浴の同一体位 がもたらす身体負荷と主観評価	共著	2013年09月01日	日本看護技術学会 第12回学術集会 講演抄録集	新関幸子，大野夏代，樋之津淳子	112頁～112頁
使用済み注射針とキャップの 取り扱いに関する研究－国内 の書籍における横断的検討－	共著	2015年10月17日	日本看護技術学会 第14回学術集会 講演抄録集	新関幸子，明野伸次，荒関由美，樋之 津淳子	119頁～119頁
仰臥位による足浴の同一体位 がもたらす身体負荷に対する 主観と生理反応	共著	2016年04月01日	日本看護技術学会誌15巻1号	新関幸子，大野夏代，樋之津淳子	64頁～73頁
触れるケアはイキイキ働く看護 師を育てます		2016年08月22日	日本看護学教育学会誌 日本看護学 教育学会 第26回学術集会 プログ ラム・講演集		128頁～128頁
使用済み注射針とキャップの 取り扱いに関する国内書籍の 検討	共著	2016年12月26日	天使大学紀要第17巻第1号	新関幸子，明野伸次，荒関由美，樋之 津淳子	63頁～72頁

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	
2013年04月01日 ～ 現在に至る	日本看護技術学会 正会員
2014年04月01日 ～ 現在に至る	日本看護科学学会 正会員
2015年04月01日 ～ 現在に至る	日本看護学教育学会 正会員

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 看護学科	職名 助教	氏名 矢萩 実幸	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
老年看護学Ⅱ	2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	健康な高齢者や介護が必要な高齢者とその家族の看護について2年次の講義を担当した。高齢者にとって家族とは何かをイメージしやすいように学生自身の家族、高齢者にとっての家族について考えグループワークを取り入れ理解を深められるよう工夫した。	
老年看護学臨地実習Ⅰ	2014年04月01日 ～ 現在に至る	見学実習での学生の気づきを促し、臨床判断につながるような振り返りを行った。学生が見学した看護技術を臨地で実際に自分で体験し、考えを発展させる工夫を行った。	
老年看護学臨地実習Ⅱ	2014年04月01日 ～ 現在に至る		
統合看護演習	2015年04月 ～ 現在 に至る		
統合看護臨地実習	2015年04月 ～ 現在 に至る		
老年看護学Ⅲ	2016年04月 ～ 現在 に至る		
栄養・看護演習	2016年04月 ～ 現在 に至る		
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			

旭川大学保健福祉学部看護学科(専任教員)		2011年04月01日 ～ 2012年03月31日	老年看護学実習、基礎看護学実習Ⅰ、統合看護学実習を担当した。成人看護活動論Ⅰ、Ⅱの演習補助、老年看護活動論Ⅰの演習の補助、コミュニティー福祉学科の介護概論の演習の補助を行った。		
旭川医科大学医学部看護学科(非常勤講師およびT A)		2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	基礎看護技術学Ⅱにおける演習の補助、基礎看護学実習Ⅰの実習補助を行った。看護過程論実習を担当し、医学部の1年生に対して早期体験実習Ⅰを行った。実践看護技術学Ⅲ(老年看護学)の演習の補助を行った。		
Ⅱ 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
看護師のEnd-of-lifeに対する意識と後期高齢者の療養場所の意思決定支援	単著	2014年09月01日	第38回日本死の臨床研究会年次大会		
後期高齢者の療養場所決定に関する病棟看護師の支援—家族を含めた援助の実例—	単著	2015年	日本老年看護学会第20回学術集会		
分散型実習による老年看護学臨地実習Ⅰの実例—実習指導者からの分析—	共著	2015年	第35回日本看護科学学会学術集会		
老年看護学臨地実習Ⅰの学生の学び-隔週実習の記録からの分析-	共著	2016年07月13日	第47回日本看護学科—看護教育—学術集会抄録集	矢萩実幸、谷井康子、福田早織	225～225
助産師の死生観に関する研究の文献検討	単著	2016年09月05日	死の臨床68Vo1. 39No. 2		485～485
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2015年03月01日 ～ 2016年03月31日		日本看護科学学会、日本死の臨床研究会、日本老年看護学会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本臨床死生学会			

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

(表10)

所属 看護学科	職名 助教	氏名 横山 聖美	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
がんで配偶者を亡くした子どもを抱える寡婦の死別後ストレスと対処	共著	2014年03月01日	第28回日本がん看護学会学術集会	◎横山聖美、菅原邦子	182頁～182頁

アメリカにおけるホスピス・緩和ケアとグリーフサポートの実際～ニューヨーク緩和ケア視察研修を通して～	単著	2015年08月31日	天使大学紀要, 15(2)		55～64
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2013年10月01日 ～ 現在に至る	日本がん看護学会 正会員				
2015年05月14日 ～ 現在に至る	第40回日本死の臨床研修会年次大会実行委員/運営委員/査読委員				
2015年05月21日 ～ 現在に至る	日本緩和医療学会 正会員				
2016年04月04日 ～ 現在に至る	日本死の臨床研究会 会員				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

(表10)

所属 栄養学科		職名 教授		氏名 武藏 学		大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)	
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				2014年04月11日 ～ 2014年04月11日		生涯発達論の導入として、愛、存在意義、老い、死などをテーマとし、欧米で広く読まれている童話『ピロードうさぎ』を朗読し、感想を求めた。若い学生が老化・死・生命などを考える契機となった。	
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称		編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書							
ワクチンと大学の保健管理ガイドブック2012			2012年04月01日	国立大学法人保健管理施設協議会			39頁～45頁
論文							

健康診断の血液検査で発見されたサラセミアの9例	共著	2012年04月01日	CAMPUS HEALTH 49	吉村 彩、武藏 学、大西俊介、奈良部正子、折戸智恵子、山城安啓、服部幸夫	9頁～14頁
大学生の違法薬物への意識とライフスタイル要因との関連	共著	2012年04月01日	厚生の指標 59 (15)	北田雅子、武藏 学、大浦麻絵、中村永友	19頁～28頁
	共著	2013年04月01日			50頁～52頁
チロシンキナーゼ阻害剤投与中に消化管出血をきたした慢性骨髄性白血病	共著	2014年04月01日	臨床血液55 (1)	斎藤誠、泉山康、盛暁生、入江達朗、田中雅則、森岡正信、佐賀啓良、武藏学、加藤貴志、目黒高志、谷野美智枝	130頁～132頁
	共著	2014年04月01日			949頁～956頁
	共著	2014年04月01日			851頁～855頁
北海道大学における動物実験実施者等の実験動物への感作状況	共著	2014年04月01日	アレルギー63 (8)	吉村彩、武藏 学、金子壮朗、大西俊介、折戸智恵子、川原由佳子、橋野聡、森松正美、今野哲、有川二郎、石井哲也、澤村正也、上田一郎	1132頁～1139頁
2型糖尿病患者に対するトランスセオレティカルモデルに基づく栄養指導の効果における罹病期間並びに指導頻度の影響	共著	2015年	日本健康医学会雑誌 24巻2号	中川幸恵、森谷紱、石川祐一、米代武司、武藏学	103～113
運動と食事行動変容支援による体力とメタボリックシンドロームの改善～北海道における自発的運動実施の季節変動を考慮した解析	共著	2015年	北海道体育学研究 50巻	百々瀬いづみ、森谷紱、清水真理、小林良子、梅澤敦子、鈴木純子、久保ちづる、山口敦子、峯岸夕紀子、松下真美、白幡亜希、古川直美、村尾咲音、斎藤昌之、武藏学、大久保岩男	25～41
	共著	2015年07月16日		Hirokazu Kimura, Satoshi konno, Akira Isada, Yukiko Meda, Manabu Musashi, and Masaharu Nishimura	293～299
III 学会等および社会における主な活動					
～ 2014年03月31日		全国大学保健管理協会 理事			
～ 2013年03月31日		全国大学保健管理協会北海道地方部会 代表世話人			
～ 2015年03月31日		日本血液学会 評議員			

2009年04月01日 ～ 現在に至る	日本産業衛生学会 会員
2012年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会 会員

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 教授	氏名 山口 敦子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2005年04月01日～ 現在に至る	授業の準備・教授方：講義の内容はテキストや参考図書を利用して知識の向上を目指している。新しい情報やテキストに収載されていない内容については、プリントやパワーポイントを使用して補足をしているまた、授業の最後には練習問題を行い解説をしている。疑問点については、次回の講義において解説している。出来る限り実践的に考えられるように媒体を使用し興味を持てるような工夫をしている。実習科目では、まず視覚で理解してから実践できるように展開している。少人数でグループを構成し自主的に作業が行えるように、また講義で習得した知識を再確認できるような調理科学実験の要素も盛り込んでいる。終了後は実習内容についての関連項目へのレポート作成を行い、調理操作への理解や技術の習得の向上を目指している。実践することにより授業に対する興味や関心が深まり、学生が自主的に行動できるように成長している。
2 作成した教科書、教材、参考書		～ 2011年10月10日	栄養科学シリーズNEXT 「公衆栄養学」初版 講談社
食べ物と健康IV 「食事設計と栄養・調理」初版 三共出版		2015年03月01日～ 現在に至る	
四訂 応用栄養学〔第2版〕建帛社		2016年02月01日～ 現在に至る	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
1) 「天使健康栄養クリニックの開設によるメタボリックシンドロームの臨床栄養学的研究と大学院生の実践教育		2008年04月01日～ 現在に至る	地域住民を対象とした、「天使健康栄養クリニック」のスタッフとして主に食事指導を担当している。
II 研究活動			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
栄養科学シリーズNEXT 公衆 栄養学実習	共著	2011年10月01日	講談社	シリーズ総編集者：中坊幸弘、山本 茂 共同執筆者：金田雅代、郡 俊 之、酒井 徹、山本 茂、市川陽子、 梯 紋子、川野 因、草間かおる、國 井大輔、久野一恵、久保田恵、小間切 美保、佐野文恵、猿倉薫子、澤村恭 子、鹿内彩子、清水行栄、志村二三 夫、田栗恵美子、竹市仁美、垂水千 恵、巴 美樹、富金原美奈、松尾知 恵、柳沢香絵、山口敦子、脇川典子	98頁～101頁
食べ物と健康Ⅳ 食事設計と栄養・調理	共著	2015年03月01日	三共出版	編著：菊池和美 共同執筆者：藤本真 奈美、林 千登勢、市川晶子、金高有 里、宮下ひろみ、森田香絵、杉村留美 子、高橋ひとみ、富永暁子、山口敦子	124頁～133頁
四訂 応用栄養学	共著	2016年02月01日	建帛社	編著：江澤郁子、津田博子 共同執筆 者：笹岡（坪山）宜代、勝野由美子、 河野篤子、五関正江、白木啓三、田中 一成、藤井久雄、松田早苗、松本晴 美、山口敦子、大和孝子	242頁～246頁
論文					
北海道の行事食－認知・経験 の現状－	共著	2011年08月01日	日本調理科学会平成23年度大会	木下敦子、菅原久美子、菊地和美、酒 向史代、坂本恵、高橋セツ子、土屋律 子、芳賀みづえ、藤本真奈美、村上知 子、村田まり子、山口敦子、山崎圭子	
北海道の儀礼食	共著	2011年08月01日	日本調理科学会平成23年度大会	菅原久美子、木下敦子、菊地和美、酒 向史代、坂本恵、高橋セツ子、土屋律 子、芳賀みづえ、藤本真奈美、村上知 子、村田まり子、山口敦子、山崎圭子	
健康行動および心理的尺度の 変容に対する性格特性の関与 －天使健康栄養クリニックを 事例に－	共著	2011年09月01日	第58回日本栄養改善学会学術総会	梅沢敦子、森谷 梨、百々瀬いづみ、 小林良子、清水真理、伊藤和枝、木谷 信子、山口敦子、鈴木純子、松下真 美、斎藤昌之	

運動実施の支援による体力・自己効力感の向上とメタボリックシンドロームの予防・改善	共著	2011年11月01日	北海道体育学会	百々瀬いづみ、森谷 梨、清水真理、小林良子、伊藤和枝、木谷信子、山口敦子、鈴木純子、松下真美、斎藤昌之、大久保	
Study on the necessary Survey days for energy intake in school children Assessed by 7 days Survey.	共著	2012年02月01日	The Journal of Medical Investigation Vol.59No.1,2, February, 2012	Atsuko Yamaguti, Nobuko Tanaka, Yoko Eguchi, Kazue Kuno, Noriko Wakikawa, Nobuko Sarukura, Mina Fukinbara, higeru Yamamoto	111頁～115頁
食行動変容とメタボリックシンドロームの病態改善が Quality of Life に及ぼす影響	共著	2012年03月01日	天使大学紀要Vol. 12	清水真理、森谷梨、伊藤和枝、斎藤昌之、牧田章、小林良子、山口敦子、百々瀬いづみ、原美智子、木谷信子、鈴木純子、松下真美、佐藤あゆみ、梅沢敦子、関谷千尋	33頁～52頁
トランスセオレティカルモデルに基づく個別支援による健康行動変容で見られた個人差～「天使健康栄養クリニック」2008と2009からの検討	共著	2012年03月01日	天使大学紀要Vol. 12	小林良子、森谷梨、百々瀬いづみ、清水真理、牧田章、伊藤和枝、木谷信子、山口敦子、斎藤昌之、松下真美、関谷千尋	69頁～86頁
2010年度・2011年度天使大学特別研究報告書「天使健康栄養クリニック」の開設継続によるメタボリックシンドロームの臨床栄養学的研究並びに健康行動変容研究を通じた大学院生の実践的教育報告書	共著	2012年03月01日	天使大学	代表者：関谷千尋、森谷梨 分担者：伊藤和枝、大久保岩男、小林良子、山口敦子、斎藤昌之、鈴木純子、牧田章、松下真美、百々瀬いづみ、大学院生：石川恵美、梅沢敦子、清水真理、田中明子	
食事指導と平行した運動実施支援による体力並びにメタボリックシンドロームの改善～中高年女性における検討～	共著	2012年04月01日	北海道体育学研究Vol. 47	百々瀬いづみ、森谷梨、小林良子、清水真理、伊藤和枝、山口敦子、鈴木純子、松下真美、牧田章、斎藤昌之、大久保岩男、関谷千尋	1頁～13頁
調理体験をととした食育の推進ー幼児期における実践プログラムー	共著	2012年05月01日	第6回日本食育学会・学術大会	山口敦子、荒井真奈美、小林由季、山口暦美	
運動実践の支援による体力向上とメタボリックシンドロームの改善効果	共著	2012年06月01日	第14回日本体力医学北海道地方会学術集会	百々瀬いづみ、森谷 梨、小林良子、梅沢敦子、牧田 章、鈴木純子、山口敦子、松下真美、清水真理、田中明子、石川恵美、斎藤昌之、大久保岩男	

北海道の儀礼食－喫食・調理状況－	共著	2012年08月01日	日本調理科学会平成24年度大会	山口敦子、藤本真奈美、菊池和美、木下敦子、酒向史代、坂本恵、菅原久美子、高橋セツ子、土屋律子、芳賀みづえ、村上知子、村田まり子、山崎圭子	
北海道の儀礼食－喫食状況－	共著	2012年08月01日	日本調理科学会平成24年度大会	坂本恵、土屋律子、菊池和美、木下敦子、酒向史代、菅原久美子、高橋セツ子、芳賀みづえ、藤本真奈美、村上知子、村田まり子、山口敦子、山崎圭子	
北海道の行事食と儀礼食－親子間における認知・経験の違い－	共著	2012年08月01日	日本調理科学会平成24年度大会	菊池和美、菅原久美子、木下敦子、酒向史代、坂本恵、高橋セツ子、土屋律子、芳賀みづえ、藤本真奈美、村上知子、村田まり子、山口敦子、山崎圭子	
3 カ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果 - 2011 年度「天使健康栄養クリニック」からの検討	共著	2012年09月01日	第59回日本栄養改善学会学術総会	鈴木純子、山口敦子、松下真美、清水真理、田中明子、森谷 梨、小林良子、百々瀬いづみ、梅沢敦子、石川恵、斎藤昌之、大久保岩男	
トランスセオレティカルモデルに基づく支援による健康行動変容の効果と観察された個人差の検討	共著	2012年09月01日	第59回日本栄養改善学会学術総会	小林良子、森谷 梨、百々瀬いづみ、梅沢敦子、鈴木純子、山口敦子、松下真美、清水真理、田中明子、石川恵美、斎藤昌之、大久保岩男	
トランスセオレティカルモデルに基づく支援による健康行動変容とメタボリックシンドロームの予防・改善	共著	2012年09月01日	第59回日本栄養改善学会学術総会	森谷 梨、百々瀬いづみ、小林良子、梅沢敦子、鈴木純子、山口敦子、松下真美、清水真理、田中明子、石川恵美、斎藤昌之、大久保岩男	
3 カ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果 - 2011 年度「天使健康栄養クリニック」からの検討	共著	2013年09月01日	第60回日本栄養改善学会学術総会	鈴木純子、山口敦子、松下真美、清水真理、田中明子、森谷 梨、小林良子、百々瀬いづみ、梅沢敦子、石川恵美、宮崎早花、福士一恵、和田実央、大久保岩男	
エゾシカ肉の調理特性	共著	2014年05月01日	日本食生活学会第 4 8 回大会	日本食生活学会第 4 8 回大会	
卒後教育プログラムの構築とその評価－e-ラーニング活用の可能性－	共著	2014年06月01日	天使大学紀要Vol. 14 No.2.	鈴木純子、小林良子、白幡亜希、松下真美、百々瀬いづみ、山口敦子	1頁～11頁

平成24～25年度特別研究『次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理』聞き書き報告書	共著	2014年06月01日	日本調理科学会『次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理』委員会	組織委員長：長野宏子 副委員長：河野一世、中澤弥子 東北・北海道支部責任者：菅原悦子 北海道：菊池和美、木下教子、坂本恵、菅原久美子、土屋律子、藤本真奈美、村上知子、村田まり子、山口敦子、鐘ヶ江あゆ美、坂本佳菜子、佐藤恵、庭 亜子、畑井朝子、宮崎早花、田中ゆかり	21頁～38頁
3カ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果ー2011～2013年度「天使健康栄養クリニック」からの検討ー	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会学術総会	鈴木純子、森谷 梨、清水真理、久保ちづる、白幡亜希、松下真美、峰岸夕紀子、山口敦子、梅沢敦子、小林良子、百々瀬いづみ、武蔵学、大久保岩男	
食生活の変化とメンタルヘルスの関連性	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会学術総会	福士一恵、鈴木純子、大久保岩男、清水真理、久保ちづる、白幡亜希、松下真美、峰岸夕紀子、山口敦子、梅沢敦子、小林良子、百々瀬いづみ、武蔵学、森谷 梨	
摂食回復支援食と通常食との組織学的・免疫組織学的検討ー主として食肉ー	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会学術総会	賀来 亨、山口敦子	
書誌情報からみる北海道の家庭・郷土料理	共著	2014年08月01日	日本調理科学会平成26年度大会	土屋律子、坂本恵、鐘ヶ江あゆ美、菊池和美、木下教子、坂本佳菜子、佐藤恵、菅原久美子、田中ゆかり、庭 亜子、畑井朝子、藤本真奈美、宮崎早花、村上知子、村田まり子、山口敦子	
Serum DJ-1 Level is positively associated with improvements in some aspects of metabolic syndrome in Japanese women through lifestyle intervention.	共著	2014年09月01日	Nutrition Research Vol.34	Takuya Yamane, Sato Murao, Miyuki kozuka, Mari Shimizu, Junko Suzuki, Chizuru Kubo, Ttsuko Yamaguchi, Manabu Musashi, Yukiko Minegishi, Izumi Momose, Mami Matsushita, Aki shirahata, Naomi Furukawa, Ryoko kobayashi, atsuko Umezawa, Megumi Sakamoto, Kiyoshi Moriya, Masayuki Saito, Akira Makita, Iwao Ohkubo, Hiroyoshi Ariga	851頁～855頁

運動実施支援による体力改善に及ぼす運動実施の季節変動	共著	2014年11月01日	2014年北海道体育学会	百々瀬いづみ、森谷 梨、清水真理、小林良子、梅沢敦子、鈴木純子、久保ちづる、山口敦子、峰岸夕紀子、松下真美、白幡亜希、古川直美、斉藤昌之、武蔵学、大久保岩男	
生活習慣病の予防・改善のための卒後教育プログラムの構築とその評価－e-Learning活用の可能性－	共著	2014年12月01日	第12回日本栄養改善学会北海道支部学術総会	白幡亜希、小林良子、松下真美、百々瀬いづみ、山口敦子、鈴木純子	
運動と食行動変容支援による体力とメタボリックシンドロームの改善～北海道における自発的運動実施の季節変動を考慮した解析	共著	2015年06月02日	北海道体育学研究Vol. 50	百々瀬いづみ、森谷 梨、清水真理、小林良子、梅沢敦子、鈴木純子、久保ちづる、山口敦子、峰岸夕紀子、松下真美、白幡亜希、古川直美、村尾咲音、斉藤昌之、武蔵学、大久保岩男	p. 25～p. 41
書誌からみる北海道の地域別料理の特徴	共著	2015年08月24日	日本調理科学会平成27年度大会	佐藤恵、宮崎早花、鐘ヶ江あゆ美、菊池和美、木下敦子、坂本佳菜子、坂本恵、菅原久美子、田中あゆかり、土屋律子、庭亜子、畑井朝子、藤本真奈美、村上知子、山口敦子	p. 35
聞き書き調査から見る北海道の家庭・郷土料理	共著	2015年08月24日	日本調理科学会平成27年度大会	庭亜子、木下敦子、鐘ヶ江あゆ美、菊池和美、坂本佳菜子、坂本恵、佐藤恵、菅原久美子、田中あゆかり、土屋律子、畑井朝子、藤本真奈美、宮崎早花、村上知子、山口敦子	p. 55
空腹時、満腹時の味覚の検討	共著	2015年09月26日		勝野由美子、山口敦子、石黒利佳、岩瀬彩奈、川合佑果、児玉悠月、小松佳奈、清水彬可、高城美里杏、深貝友香梨、賀来亨	p. 39
青年と中高年における食生活とメンタルヘルスの関連性	共著	2015年12月20日	天使大学紀要 Vol. 16 No. 1	富士一恵、鈴木純子、大塚吉則、大久保岩男、清水真理、白幡亜希、松下真美、百々瀬いづみ、山口敦子、梅沢敦子、小林良子、斉藤昌之、久保ちづる、古川直美、峰岸夕紀子、武蔵学、森谷 梨	p. 1～p. 19
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2008年10月01日 ～ 現在に至る		ウイズガス全国親子クッキングコンテスト南大会審査委員長			

2009年07月01日 ～ 現在に至る	北海道調理師試験委員
2010年06月01日 ～ 現在に至る	札幌市東区食育推進ネットワーク委員
2011年07月01日 ～ 2011年07月31日	主催：北海道社会福祉栄養士協議会 平成23年度新任栄養士研修会 講師 テーマ「福祉施設における栄養士の役割」 対象者：約80名
2011年08月01日 ～ 2011年08月31日	主催：興部町食を考える協議会 「子どもの食育料理教室」講師 対象者：興部町児童・生徒約30名
2011年09月01日 ～ 2011年09月30日	主催：札幌市保健所 「平成23年度料理フェスティバル」講師 対象者：一般市民約250名
2011年10月01日 ～ 2011年10月31日	主催：北海道ガス 「第4回ウイズガス 全国親子クッキングコンテスト」 審査員
2011年11月01日 ～ 2011年11月30日	主催：札幌市手稲中学校区青少年健全育成推進会 食育講演会 講師 対象者：手稲中学校地区PTA約100名
2011年11月01日 ～ 2011年11月30日	主催：株式会社HMカンパニー 第1回つけものT-1グランプリ コンテスト審査員
2012年07月01日 ～ 2012年07月31日	主催：北海道社会福祉栄養士協議会 平成24年度新任栄養士研修会 講師 テーマ「福祉施設における栄養士の役割」 対象者：約80名
2012年10月01日 ～ 2012年10月31日	主催：北海道ぎょれん 「浜の母さん料理教室」講師 対象者：大学生約35名
2012年10月01日 ～ 2012年10月31日	主催：北海道ガス 「第5回ウイズガス 全国親子クッキングコンテスト」 審査員
2012年12月01日 ～ 2012年12月31日	主催：札幌市東区食育推進ネットワーク 「食育ファスティバル」 対象者：一般市民約300名
2013年03月01日 ～ 2013年03月31日	主催：ベターホーム協会 「ベターホーム協会リーダー会員勉強会」講師 対象者：ベターホーム協会リーダー会員20名
2013年04月01日 ～ 現在に至る	札幌市中央卸売市場開設運営協議会委員
2013年06月01日 ～ 2013年06月30日	主催：福祉法人札幌福祉事業会 「親子食育教室」講師 対象者：親子40名
2013年07月01日 ～ 2013年07月31日	主催：北海道社会福祉栄養士協議会 平成24年度新任栄養士研修会 講師 テーマ「福祉施設における栄養士の役割」 対象者：約90名
2013年08月01日 ～ 現在に至る	北海道卸売市場審議会委員
2013年10月01日 ～ 2013年10月31日	主催：北海道ガス 「第6回ウイズガス 全国親子クッキングコンテスト」 審査員
2013年10月01日 ～ 2013年10月31日	主催：北海道ぎょれん 「浜の母さん料理教室」講師 対象者：大学生約40名
2014年01月01日 ～ 2015年03月31日	札幌の医療と健康を語る会委員

2014年08月01日 ～ 2014年08月31日	主催：北海道教育委員会 第57回北海道学校給食研究大会 分科会助言者「地場産物を活用した献立の工夫と衛生管理」対象者：約250名
2014年08月01日 ～ 2014年08月31日	主催：猿払村 「地域特産品のプロデュース」（夏祭りへの協力）約300人
2014年10月01日 ～ 2014年10月31日	主催：北海道ガス 「第7回ウイズガス 全国親子クッキングコンテスト」 審査員
2014年11月01日 ～ 2014年11月30日	主催：社会福祉法人伏見寮 「親子料理教室」講師 対象者：親子約50人
2015年01月01日 ～ 2015年01月31日	主催：北海道教育委員会 平成26年度新規採用 栄養教諭研修会 講師 「調理技術の向上と調理指導」 対象者：約20名
2015年08月07日 ～ 2015年08月07日	主催：北海道教育委員会 「第57回北海道学校給食研究大会」 分科会 助言者 対象者：約300名
2015年10月03日 ～ 2015年10月03日	主催：札幌デンタル・ラボラトリー 「食べ物で身体はかわる？」 講師 対象者：約250名
2015年10月17日 ～ 2015年10月17日	主催：北海道ガス 「第8回ウイズガス全国親子クッキングコンテスト」 審査員

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 教授	氏名 荒川 義人	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2005年04月01日 ～ 現在に至る	（１）授業の準備の仕方、教授法などでの工夫 講義科目においては、基礎知識の習得にはできる限り指定したテキストの記述、図表を用い、また、それらの補足説明及び関連する新しい情報については、パワーポイント等を活用して、視覚に訴え、幅広い専門知識が身につくように授業を計画し、展開している。各授業時間に、その時間や以前の授業内容、あるいは日常で疑問に感じた関連事項への質問を受け付け、次回の講義開始前に解説して授業の理解と関心を深めるように努めている。また、実験科目においては、実験技術の習得のみならず、講義で修得した知識を実験的に確かめることを意識した解説に始まり、報告書の作成方法、実験的考察力をしっかり身につけることに重点を置いて展開している。実験課題ごとに、報告書の詳細な添削を実施している。分析機器を積極的に活用した実験を取り入れ、学生を少人数のグループに分けてテーマを与え、可能な限り機器に一人ひとりが触れ、操作技術の理解、習得を達成するように工夫し効果を上げている。 （２）授業に対する学生の反応 講義科目では、聴覚機材を活用して写真、図表を示すことで、知識の理解が容易になると学生の評価は良好である。食品の科学的解説が進むにつれて、学生達の関心も高まり、様々な質問も出るようになり、食品の科学的理解が深まっていることが推察される。また実験科目では、報告書作成の指導効果が速やかに現れてくる。とくに実験結果に対する考察力の成長は著しい。学生の授業評価の得点は高い。 （３）学生に対する評価 講義：試験成績と出席状況により評価している。 実験：出席、レポート内容、レポート提出状況により評価している。 演習：出席状況、プレゼンテーション及びディスカッションの内容で評価している。 評価に関する不満、不公平感は学生から出ていない。
2 作成した教科書、教材、参考書		2010年03月01日 ～ 現在に至る	
「食べ物と健康Ⅰ」 食品と成分 第2版		2010年03月01日 ～ 現在に至る	
「食べ物と健康Ⅱ」 食品と特性 第2版		2010年03月01日 ～ 現在に至る	

「食べ物と健康Ⅱ」 食品と成分 第3版			2011年03月30日 ～ 現在に至る		
「食べ物と健康Ⅱ」 食品と特性 第3版			2011年05月01日 ～ 現在に至る		
「食べ物と健康Ⅱ」 食品の機能			2013年06月01日 ～ 現在に至る		
「食べ物と健康Ⅰ」 食品の分類と成分			2013年10月01日 ～ 現在に至る		
「食べ物と健康Ⅰ」 食品の分類と成分 第2版			2016年03月20日 ～ 現在に至る		
「食べ物と健康Ⅱ」 食品の機能 第2版			2016年03月20日 ～ 現在に至る		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
Ⅱ 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
「食べ物と健康Ⅱ」 食品と 特性 第3版	共著	2011年05月01日	三共出版	編著者：荒川義人 共同執筆者：池添博彦、太田智樹、 小川貴代、鮫島邦彦、中河原俊治、 前田利恭、松坂裕子	1～149頁全監修
パソコンで学ぶ 元気で生き る 健康科学	共著	2011年06月01日		編著者：荒川義人、渡部俊弘 共同執筆者：岡本裕、坂本恵、 桜井智野風、鈴木智典	88頁～90頁、96頁～98頁、102頁 ～105頁、109頁～110頁、115頁 ～116頁、120頁～121頁、126頁 ～127頁

食べ物と健康Ⅱ 食品の機能	共著	2013年06月01日	三共出版	共同執筆者：荒川義人、金澤匠、菊地和美、松坂裕子、西隆司、小野寺秀一、知地英征	15～19頁
論文					
ローズヒップを中心とするハーブ茶のリラックス効果と脳波α波パワー値変化の比較	共著	2011年09月01日	第58回日本栄養改善学会学術総会	清水やよい、森谷きよし、坂本恵、金澤康子、西隆司、荒川義人	
ハスカップ茶浸出液が糖質消化酵素活性に及ぼす影響	共著	2011年12月01日	第10回日本栄養改善学会近畿支部学術総会	山田徳広、坂本恵、清水やよい、荒川義人、森谷きよし	
アロニア抽出物によるdipeptidyl peptidaseⅣ活性の阻害効果	共著	2014年06月01日	第68回日本栄養・食糧学会大会	小塚美由紀、山根拓也、村尾咲音、井上務、荒川義人、大久保岩男、有賀寛芳	
ダッタンソバ茹麺に含まれるα-グルコシダーゼ阻害成分について	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会学術総会	田中洋子、鳥海滋、大坪雅史、荒川義人	
ハスカップを中心とするミックスハーブ茶のストレス軽減効果の検討	共著	2014年12月01日	天使大学紀要、15巻、1号、1-18	坂本恵、長能（清水）やよい、金沢康子、荒川義人、森谷契	
ダッタンソバ茶浸出液の血糖値上昇抑制の可能性について	共著	2014年12月01日	第12回日本栄養改善学会北海道支部学術総会	碓沙夜、石川里奈、上田美穂、工藤恵美、田中洋子、荒川義人	
ダッタンソバに含まれるルチン、ケルセチンのα-グルコシダーゼ阻害活性について	共著	2014年12月01日	第12回日本栄養改善学会北海道支部学術総会	田中洋子、鳥海滋、大坪雅史、西隆司、大久保岩男、荒川義人	
タマネギ	共著	2015年	第12	遠田万智、村尾咲音、阿部笙子、岡本紅羽、島尻夏実、田中洋子、荒川義人	
北海道食品機能性表示制度（愛称：ヘルシーD0）の現状	単著	2015年01月01日	農家の友、1月号、20-23		
北海道産サルナシの果実に含まれるシステインプロテアーゼの生理機能に関する研究	共著	2015年09月	第62回日本栄養改善学会学術総会	宮崎早花、米田実央、小塚美由紀、荒川義人、大久保岩男	
タマネギに含まれるα-グルコシダーゼ阻害成分について	共著	2015年09月	第	田中洋子、木野村美花、荒川義人	

タマネギ新品種「ゆめせんか」の品質特性に関する研究	共著	2015年09月	第	村尾咲音、荒川義人	
幼児の家庭におけるトマト栽培とトマトに対する嗜好や摂食行動、食に対する興味・関心との関連	共著	2015年09月	62	木田春代、武田文、荒川義人	
タマネギの血糖値上昇抑制の可能性について		2015年12月	第12回日本栄養改善学会北海道支部学術総会		
幼稚園における野菜栽培活動が幼児の偏食に及ぼす影響ートマト栽培に関する検討ー	共著	2016年02月	栄養学雑誌Vol. 74No. 1	木田春代、武田文、荒川義人	20～28
III 学会等および社会における主な活動					
2005年06月01日 ～ 現在に至る	北海道フードマイスター検定制度運営委員会 副委員長				
2007年01月01日 ～ 現在に至る	北海道食育コーディネーター会議座長（北海道知事委嘱）				
2007年04月01日 ～ 現在に至る	北海道調理師試験会 委員				
2007年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養・食糧学会評議員				
2007年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会北海道支部幹事				
2007年04月01日 ～ 現在に至る	財団法人北農会有機農産物検査・認証センター判定委員会審査委員				
2007年07月01日 ～ 現在に至る	札幌市食育推進会議会長（札幌市長委嘱）				
2008年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会評議員				
2010年09月01日 ～ 現在に至る	道産農産物の機能性等の活用に関する検討会構成員				
2011年06月01日 ～ 2011年06月30日	札幌市中央区「食育セミナー」講師				
2011年07月01日 ～ 2011年07月31日	平成23年度民間放送教育協会北海道大会シンポジウム・シンポジスト				
2011年07月01日 ～ 2011年07月31日	第53回北海道学校給食研究大会基調講演講師				
2011年11月01日 ～ 2011年11月30日	平成23年度北海道・市町村交流職員研修会講演講師				
2011年11月01日 ～ 2011年11月30日	平成23年度 J A 上川地区青年部大会講演講師				

2011年11月01日 ～ 2011年11月30日	平成23年度奈井江町健康フォーラム講師
2012年01月01日 ～ 2012年01月31日	札幌市中央区食生活改善推進員研修会講師
2012年03月03日 ～ 2012年03月31日	『日高管内消費者の集い』食育セミナー講師
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	札幌市食育推進会議 会長
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	北海道食育コーディネーター会議 座長
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	北海道フードマイスター検定制度運営委員会 副委員長
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	北海道野菜ブランド品種認定協議会 委員
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	北海道食品機能性表示制度委員会 委員
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	北海道調理師試験 委員
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	管理栄養士国家試験 委員
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	ノーステック財団「研究開発助成事業」に係る専門委員
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	日本栄養・食糧学会参与
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	日本栄養改善学会評議員 理事
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	コープさっぽろ農業賞審査委員長
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	道産食品独自認証制度（きらりっぷ）官能検査専門委員
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	全国親子クッキングコンテスト北海道大会審査委員長
2014年05月01日 ～ 2014年05月31日	ヘルスイノベーションカレッジ（アドバンス）講師（札幌）
2014年07月01日 ～ 2014年07月31日	北海道フードビジネスセミナー講師（東京）
2014年10月01日 ～ 2014年10月31日	ヘルスイノベーションカレッジ（ベーシック）講師（札幌）
2014年10月01日 ～ 2014年10月31日	北方系機能性植物研究会シンポジウム講師（札幌）
2014年12月01日 ～ 2014年12月31日	北海道バイオ産業クラスターフォーラム講師
2015年02月01日 ～ 2015年02月28日	コープさっぽろ農業賞フォーラム講師（室蘭）

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 特任教授	氏名 大久保 岩男	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)				
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概	要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2008年04月01日 ～ 2015年03月31日	学生が理解し易い様，パワーポイントとプリントの内容を同一とし，講義を行った。				
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年08月01日 ～ 2011年08月31日 2012年07月01日 ～ 2012年07月31日	コンパクト生化学（改訂第3版）発行 南江堂 管理栄養士 国家試験問題の傾向と対策 第22回～26回 過去問の分析と配列による徹底演習 アイ・ケイコーポレーション				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2013年05月01日 2013年09月01日	小児の発達と栄養. 平成25年度生涯学習研修会（北海道栄養士会） 幼児の不慮の事故を防ぐための豆知識. 2013年度天使大学・北海道薬科大学連携公開講座				
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							

論文					
Memory immune responses against pandemic (H1N1) 2009 influenza virus induced by a whole particle vaccine in cynomolgus monkeys carrying Mafa-A1*052:02.	共著	2012年04月01日	PloS one, 7巻5号	Arikata M, Itoh Y, Okamatsu M, Maeda T, Shiina T, Tanaka K, Suzuki S, Nakayama M, Sakoda Y, Ishigaki H, Takada A, Ishida H, Soda K, Pham VL, Tsuchiya H, Nakamura S, Torii R, Shimizu T, Inoko H, Ohkubo I, Kida H, Ogasawara K.	1頁～21頁
Purification, molecular cloning and functional characterization of swine phosphatidylethanolamine-binding protein 4 from seminal plasma.	共著	2012年04月01日	Biochem. Biophys. Res. Commun. 423巻4号	An L-P, Maeda T, Sakaue T, Takeuchi T, Yamane T, Du P-G, Ohkubo I, Ogita H.	690頁～696頁
Domain 5 of high molecular weight kininogen inhibits collagen-mediated cancer cell adhesion and invasion in association with α -acyinin-4	共著	2012年04月01日	Biochem. Biophys. Res. Commun. 427巻3号	Hatoh T, Maeda T, Takeuchi K, Ogikubo O, Uchiyama S, Otsuka T, Ohkubo I, Ogita H.	497頁～502頁
食事指導と平行した運動実施支援による体力並びにメタボリックシンドロームの改善～中高年女性における検討	共著	2012年04月01日	北海道体育学研究 47巻	百々瀬いづみ, 森谷 紉, 小林良子, 清水真理, 伊藤和枝, 山口敦子, 鈴木純子, 松下真美, 牧田章, 斉藤昌之, 大久保岩男, 関谷千尋	1頁～13頁
Knockdown of legumain inhibits cleavage of annexin A2 in the mouse kidney.	共著	2013年04月01日	Biochem. Biophys. Res. Commun. 430巻3号	Yamane T, Hachisu R, Yuguchi M, Takeuchi K, Murao S, Yamamoto Y, Ogita H, Takasawa T, Ohkubo I, Ariga H.	482頁～487頁
幼稚園における野菜栽培活動の状況とその食育効果 ー 北海道某市での調査 ー	共著	2013年04月01日	天使大学紀要 13巻2号	木田春代, 武田 文, 荒川義人, 大久保岩男	1頁～11頁
Significance of serum Zn- α 2-glycoprotein for the regulation of blood pressure.	共著	2014年04月01日	Hypertens Res	Kurita S, Takeuchi K, Hayashi Y, Ueyama H, Zankov DP, Pang X, Otsuka T, Ohkubo I, Ogikubo O, Ogita H.	In press～In press

Serum DJ-1 level is positively associated with improvements in some aspects of metabolic syndrome in Japanese women through lifestyle intervention.	共著	2014年04月01日	Nutr Res 34巻10号	Yamane T, Murao S, Kozuka M, Shimizu M, Suzuki J, Kubo C, Yamaguchi A, Musashi M, Minegishi Y, Momose I, Matsushita M, Shirahata A, Furukawa N, Kobayashi R, Umezawa A, Sakamoto M, Moriya K, Saito M, Makita A, Ohkubo I, Ariga H.	851頁～855頁
Rapid and simple purification of lysozyme from the egg shell membrane.	共著	2015年04月01日	J Nutr Sci Vitaminol. 61巻1号	Kozuka M, Murao S, Yamane T, Inoue T, Ohkubo I, Ariga H.	101頁～105頁
Identification and characterization of a dipeptidyl peptidase IV inhibitor from aronia juice.	共著	2015年04月01日	Biochem Biophys Res Commun 465巻3号	Kozuka M, Yamane T, Nakano Y, Nakagaki T, Ohkubo I, Ariga H□	433頁～436頁
Expression and protease activity of mouse legumain are regulated by the oncogene/transcription factor-activator, DJ-1 through p53 and cleavage of annexin A2 is increased in DJ-1-knockout cells.	共著	2015年04月01日	Biochem Biophys Res Commun. 467巻3号:472-477, 2015.	Yamane T, Yamamoto Y, Nakano Y, Nakagaki T, Ohkubo I, Ariga H.	472～477
香辛料などの食品成分によるヒト褐色細胞組織の活性化と肥満予防.	共著	2015年04月01日	天使大学紀要 15巻2号	松下真美, 米代武司, 杉田 淳, 鈴木純子, 大久保岩男, 斉藤昌之.	31頁～39頁
青年と中高年における食生活とメンタルヘルスの関連性	共著	2015年04月01日	天使大学紀要 16巻1号	福士一恵, 鈴木純子, 大塚吉則, 大久保岩男, 清水真理, 白幡亜希, 松下真美, 百々瀬いづみ, 山口敦子, 梅澤敦子, 小林良子, 斉藤昌之, 久保ちづる, 古川直美, 峯岸夕紀子, 武蔵学, 森谷 梨. □	1頁～19頁
Improvement of blood glucose levels and obesity in mice given aronia juice by inhibition of Dipeptidyl peptidase IV and α -glucosidase	共著	2016年01月01日	J Nutr Biochem. 31巻	Yamane T, Kozuka M, Konda D, Nakano Y, Nakagaki T, Ohkubo I, Hiroyoshi Ariga. □	106頁～112頁

Effectiveness of aronia berries for reduction of mid fibrosis and gene expression analysis in livers from fed a high-fat diet with aronia berries	共著	2016年03月16日	Functional Food in Health and Disease 6巻3号	Yamane T, Kozuka M, Yamamoto Y, Nakano Y, Nakagaki T, Ohkubo I, Ariga H	144頁～157頁
III 学会等および社会における主な活動					
2011年09月08日 ～ 2011年09月09日	A function of porcine seminal plasma factor H. Ohkubo I, Sakaue T, Takeuchi K, Maeda T, Yamamoto Y, Nishi K. Changbai mountain international conference of cardiology 2011. Jilin, China. [invited speaker]				
2011年10月01日 ～ 2011年10月31日	Cathepsin Bとガン細胞の浸潤について 竹内圭介, 前田利長, 山本好男, 大久保岩男, 扇田久和 第70回 日本癌学会学術総会				
2012年06月01日 ～ 2012年06月30日	ブタ精巢上体におけるporcine epididymis protein 4 (PE4)の機能解析 山根拓也, 山本好男, 大久保岩男, 有賀寛芳 第12回 日本蛋白質科学会				
2012年08月01日 ～ 2012年08月31日	鯉節由来降圧ペプチドの単離精製とその機能性評価 関 英治, 朝田 仁, 山根拓也, 井上 務, 荒川義人, 有賀寛芳, 大久保岩男 第59回 日本食品科学工学会				
2012年09月01日 ～ 2012年09月30日	鯉節由来降圧ペプチドの単離精製とその評価 関 英治, 朝田 仁, 山根拓也, 井上 務, 荒川義人, 有賀寛芳, 大久保岩男 第35回 日本高血圧学会総会				
2012年09月30日 ～ 2012年10月04日	Purification and isolation of an anti-hypertensive peptide derived from katsuobushi. Seki E, Asada H, Yamane T, Inoue T, Arakawa Y, Ariga H, Ohkubo I. 24th Scientific meeting of the international society of hypertension. Sydney, Australia.				
2012年12月01日 ～ 2012年12月31日	Legumainによるannexin A2の分解と発現調節との関連性 山根拓也, 村尾咲音, 大久保岩男, 有賀寛芳 第85回 日本生化学会大会				
2013年08月01日 ～ 2013年08月31日	ニワトリ卵殻膜からの簡便なリゾチーム精製法の確立 村尾咲音, 小塚美由記, 山根拓也, 大久保岩男, 有賀寛芳 第60回 日本食品科学工学会記念大会				
2013年08月01日 ～ 2013年08月31日	鯉節由来ペプチドの降圧作用 (I) 関英治, 吉村卓紘, 朝田仁, 山根拓也, 井上務, 荒川義人, 有賀寛芳, 大久保岩男, 杉野友啓, 梶本修身 第60回 日本食品科学工学会記念大会				

2013年09月01日 ～ 2013年09月30日	Legumainのp53による転写調節とそのプロテアーゼ活性の制御 山根拓也, 村尾咲音, 加藤いづみ, 大久保岩男, 有賀寛芳 第86回 日本生化学会大会
2013年09月01日 ～ 2013年09月30日	3ヵ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果 - 2011～2012年度「天使健康栄養クリニック」からの検討 鈴木純子, 山口敦子, 松下直美, 清水真理, 田中明子, 森谷梨, 小林良子, 百々瀬いづみ, 梅澤敦子, 石川恵美, 宮崎早花, 福士一恵, 和田実央, 大久保岩男 第60回 日本栄養改善学会学術総会
2013年09月01日 ～ 2013年09月30日	北海道産サルナシ果実に含まれるシステインプロテアーゼの生化学的特性に関する研究. 宮崎早花, 和田実央, 小塚美由記, 荒川義人, 大久保岩男. 第60回 日本栄養改善学会学術総会
2013年10月01日 ～ 2013年10月31日	鰹節由来ペプチドの降圧作用 関英治, 吉村卓紘, 朝田仁, 山根拓也, 井上務, 荒川義人, 有賀寛芳, 大久保岩男, 杉野友啓, 梶本修身 第36回 日本高血圧学会総会
2013年12月01日 ～ 2013年12月31日	マタタビ果実の成分特性について 和田実央, 宮崎 早花, 大久保 岩男, 荒川義人 第11回 日本栄養改善学会北海道支部学術総会
2013年12月01日 ～ 2013年12月31日	北海道産サルナシのcysteine proteaseに関する研究 宮崎早花, 和田実央, 小塚美由記, 荒川義人, 大久保岩男 第11回 日本栄養改善学会北海道支部学術総会
2013年12月01日 ～ 2013年12月31日	「天使栄養健康クリニックの活動とこれから」 ～クリニックの成果と今後目指すもの～. 大久保岩男 第6回 「食と健康」研究会
2014年05月01日 ～ 2014年05月31日	アロニア抽出物によるdipeptidyl peptidase IV活性の阻害効果 小塚美由記, 山根拓也, 村尾咲音, 井上務, 荒川義人, 大久保岩男, 有賀寛芳 第68回 栄養食糧学会年会
2014年06月01日 ～ 2014年06月30日	タマネギに含まれるアリイナーゼの一次構造とその機能解析 村尾咲音, 山根拓也, 小塚美由記, 山本好男, 大久保岩男, 有賀寛芳 第68回 栄養食糧学会年会
2014年06月01日 ～ 2014年06月30日	ブタ精巢上体におけるporcine epididymis protein 4 (PE4) の機能解析 山根拓也, 山本好男, 大久保岩男, 有賀寛芳 第12回 日本蛋白質科学会

2014年06月13日 ～ 2014年06月16日	Intestinal membrane permeability of dried bonito-derived dipeptides with antihypertensive effects in vivo and the related mechanism of action Seki E, Fujiwara Y, Asada H, Yamane T, Ariga H, Ohkubo I. Joint meeting ESH-ISH - Hypertension Athens 2014, Greece.
2014年08月01日 ～ 2014年08月31日	食生活の変化とメンタルヘルスの関連性 福士 一恵, 鈴木純子, 大久保岩男, 清水真理, 白幡亜希, 松下真美, 百々瀬いづみ, 山口敦子, 梅沢敦子, 小林良子, 久保ちづる, 古川直美, 峯岸夕紀子, 武蔵学, 森谷梨 第61回 日本栄養改善学会学術総会
2014年08月01日 ～ 2014年08月31日	アロニア抽出物によるdipeptidyl peptidase IV活性の阻害 小塚美由記, 山根拓也, 大久保岩男, 有賀寛芳 第61回 日本食品科学工学会大会
2014年08月01日 ～ 2014年08月31日	かつお節ペプチドの降圧作用 関 英治, 藤原佳史, 朝田 仁, 山根拓也, 有賀寛芳, 荒川義人, 大久保岩男 第61回 日本食品科学工学会大会
2014年10月01日 ～ 2014年10月31日	DJ-1によるマウスlegumainの発現調節 山根拓也, 小塚美由記, 山本好男, 大久保岩男, 有賀寛芳 第87回 日本生化学会大会
2014年10月01日 ～ 2014年10月31日	Correlation of serum Zn- α 2-glycoprotein concentration with blood pressure and biochemical analysis on the correlation 栗田宗一, 竹内圭介, 上山久雄, 大久保岩男, 荻久保修, 扇田久和 第87回 日本生化学会大会
2014年10月01日 ～ 2014年10月31日	かつお節ペプチド (KBP) の降圧作用 関 英治, 藤原佳史, 朝田 仁, 山根拓也, 有賀寛芳, 大久保岩男 第37回 日本高血圧学会総会
2014年10月21日 ～ 2014年10月26日	Expression and protease activity of mouse legumain are regulated by DJ-1. Yamane T, Yamamoto Y, Ohkubo I, Ariga H. 15th IUBMB-24th FAOBMB-TSBMB, Taipei, Taiwan.
2014年11月21日 ～ 2014年11月26日	Expression and protease activity of mouse legumain are regulated by DJ-1 and secretion of mouse prolegumain into serum is increased in DJ-1-knockout mice. Yamane T, Ohkubo I, Ariga H. Neuroscience 2014, Washington DC, USA.
2015年01月01日 ～ 2015年01月01日	鰹だし生産副産物のプロテアーゼ分解物からODS-C18を用いた高DPPIV阻害活性を有する10%エタノール溶出画分(Y-2画分)の新規性. 関英治、藤原佳史、朝田仁、小塚美由記、山根拓也、大久保岩男. 第62回日本食品科学工学会大会（京都）2015
2015年01月01日 ～ 2015年01月01日	かつお節の血糖低下作用. 関英治、藤原佳史、朝田 仁、小塚美由記、山本晃久、薩秀夫、大久保岩男、山根拓也. 日本農芸化学会2015年度中四国・西日本支部合同大会（愛媛）2015

2015年01月01日 ～ 2015年01月01日	かつお節由来Y-2画分のジペプチジルペプチダーゼ IV阻害. 関英治、藤原佳史、朝田 仁、小塚美由記、山本晃久、薩秀夫、大久保岩男、山根拓也. 日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部 日本食品科学工学会西日本支部合同大会（沖縄）2015
2015年01月01日 ～ 2015年01月01日	かつお節ペプチド（KBP）の降圧作用. 関 英治、藤原佳史、朝田 仁、山根拓也、大久保岩男、山本晃久、薩秀夫. 第37回 日本高血圧学会総会（愛媛）2015
2015年01月01日 ～ 2015年01月01日	アロニア果汁による血糖値改善効果とそのメカニズム. 山根拓也、小塚美由記、山本好男、中野長久、中垣剛典、大久保岩男. 第13回 日本機能性食品医用学会 学術総会（福岡）2015.
2015年01月01日 ～ 2015年01月01日	かつお節ペプチド（KBP）の降圧作用. 関 英治、藤原佳史、朝田 仁、山根拓也、大久保岩男、山本晃久、薩秀夫. 第13回 日本機能性食品医用学会 学術総会（福岡）2015.
2015年05月14日 ～ 2015年05月18日	Anti-hypertensive peptide (KBP) derived from katsuobushi. Seki E, Fujiwara Y, Asada H, Yamane T, Ariga H, Ohkubo I. 12th Asian Congress of Nutrition, Yokohama, May 14–18, 2015.
2015年05月14日 ～ 2015年05月18日	Identification of DPP IV inhibitors from aronia water extract. Kozuka M, Yamane T, Ohkubo I, Ariga H. 12th Asian Congress of Nutrition, Yokohama, May 14–18, 2015.
2015年05月14日 ～ 2015年05月18日	Effectiveness of aronia berries for reduction of fatty tissues in mice fed a high-fat diet and gene expression analysis. Yamane T, Kozuka M, Ohkubo I, Ariga H. 12th Asian Congress of Nutrition, Yokohama, May 14–18, 2015.
2015年09月24日 ～ 2015年09月26日	北海道産サルナシの果実に含まれるシステインプロテアーゼの生理機能に関する研究. 宮崎早花、米田実央、小塚美由記、荒川義人、大久保岩男. 第62回日本栄養改善学会学術総会、福岡、2015年9月24日～26日
2015年10月10日 ～ 2015年10月12日	アロニアジュースに含まれるDPP IV阻害物質の探索. 小塚美由記、山根拓也、中垣剛典、大久保岩男、有賀寛芳. 第22回日本未病システム学会（札幌）2015
2015年10月11日 ～ 2015年10月12日	北海道産サルナシ果実のシステインプロテアーゼの整理活性物質産生能に関する研究. 宮崎早花、米田実央、小塚美由記、山根拓也、荒川義人、有賀寛芳、大久保岩男. 第22回日本未病システム学会総会、10月11-12日、札幌

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

（表16）

所属 栄養学科	職名 教授	氏名 佐藤 香苗	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
1) 質問票を兼ねた出席カードの配付	2008年04月01日 ～ 現在に至る	全講義で、出席カードを配付して学生に質問・感想、要望等を記載させている。寄せられた質問に対しては次の授業で解説を加え、改善すべき点は速やかに対応している。 また、双方型授業や学生の学修支援を目的として、ICTを積極的に活用し、臨床場面における事例紹介、国家試験問題を取り入れるなどの工夫をしている。学生からは、「熱意が感じられる」「講義資料が適切である」「臨床現場での応用展開法がイメージできる」というコメントが寄せられている。	
2) 栄養教育のためのICT教育の導入	2008年04月01日 ～ 現在に至る	近年、大学教育において「アクティブ・ラーニング（能動的学修）」の推進が課題となり、平成24年8 月には「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（文部科学省中央審議会答申）」がまとめられ、重要性が一層明確にされた。そこで、栄養教育論実習では、双方型の授業や自修支援などを目的として、ICTを積極的に活用している。学生は、食と栄養、健康・疾病に関する専門情報を適切に収集・分析できるようになっている。学生からの授業評価は良好である。	
3) OSCE（オスキー, Objective Structured Clinical Examination）やSP演習、ロールプレイを導入したシミュレーション教育	2009年10月01日 ～ 現在に至る	臨地実習直前の授業において、OSCEや模擬患者（SP：Simulated Patient）演習、ロールプレイ等のシミュレーション教育を9年間、継続実施している。OSCEは、記述試験では測定できない、判断力・技術力・マナー等、実際の現場で必要とされる臨床技能の習得度を客観的に評価し、学習ポイントをその場で直ちにフィードバックできることが特徴である。筆記試験とあわせて「医療面接」「身体計測」「食事の聴き取り」の3タスクを実施している。学生は、臨地実習やその後の症例検討等の学修への高い動機付けとなっていることが推察される。また、栄養カウンセリングのロールプレイにおけるコミュニケーション力の成長は著しい。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
1) 栄養教育のための情報処理に関する資料	2008年04月01日 ～ 現在に至る	学生が、栄養教育のためのデータコレクション、統計処理、評価・判定を行い、栄養教育マネジメントが適切に行えるように工夫した教科書・実習書を编者として制作している（株式会社、建帛社）。さらに学生の特性にあわせたオリジナル資料もあわせて作成・配布し、実践力の向上に努めている。	
2) 国家試験対策・最新補足教材の作成	2008年04月01日 ～ 現在に至る	担当授業においては、常に国家試験対策を意識し、専門職教育の視座から最新情報や図版を多く用いた資料の作成・使用することを心がけている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			

3) 在宅栄養支援教育プログラムの開発	2012年04月01日	在宅医療・介護が重要視される中、管理栄養士養成課程の学生が、在宅療養者に対する栄養支援の実際をイメージできるような実質的な教育を充実させることが課題である。そこで、訪問栄養指導に係る先駆的な試みを実践している岡山県の共同研究者らと、在宅栄養支援教育プログラムを共同で開発している。その成果の一部を専門学会誌で公表(2013年、筆頭)し、専門学会においても多数発表している。さらに、学部教育における在宅栄養支援コンピテンシー項目と評価基準を作成中である。			
4 その他教育活動上特記すべき事項 栄養カウンセリング演習にICT を活用したアクティブラーニング	2015年04月01日 ～ 現在に至る	栄養カウンセリング演習において、ICTを活用したアクティブラーニングを実践している。具体的には、学生のロールプレイをWeb会議システムで録画し、他の学生にリアルタイムに視聴させ、Google スプレッドシートを活用して即時ピア・フィードバックを行っている。さらに、録画したロールプレイはYou Tube にアップロードし、自身のカウンセリングを視聴することで客観的に（自己）評価できるシステムを構築している。このプログラムは、特に学生の栄養カウンセリングに対する自己効力感向上に大きな効果をあげている。			
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
7. マスター栄養教育論	共著	2011年05月10日	建帛社	逸見幾代・佐藤香苗 編著	編集：全ページ197頁 執筆箇所：第3章1・2・5・6、 第9章1～4（24頁）
8. クェスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説 2012	共著	2011年07月06日	メディックメディア	医療情報科学研究所編 共著者：佐藤香苗、他27名	執筆箇所：第25回管理栄養士国家試験 栄養教育論5問「基本事項」執筆
9. クェスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説 2013	共著	2012年07月02日	メディックメディア	医療情報科学研究所編 共著者：佐藤香苗、他32名	執筆箇所：栄養教育論 第25回管理栄養士国家試験追試6問、 第26回管理栄養士国家試験7問、 4から5選択肢改変問題監修3問、 「基本事項」執筆
12. 栄養士・管理栄養士のためのなぜ？どうして？第二版	共著	2013年02月10日	メディックメディア	医療情報科学研究所編	行動変容段階モデル 22-30頁

10. 管理栄養士講座 栄養教育論	共著	2013年02月15日	建帛社	中村丁次、外山健二、笠原賀子編、佐藤香苗他29名	第3章 栄養教育とマネジメントシステム 2節 栄養教育のためのアセスメント 90-96頁 3節 栄養教育の目標設定と計画 97-101頁
11. マスター栄養教育論 第二版	共著	2013年04月15日	建帛社	逸見幾代・佐藤香苗 編著	編集 : 全ページ197頁 執筆箇所 : 第3章「食行動変容のための行動科学理論と栄養教育」執筆29-38・43-48頁、第9章「カウンセリングの基本と栄養教育への応用」95-102頁、第10章「学童期の栄養教育」120-129頁.
13. クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説 2014	共著	2013年07月03日	メディックメディア	医療情報科学研究所編 共著者：佐藤香苗、他34名	執筆箇所 : 第27回管理栄養士国家試験 栄養教育論6問解説、「基本事項」執筆
14. クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説 2015	共著	2014年07月02日	メディックメディア	医療情報科学研究所編 共著者：佐藤香苗、他35名	執筆箇所 : 第28回管理栄養士国家試験栄養教育論6問解説、「基本事項」執筆
15. 改訂マスター栄養教育論	共著	2015年04月10日	建帛社	逸見幾代・佐藤香苗編著（全207頁編集）	改訂にあたって、第2章/行動科学理論と栄養教育25-45、第8章/カウンセリングの基本と栄養教育への応用83-90、第10章6/高齢者の栄養教育150-154、全35頁
16. クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説 2016		2015年07月03日	メディックメディア		第29回管理栄養士国家試験栄養教育論6問解説、「基本事項」執筆
17. マスター栄養教育論実習		2016年05月10日	建帛社		はじめに、第1章5/一次データとしての質問紙設計17-20、第2章1-2/栄養教育のための統計学23-28、第3章概要・8の概要・8-1/92-96、計20頁(総133頁)
18. クエスチョン・バンク管理栄養士国家試験問題解説 2017	共著	2016年07月02日	メディックメディア	医療情報科学研究所編、 共著者：佐藤香苗、他42名	第30回管理栄養士国家試験栄養教育論7問解説、「基本事項」執筆
論文					

4-3 Global nutritional assessment aiming to improve quality of life of hemodialysis patients in the maintenance phase.	共著	2011年06月07日	The 7th Asia Pacific Conference on Nutrition. Bangkok (Thailand)	Sato K*, Yamauchi T, Ashimura H, Koizumi T, Sue Y.	22～22
4-4 Low resting energy expenditure and low daily physical activity levels in chronic hemodialysis patients.	共著	2011年06月07日	The 7th Asia Pacific Conference on Nutrition. Bangkok (Thailand)	Yamauchi T, Sato K*, Ashimura H, Koizumi T, Sue Y.	22～22
維持血液透析患者の栄養状態、安静時代謝量と身体活動量の評価ならびにQOLとの関連性	共著	2011年09月10日	栄養学雑誌 Vol. 69. No. 5	◎佐藤香苗、定本高子	187～187
透析患者のQOL向上を実現するアクティブ・ライフスタイルー 自発行動を促す段階別生活指導プログラムの必要性ー	共著	2011年10月01日	H23医科学応用財団報告書	山内太郎、◎佐藤香苗、須江 洋一	132～137頁
生活習慣病管理料を徴収して行う「生活習慣病改善プログラム」の未病システムにおける重要性和BDHQの有用性	共著	2011年11月20日	第18回日本未病システム学会学術総会(名古屋)	佐久間一郎、田村美香、佐藤香苗、鈴木純子、前田由香里、近藤和夫、三浦宣子、山溝静子、角田富美子、櫻井正之	119～119
生活習慣病改善プログラムにおける簡易型自記式食事歴法質問表 (BDHQ) 導入の効果	共著	2011年11月26日	第9回日本栄養改善学会北海道支部学術総会 (札幌)	鈴木彩香、米山奏子、鈴木純子、田村美香、佐藤香苗、佐久間一郎	17～17
生活習慣病改善プログラムにおける簡易型自記式食事歴法質問票 (BDHQ) 導入の効果	共著	2012年03月11日	第31回食事療法学会(東京)	田村美香、角田富美子、櫻井正之、鈴木彩香、米山奏子、鈴木純子、佐藤香苗、本城昭子、三浦宣子、佐久間一郎	
4-5 Development of a low-intensity exercise program to increase adherence of dialysis patients.	共著	2012年05月05日	The 2th Asia - Pacific Conference on Health Promotion and Education. Taipei (Taiwan)	Sato K*, Noguchi S, Yamauchi T, Sadamoto T, Sue Y	P16-17-113～P16-17-113
生活習慣病改善プログラムにおける簡易型自記式食事歴法質問票 (BDHQ) 導入の効果	共著	2012年05月18日	第55回日本糖尿病学会年次学術集会(横浜)	田村美香、鈴木彩香、米山奏子、鈴木純子、佐藤香苗、本城昭子、角田富美子、櫻井正之、佐久間一郎	S-210～S-210
血液透析患者の運動アドヒアランスの向上を目指した教育メディア開発	共著	2012年08月01日	広島大学 保健学 ジャーナル vol. 10 (2) (複数査読有)	◎佐藤香苗、野口詩織、齊藤未香、山内太郎、小林敏生	72～80頁

4-6 Trial Implementation of Objective Structured Clinical Examination at the Dietary Education Seminar of a Registered Dietitian Training Course.	共著	2012年09月06日	The 16th International Congress of Dietetics, Sydney (Australia)	Sato K*, Yamabe S, Kawakami T, Momose I, Arakawa Y	159～159
地域別セミ・オーダーメイド食育プログラムの開発と運用～給食の食べ残しを視座に～	共著	2012年10月01日	2009～2011年度 天使大学 特別研究費 報告書	◎佐藤香苗、荒川義人	1～53頁
管理栄養士養成課程における在宅栄養支援教育に対するビデオ学習の効果～学生の自己効力感に焦点をあてて～	共著	2013年05月01日	Health Sciences, 29 (2) (複数査読有)	◎佐藤香苗、多田賢代、川上貴代	85～94
血液透析患者が継続可能な低強度運動プログラムの開発プロセス	単著	2013年08月03日	Health Sciences Vol. 29 NO. 3		188～188
管理栄養士養成課程における在宅栄養支援に関する教育方法の検討～学生の自己効力感に焦点をあてて～	共著	2013年08月03日	Health Sciences Vol. 29 NO. 3	多田賢代、佐藤香苗、川上貴代	197～197
在宅栄養支援教育におけるビデオ学習の効果～学生の自己効力感に焦点をあてて (第1報) ～	共著	2013年09月13日	栄養学雑誌Vol. 71. No. 5	川上貴代、佐藤香苗、多田賢代	182～182
3-20 在宅栄養支援教育における模擬患者を用いた演習効果～学生の自己効力感に焦点をあてて (第2報) ～	共著	2013年09月13日	栄養学雑誌Vol. 71. No. 5	多田賢代、佐藤香苗、川上貴代、川上祐子	182～182
血液透析患者を対象とした亜鉛強化菓子の開発～効果的な栄養管理を目指して～	共著	2013年09月14日	栄養学雑誌Vol. 71. No. 5	◎佐藤香苗、櫻井愛祐美、白幡亜希、佐々木正子	264～264
3-21 食事バランスガイドを活用した食育授業におけるICT教材の有効性～小学5年生・中学2年生を対象として～	共著	2013年09月16日	日本幼児健康教育学会第32回大会 (岡山)	◎佐藤香苗、黒河あおい	52～53
在宅知的障害者の栄養状態とQOLとの関連予測因子	共著	2014年02月01日	Health Sciences, 30 (1) (複数査読有)	◎佐藤香苗・川上貴代・山内太郎	9～16

3-22 糖尿病・脂質異常症と認知症の フードファクター：臨床管理栄養士の役割	共著	2014年06月28日	平成26年度北海道臨床栄養学会北海道地方会総会講演	◎佐々木正子、（佐藤香苗・佐久間一郎：指導監修）	3～3
3-23 ICTを活用した食育授業の有効性～小学5年生・中学2年生を対象として～	共著	2014年07月13日	日本健康教育学会誌Vol. 22 (Suppl.)	◎佐藤香苗、長谷川めぐみ	86～86
3-29 カウンセリング演習における客観的臨床能力試験（OSCE）の実施概要	共著	2014年08月20日	栄養学雑誌Vol. 72. No. 5 (自由集会)	長谷川めぐみ、百々瀬いづみ、菅原千鶴子、山部秀子、佐藤香苗	26～26
3-30 看護・栄養学修士課程修了生に共通する コンピテンシーとは？	共著	2014年08月20日	栄養学雑誌Vol. 72. No. 5 (自由集会)	◎佐藤香苗、吉田礼維子、大久保岩男	26～26
3-26 食事サービスの質向上を目指した業務改善（第一報）－戦術的エラー対策としての禁止食品の対応中止策	共著	2014年08月21日	栄養学雑誌Vol. 72. No. 5	◎佐々木正子、池田由喜江、佐伯千佳、菅野未奈子、佐藤香苗	197～197
3-27 食事サービスの質向上を目指した業務改善（第二報）－禁止食品対応中止に代る365日毎食選択メニューの取組	共著	2014年08月21日	栄養学雑誌Vol. 72. No. 5	池田由喜江、佐々木正子、佐伯千佳、菅野未奈子、佐藤香苗	197～197
3-24 栄養教育演習における客観的臨床能力試験（OSCE）の評価（第一報）－評価者側の教育力向上の観点から－	共著	2014年08月22日	栄養学雑誌Vol. 72. No. 5	長谷川めぐみ、百々瀬いづみ、菅原千鶴子、山部秀子、◎佐藤香苗	236～236
3-25 栄養教育演習における客観的臨床能力試験（OSCE）の評価（第二報）－学生の面接能力の振り返りから－	共著	2014年08月22日	栄養学雑誌Vol. 72. No. 5	百々瀬いづみ、長谷川めぐみ、菅原千鶴子、山部秀子、◎佐藤香苗	236～236
3-28 在宅栄養支援教育における学習方法と効果についての検討～学生の自己効力感に焦点をあてて～	共著	2014年08月22日	栄養学雑誌Vol. 72. No. 5	多田賢代、佐藤香苗、川上貴代、川上祐子	241～241

3-31 客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた臨床実践力の育成に関する研究（第一報）～管理栄養士課程学生の到達度、とくに食事の聴き取り力の自己評価について～	共著	2014年08月23日	第3回日本栄養学教育学会学術総会（横浜）	◎佐藤香苗、長谷川めぐみ、百々瀬いづみ、菅原千鶴子、山部秀子	24～24
3-32 客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた臨床実践力育成に関する研究（第二報）～OSCEと知識試験の関連性、とくに情意領域評価の課題について～	共著	2014年08月23日	第3回日本栄養学教育学会学術総会（横浜）	長谷川めぐみ、百々瀬いづみ、菅原千鶴子、山部秀子、◎佐藤香苗	25～25
3-34 在宅における「栄養・食生活支援活動」に関する課題と方策の検討（第二報）	共著	2014年11月06日	日本公衆衛生雑誌 Vol. 61 No. 10	多田賢代、竹内ひとみ、松下暢子、佐藤香苗、森恵子	228～228
3-33 高度専門職業人としての看護・栄養職に共通するコンピテンシー項目の作成プロセス	共著	2014年11月07日	日本公衆衛生雑誌 Vol. 61 No. 10	◎佐藤香苗、吉田礼維子	548～548
3-35 北海道上川地区3歳児の栄養状態並びに主要食品のポーションサイズ	共著	2014年11月22日	民族衛生Vol. 80 (Suppl.)	◎佐藤香苗、菅野未奈子、山内太郎、松村康弘、佐藤ゆき、中山祥嗣	134～135
3-36 戦術的エラー対策発想手順による誤配膳、異物混入のインシデント・アクシデント件数の減少	共著	2015年02月07日	第35回札幌市病院学会	◎佐々木正子、池田由喜江、佐伯千佳、菅野未奈子、佐藤香苗	272～274
3-37 食事サービスの質向上を目指した365日毎食選択メニュー制の導入	共著	2015年02月07日	第35回札幌市病院学会	池田由喜江、◎佐々木正子、佐伯千佳、菅野未奈子、佐藤香苗	275～276
スポーツをしている児童生徒の栄養・生活教育の効果に関する研究―野球教室に通う小中学生への食育活動の取組とその評価―	共著	2015年03月01日	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター、受託研究成果報告書	◎佐藤香苗、長谷川めぐみ	1～80頁
4-7 Sole EPA Regimen Increases EPA, but Decreases DHA Level in Erythrocyte Membrane in Patients with Dyslipidemia.	共著	2015年05月24日	The 17th International Symposium on Atherosclerosis (Amsterdam)	Sakuma I, Hashimoto M, Yoneshiro T, Kishimoto N, Sato K, Nakai K	

3-38 北海道上川地区に居住する幼児の体格評価と肥満化傾向	共著	2015年05月31日	日本生理人類学会誌Vol. 20特別号 (1) 第72回大会要旨集 (札幌)		95～95
3-39 管理栄養士のための高度実践教育 ―在宅栄養支援教育におけるロールプレイ・SP 演習と今後の展開―	共著	2015年09月24日	栄養学雑誌Vol. 73. No. 5(自由集会)	◎佐藤香苗、川上貴代、多田賢代	23～23
3-40 栄養部門の利益獲得のためのイノベーション (第1報) ―潜在化しているムダな食事の解消策―	共著	2015年09月24日	栄養学雑誌Vol. 73. No. 5	菅野未奈子、佐々木正子、池田由喜江、佐伯千佳、佐藤香苗	206～206
3-41 栄養部門の利益獲得のためのイノベーション (第2報) ―特別食加算並びに栄養食事指導加算の増加策―	共著	2015年09月24日	栄養学雑誌Vol. 73. No. 5	佐々木正子、池田由喜江、佐伯千佳、菅野未奈子、佐藤香苗	207～207
3-42 スポーツをしている小中学生の体格、体力、食事バランスと相互関連性～野球教室に通う子どもの調査成績から	共著	2015年09月24日	栄養学雑誌Vol. 73. No. 5	長谷川めぐみ、◎佐藤香苗	204～204
3-43 在宅栄養支援に対する管理栄養士および他職種の認識	共著	2015年09月24日	栄養学雑誌Vol. 73. No. 5	川上貴代、多田賢代、森恵子、佐藤香苗	356～356
3-44 管理栄養士養成課程において在宅栄養支援教育をいかに進めるか	共著	2015年09月27日	第4回日本栄養学教育学会学術総会講演要旨集 (福岡)	多田賢代、川上貴代、佐藤香苗	26～26
3-45 EPA単独製剤とEPA+DHA製剤服用による赤血球膜多価不飽和脂肪酸分画変化：無作為前向きオープンラベル/クロスオーバー比較研究	共著	2015年10月01日	日本女性医学学会雑誌 Vol. 23 増刊号	◎佐久間 一郎、米代 武司、橋本 道男、岸本 憲明、佐藤 香苗、仲井 邦彦	142～142
3-46 高度専門職業人としての看護・栄養職に共通するコンピテンシー項目の作成	共著	2015年11月06日	日本公衆衛生雑誌 Vol. 62 No. 10	吉田 礼維子、佐藤 香苗	504～504
4-8 A questionnaire survey to determine understanding of DOHaD concepts in populations of future registered dietitian/nutritionists and present/future midwives in Japan	共著	2015年11月09日	DOHaD 2015(Cape Town)	Endo A, Sato K, Musashi M, Oyamada M	

3-49 高度専門職業人としての看護・栄養職に共通するコンピテンシーの構造	共著	2015年11月14日	民族衛生Vol. 81 (Suppl.)	◎佐藤香苗、吉田礼維子、大久保岩男	100～101
3-48 認知症高齢者の安静時エネルギー消費量	共著	2015年11月21日	日本食生活学会第51回大会講演要旨集	◎佐藤香苗、長谷川めぐみ、神明子、鈴木みづえ、山内太郎	44～44
3-47 給食経営管理における栄養部門の利益向上に向けた戦略的選択 潜在するムダな食事と特別食加算未算定の改善策	共著	2015年11月28日	第11回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集	◎佐々木 正子、池田 由喜江、佐伯千佳、菅野 未奈子、佐藤 香苗	36～36
3-50 スポーツをしている小中学生の栄養状態、体格、体力、食習慣の関連 ～野球教室に通う子どもの調査成績から～	共著	2015年12月19日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	長谷川めぐみ、◎佐藤香苗	6～6
3-58 栄養部門のグローバルコスト管理の最適化（第2報）－特別食加算並びに栄養食事指導加算の戦略的未算定改善策－	共著	2015年12月19日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	◎佐々木正子、池田由喜江、佐伯千佳、菅野未奈子、佐藤香苗	19～19
3-51 認知症高齢者の代謝は亢進しているか	共著	2015年12月20日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会 テーマセッション（札幌）	長谷川 めぐみ、小山田 文、神明子、田中 祐里恵、◎佐藤 香苗	10～10
3-52 認知症高齢者のエネルギー・栄養素並びに食品群別摂取量	共著	2015年12月20日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会 テーマセッション（札幌）	長谷川 めぐみ、小山田 文、神明子、田中 祐里恵、◎佐藤 香苗	11～11
3-53 高度専門職業人としての看護・栄養職に共通するコンピテンシーの構造～看護栄養学研究科の共通科目提言に向けて～	共著	2015年12月20日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	◎佐藤香苗、吉田礼維子、大久保岩男	14～14
3-54 在宅訪問栄養指導に必要なとなるカウンセリング演習プログラム	共著	2015年12月20日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	長谷川めぐみ、◎佐藤香苗	12～12
3-55 食事提供のサービス向上のための業務改革(第1報)－誤配膳と異物混入減少のための体系的エラー対策－	共著	2015年12月20日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	◎佐々木正子、池田由喜江、佐伯千佳、菅野未奈子、佐藤香苗	16～16

3-56 食事提供のサービス向上のための業務改革（第2報）－365日毎食選択メニュー制の導入－	共著	2015年12月20日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	菅野未奈子、◎佐々木正子、池田由喜江、佐伯千佳、佐藤香苗	17～17
3-57 栄養部門のグローバルコスト管理の最適化（第1報）－潜在化するムダな食事の戦略的改善策－	共著	2015年12月20日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	菅野未奈子、◎佐々木正子、池田由喜江、佐伯千佳、佐藤香苗	18～18
3-59 栄養部門の利益獲得のための経営戦略（第1報）－潜在化するムダな食事の改善策－	共著	2016年02月06日	第36回札幌市病院学会要旨集	菅野未奈子、◎佐々木正子、池田由喜江、佐伯千佳、佐藤詩織、佐藤香苗	50～50
3-60 栄養部門の利益獲得のための経営戦略（第2報）－特別食加算及栄養食事加算未算定改善策－	共著	2016年02月06日	第36回札幌市病院学会要旨集	◎佐々木正子、池田由喜江、佐伯千佳、佐藤詩織、菅野未奈子、佐藤香苗	50～50
3-61 認知症高齢者の食事特性	共著	2016年06月04日	日本食生活学会第52回大会講演要旨集	長谷川 めぐみ、神 明子、田中 佑里恵、◎佐藤 香苗	30～30
3-62 認知症高齢者の安静時エネルギー消費量の予測因子 (Validation of predictive factors influencing resting energy expenditure in the Japanese elderly with dementia.)	共著	2016年06月04日	日本生理人類学会誌 Vol. 21 特別号 1	◎佐藤 香苗、長谷川めぐみ、神明子、鈴木みずえ、山内太郎	69～69
3-64 認知症グループホームにおけるエネルギー・栄養素摂取状況-管理栄養士による栄養管理の有無に着目して-	共著	2016年06月12日	日本健康教育学会誌 Vol. 24 (Suppl.)	長谷川 めぐみ、◎佐藤 香苗	114～114
4-9 Competency structure of highly skilled professional nurses and registered dietitians.	共著	2016年06月27日	ISEE-ISES AC2016 (Sapporo)	Sato K, Yoshida R, Ohkubo I	67～67
4-10 Health promotion proposal using the PRECEDE-PROCEED model for preventing listeriosis in pregnant women in Hokkaido, Japan.	共著	2016年06月27日	ISEE-ISES AC2016 (Sapporo)	Hasegawa M, Sato K	69～69

3-65 管理栄養士が行う栄養食事指導の拡充のための取り組みーコーチング導入によるコミュニケーションスキル向上策ー	共著	2016年07月16日	第11回日本臨床コーチング研究会学術集会講演要旨集	佐々木正子、佐伯千佳、佐藤詩織、菅野未奈子、森山由希子、西村光弘、佐藤香苗	27～27
認知症高齢者の安静時エネルギー消費量の予測因子	単著	2016年08月25日	日本生理人類学会誌 Vol. 21 No. 3		125～125
3-66 管理栄養士のための高度実践教育ー栄養部門の利益獲得法を考えるー	共著	2016年09月07日	栄養学雑誌Vol. 74.No. 5	◎佐々木正子、佐藤香苗、多田賢代	26～26
4-11 The learning outcomes of simulated patient practice with undergraduates on a registered dietician training course in education on nutrition support for frail elderly living in The community.	共著	2016年09月09日	17th International Congress of Dietetics (Granada)	Tada T, Sato K, Kawakami T, Kawakami Y	P-433～P-433
3-67 ICTを活用した在宅栄養支援の演習プログラムの効果	共著	2016年09月09日	栄養学雑誌Vol. 74.No. 5	長谷川めぐみ、多田賢代、川上祐子、杉村留美子、◎佐藤香苗	202～202
3-68 ICTによる客観的な評価を取り入れた演習プログラムの効果	共著	2016年09月10日	第5回日本栄養学教育学会学術総会要旨集	長谷川めぐみ、多田賢代、川上祐子、杉村留美子、川上貴代、◎佐藤香苗	21～21
3-69 認知症高齢者の栄養・食事特性	共著	2016年09月17日	日本健康科学学会 第32回学術大会(名古屋)	◎佐藤香苗、長谷川めぐみ	
3-70 認知症高齢者の安静時エネルギー消費量 ～認知機能別の比較と推定～	共著	2016年10月01日	日本生理人類学会第74回大会(石川)	◎佐藤香苗、長谷川めぐみ、神明子、鈴木みずえ、山内太郎	34～34
3-71 安静時エネルギー消費量から推定した認知症高齢者のエネルギー必要量	共著	2016年11月01日	第28回溪仁会グループ研究発表会要旨集	神明子、長谷川めぐみ、◎佐藤香苗	104～104
3-72 摂取食品からみた認知症高齢者の食事特性～管理栄養士による栄養管理の有無に着目して～	共著	2016年11月26日	第81回日本民族衛生学会総会(東京)	◎佐藤 香苗、長谷川 めぐみ、神 明子	66～67
Effectiveness of Dietary Education Using the Ishikari Food Guide Spinning Top: A Study of Second-Year Junior High School Students.	共著	2016年11月28日	Health Sciences 32 (4) (複数査読有)	Sato K*, Hasegawa M, Kurokawa A, Arakawa Y	215～228

北海道上川地区に居住する幼児の体型評価および評価方法の検討	共著	2017年02月25日	日本生理人類学会誌 22(1) (複数査読有)	山内太郎、佐藤香苗、菅野未奈子、村松康弘	3～6
北海道上川地区3歳児の栄養摂取ならびに主要食品のポーションサイズ	共著	2017年02月25日	日本生理人類学会誌 22(1) (複数査読有)	◎佐藤香苗、菅野未奈子、山内太郎、松村康弘、中山祥嗣、新田 裕史	7～23
人の健康と栄養支援につながる病院栄養部門の利益獲得システム	共著	2017年02月25日	日本生理人類学会誌 22(1) (複数査読有)	佐々木正子、佐藤香苗	25～35
認知症高齢者の安静時エネルギー消費量～認知機能別の比較と推定～	単著	2017年02月25日	日本生理人類学会誌 22(1)		49～49
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2001年12月01日 ～ 現在に至る	北海道公衆衛生学会 評議員				
2008年11月01日 ～ 現在に至る	北海道公衆衛生学会 編集委員				
2011年04月01日 ～ 現在に至る	社団医療法人母恋 天使病院 治験審査委員				
2011年04月01日 ～ 現在に至る	社会医療法人母恋天使病院治験審査委員				
2011年07月22日 ～ 2011年07月22日	公益法人 北海道科学技術総合振興センター 地域イノベーション戦略支援プログラム「Bio-S フード・サイエンスカレッジ」アドバンスプログラム講師 「食の研究開発実習Ⅰ～食事調査演習、実習Ⅱ～統計解析演習、実習Ⅲ～プレゼンテーション」				
2011年07月29日 ～ 2011年07月29日	公益法人 北海道科学技術総合振興センター 地域イノベーション戦略支援プログラム「Bio-S フード・サイエンスカレッジ」アドバンスプログラム講師 「食の研究開発実習Ⅰ～食事調査演習、実習Ⅱ～統計解析演習、実習Ⅲ～プレゼンテーション」				
2011年08月05日 ～ 2011年08月05日	公益法人 北海道科学技術総合振興センター 地域イノベーション戦略支援プログラム「Bio-S フード・サイエンスカレッジ」アドバンスプログラム講師 「食の研究開発実習Ⅰ～食事調査演習、実習Ⅱ～統計解析演習、実習Ⅲ～プレゼンテーション」				
2011年09月03日 ～ 2011年09月03日	平成23年度 北海道大学白揺会 講演会 講師 「食といのちをつなぐ お・い・し・い話」				
2011年10月01日 ～ 2011年10月01日	(社) メディカル給食協会 管理栄養士国家試験対策講座 講師「栄養教育論」				
2011年11月09日 ～ 2011年11月09日	平成23年度 富良野地域栄養士会研修会 講師「伝えたいことを伝えたいように伝えるためのコミュニケーションスキル～パワーアップバージョン」				
2011年11月10日 ～ 2011年11月10日	なかふらの保育園 子育て講演会 講師「子どもと親をつなぐコミュニケーションスキル～食育で子どもの育ちを支える」				
2011年11月10日 ～ 2011年11月10日	なかふらの保育園・東神楽町東聖花の森保育園 合同職員研修会 講師「伝えたいことを伝えたいように伝えるためのコミュニケーションスキル」				
2011年11月22日 ～ 2011年11月22日	石狩教育研修センター主催 食に関する指導実技研修会 講師「食指導のための調査設計法」				

2011年12月01日 ～ 2011年12月31日	北海道公衆衛生学雑誌 論文査読
2011年12月02日 ～ 2011年12月02日	公益法人 北海道科学技術総合振興センター 地域イノベーション戦略支援プログラム「Bio-S フード・サイエンスカレッジ」アドバンスプログラム講師 「食の研究開発実習Ⅰ～食事調査演習、実習Ⅱ～統計解析演習、実習Ⅲ～プレゼンテーション」
2012年04月14日 ～ 2012年04月14日	幼児の食環境評価方法の開発に向けた食事と食環境に関するプロジェクト会議(国立環境研究所)
2012年07月01日 ～ 2012年07月01日	平成24年度 公益社団法人日本栄養士会 生涯学習研修会 講師 「栄養教育に必要な調査設計・統計学(講義)」
2012年07月30日 ～ 2012年07月30日	平成24年度 札幌市教育センター専門研修(教養研修) 講師 「食育に活かす統計学(講義・演習)」
2012年09月01日 ～ 2012年09月30日	第16回国際栄養士会議 ポスター賞受賞 (Best Non English speaking background Poster, Education, Accreditation, Professional Organisations)
2012年10月23日 ～ 2012年10月23日	平成24年度並びに平成25年度(2年継続) JICA研修 母子保健 (B) コース講師「日本の妊産褥婦の栄養と健康上の課題」
2012年11月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会 評議員
2012年11月01日 ～ 2012年11月30日	平成24年度 公益社団法人 日本栄養士会会長表彰受賞
2012年12月01日 ～ 2012年12月31日	北海道公衆衛生学雑誌 論文査読
2013年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養学教育学会 代議員
2013年05月24日 ～ 2013年05月24日	ヘルスイノベーションカレッジ アドバンスプログラムⅠ「若年女性の食と健康」講演並びに「食と健康」研究コースにおいて、地域栄養診断プロセス演習(アドバンスプログラムⅡ)の講師
2013年07月12日 ～ 2013年07月12日	ヘルスイノベーションカレッジ アドバンスプログラムⅠ「若年女性の食と健康」講演並びに「食と健康」研究コースにおいて、地域栄養診断プロセス演習(アドバンスプログラムⅡ)の講師
2013年07月19日 ～ 2013年07月19日	ヘルスイノベーションカレッジ アドバンスプログラムⅠ「若年女性の食と健康」講演並びに「食と健康」研究コースにおいて、地域栄養診断プロセス演習(アドバンスプログラムⅡ)の講師
2013年07月26日 ～ 2013年07月26日	ヘルスイノベーションカレッジ アドバンスプログラムⅠ「若年女性の食と健康」講演並びに「食と健康」研究コースにおいて、地域栄養診断プロセス演習(アドバンスプログラムⅡ)の講師
2013年08月24日 ～ 2013年08月24日	ヘルスイノベーションカレッジフォーラム講師 「地栄養診断に基づくセミオーダーメイド栄養教育の提言」
2013年10月21日 ～ 2013年10月21日	平成24年度並びに平成25年度(2年継続) JICA研修 母子保健 (B) コース講師「日本の妊産褥婦の栄養と健康上の課題」
2013年10月25日 ～ 2013年10月25日	北海道栄養士会秋期大会 職域別研修会学校栄養士協議会研修会講師「プリシード・プロシードモデルを用いた児童生徒への栄養教育のプランニング」
2013年12月01日 ～ 2013年12月31日	北海道公衆衛生学雑誌 論文査読
2014年04月01日 ～ 現在に至る	日本臨床栄養学会北海道地方会評議員

2014年04月01日 ～ 現在に至る	高度専門職としての管理栄養士教育を考える会（代表世話人）
2014年05月01日 ～ 2014年05月31日	第68回日本栄養食糧学会大会 一般演題 座長
2014年05月23日 ～ 2014年05月23日	ヘルスイノベーションカレッジ アドバンスプログラムⅠ「今更聞けない！地域栄養教育活かす統計学の基礎」講演 並びに「食と健康」研究コースにおける地域栄養教育実習（アドバンスプログラムⅡ）の講師
2014年07月01日 ～ 2014年07月31日	第23回日本健康教育学会学術大会 一般演題 座長
2014年07月11日 ～ 2014年07月11日	ヘルスイノベーションカレッジ アドバンスプログラムⅠ「今更聞けない！地域栄養教育活かす統計学の基礎」講演 並びに「食と健康」研究コースにおける地域栄養教育実習（アドバンスプログラムⅡ）の講師
2014年07月18日 ～ 2014年07月18日	ヘルスイノベーションカレッジ アドバンスプログラムⅠ「今更聞けない！地域栄養教育活かす統計学の基礎」講演 並びに「食と健康」研究コースにおける地域栄養教育実習（アドバンスプログラムⅡ）の講師
2014年07月25日 ～ 2014年07月25日	ヘルスイノベーションカレッジ アドバンスプログラムⅠ「今更聞けない！地域栄養教育活かす統計学の基礎」講演 並びに「食と健康」研究コースにおける地域栄養教育実習（アドバンスプログラムⅡ）の講師
2014年08月01日 ～ 2014年08月31日	日本栄養士会Practice-based Evidence in Nutrition (PEN) リーダー
2014年12月01日 ～ 現在に至る	Frontiers in Cardiovascular Medicine (editorial Board)
2014年12月01日 ～ 2014年12月31日	北海道公衆衛生学雑誌 論文査読

2015年02月01日 ～ 2015年05月31日	日本生理人類学会第72回大会 実行委員長
2015年02月09日 ～ 現在に至る	日本生理人類学会・健康栄養科学研究部会 代表幹事
2015年03月01日 ～ 現在に至る	日本公衆衛生学会査読委員
2015年05月30日 ～ 2015年05月31日	日本生理人類学会第72回大会ポスター発表・審査員
2015年06月01日 ～ 2015年07月31日	日本公衆衛生雑誌論文査読
2015年06月26日 ～ 2015年06月26日	2015年度 ヘルスイノベーションカレッジ・アドバンスコースⅠ「北海道の健康・栄養課題とセミオーダーメイド教育の提言」講師
2015年07月17日 ～ 2015年07月31日	2015年度 ヘルスイノベーションカレッジ・アドバンスプログラムⅡ「食と健康研究コース/地域における栄養教育実習」
2015年11月12日 ～ 現在に至る	日本民族衛生学会 評議員
2015年12月01日 ～ 現在に至る	北海道公衆衛生学雑誌論文査読
2015年12月19日 ～ 現在に至る	日本生理人類学会健康栄養科学研究部会 第1回研究会 一般口演・示説 座長
2016年02月01日 ～ 2016年03月31日	日本医療大学紀要 論文査読
2016年02月01日 ～ 現在に至る	日本生理人類学会誌論文査読
2016年04月01日 ～ 現在に至る	北海道地区FD・SD推進協議会監事
2016年04月01日 ～ 現在に至る	日本食生活学会 評議員
2016年06月04日 ～ 2016年06月04日	日本食生活学会第52回大会一般口演座長
2016年06月26日 ～ 2016年06月26日	2016年度 ヘルスイノベーションカレッジ・アドバンスコースⅠ「北海道の健康・栄養課題とセミオーダーメイド教育の提言」講師
2016年07月15日 ～ 2016年07月29日	2016年度 ヘルスイノベーションカレッジ・アドバンスプログラムⅡ「食と健康研究コース/地域における栄養教育実習」
2016年07月22日 ～ 現在に至る	日本民族衛生学会誌「民族衛生」論文査読
2016年09月01日 ～ 2016年09月01日	天使大学・北海道薬科大学連携公開講座講師「認知症にマケナイ『食と栄養』」
2016年09月01日 ～ 2016年11月30日	Frontiers in Cardiovascular Medicine : Review
2016年09月09日 ～ 2016年09月09日	第63回日本栄養改善学会学術総会 一般講演座長【公衆栄養・栄養疫学（8）】
2016年12月01日 ～ 2017年04月06日	日本公衆衛生雑誌論文査読
2017年03月01日 ～ 2017年03月31日	日本医療大学紀要 論文査読

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 教授	氏名 高島 郁夫	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)				
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概	要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
学生による授業評価		2013年07月01日 ～ 2013年07月31日	授業の最終回に授業評価シートを配布し評価を受けた。				
学生による授業評価		2014年01月01日 ～ 2014年01月31日	授業の最終回に授業評価シートを配布し評価を受けた。				
学生による授業評価		2015年01月01日 ～ 2015年01月31日	授業の最終回に授業評価シートを配布し評価を受けた。				
2 作成した教科書、教材、参考書							
映像資料、プリント教材の作成		2013年04月01日 ～ 2015年01月31日	学部教育や大学院教育などで、授業ごとにパワーポイントや配布資料を作成した。				
食べ物と健康V食品衛生学		2014年03月20日 ～ 2014年03月20日	三共出版	共著			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
非常勤講師		2013年09月04日 ～ 2013年09月04日	北海道大学においてリーディング大学院プログラムで人獣共通感染症の講義を英語で行った。				
非常勤講師		2014年08月25日 ～ 2014年08月25日	北海道大学においてリーディング大学院プログラムでアルボウイルス感染症の講義を英語で行った				
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		

著書					
論文					
Comprehensive assessment of the genetics and virulence of tick-borne encephalitis virus strains isolated from patients with inapparent and clinical forms of the infection in the Russian Far East. Eastern subtype of tick-borne encephalitis virus.	共著	2013年01月01日	Virology 443(1)	Leonova GN, Belikov SI, Kondratov IG, Takashima I.	89頁～98頁
Genetic and biological characterization of tick-borne encephalitis virus isolated from wild rodents in southern Hokkaido, Japan in 2008	共著	2013年01月01日	Vector Borne Zoonotic Dis. 13(6)	Yoshii K, Yamazaki S, Mottate K, Nagata N, Seto T, Sanada T, Sakai M, Kariwa H, Takashima I.	406頁～414頁
Susceptibility to flavivirus-specific antiviral response of Oas1b affects the neurovirulence of the Far-Eastern subtype of tick-borne encephalitis virus.	共著	2013年01月01日	Arch Virol.158(5)	Yoshii K, Moritoh K, Nagata N, Yokozawa K, Sakai M, Sasaki N, Kariwa H, Agui T, Takashima I.	1039頁～1046頁
Increased pathogenicity of West Nile virus (WNV) by glycosylation of envelope protein and seroprevalence of WNV in wild birds in Far Eastern Russia.	共著	2013年01月01日	Int J Environ Res Public Health.10(12)	Kariwa H, Murata R, Totani M, Yoshii K, Takashima I.	7144頁～7164頁

Ecological and genetic analyses of the complete genomes of Culex flavivirus strains isolated from Culex tritaeniorhynchus and Culex pipiens (Diptera: Culicidae) group mosquitoes	共著	2013年01月01日	J Med Entomol. 2013; 50(2):300-309.	Obara-Nagoya M, Yamauchi T, Watanabe M, Hasegawa S, Iwai-Itamochi M, Horimoto E, Takizawa T, Takashima I, Kariwa H.	300頁～309頁
ダニ媒介性ウイルス感染症 高島郁夫	単著	2013年01月01日	Med. Entomol Zool. 64(2)		61頁～66頁
ダニ媒介性の脳炎	単著	2013年01月01日	小児科臨床 66(7)		1487頁～1492頁
ダニ媒介性感染症	単著	2013年01月01日	モダンメディア59(9)		238頁～246頁
ダニ媒介性感染症	単著	2013年01月01日	みやぎ獣医師会 67(1)		11頁～19頁
The nature of replication of tick-borne encephalitis virus strains isolated from residents of the Russian Far East with inapparent and clinical forms of infection.	共著	2014年01月01日	Virus Res. 189	Leonova GN, Maystrovskaya OS, Kondratov IG, Takashima I, Belikov SI.	34頁～42頁
A critical determinant of neurological disease associated with highly pathogenic tick-borne flavivirus in mice. .	共著	2014年01月01日	J Virol.88(10)	Yoshii K, Sunden Y, Yokozawa K, Igarashi M, Kariwa H, Holbrook MR, Takashima I.	5406頁～5420頁
Prevalence and characteristics of Listeria monocytogenes in feces of black beef cattle reared in three geographically distant areas in Japan. ;:	共著	2014年01月01日	Foodborne Pathog Dis.11(2)	Hasegawa M, Iwabuchi E, Yamamoto S, Muramatsu M, Takashima I, Hirai K.	96頁～103頁
Prevalence and characteristics of Listeria monocytogenes in feces of black beef cattle reared in three geographically distant areas in Japan	共著	2014年01月01日	Foodborne Pathog Dis. 11(2):96-103	Hasegawa M, Iwabuchi E, Yamamoto S, Muramatsu M, Takashima I, Hirai K.	96頁～103頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	日本獣医学会評議員
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	日本ウイルス学会評議員
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	日米医学協力会委員
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	日本脳炎ウイルス研究会 幹事会会長
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	人と動物の共通感染症研究会 理事

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 特任教授	氏名 高野 廣子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

(表18)

所属 栄養学科	職名 教授	氏名 山部 秀子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
改訂新版 大量調理		2014年03月10日 ～ 現在に至る			
給食の運営管理実習テキスト		2014年08月28日 ～ 現在に至る			
給食経営管理論		2014年11月25日 ～ 現在に至る			
実践 給食マネジメント論		2016年10月28日 ～ 現在に至る			
臨地実習マニュアル「給食経営管理・給食の運営」		2017年03月10日 ～ 現在に至る			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数

著書					
給食経営管理論	共著	2014年11月25日	第一出版株式会社	三好恵子 山部秀子 平澤マキ 編著	
家庭で作れる低カロリースイーツ	共著	2016年06月13日	北海道新聞社	地域健康社会研究所 編 山部秀子 監修	
実践 給食マネジメント論	共著	2016年10月28日	第一出版株式会社	高城孝助 三好恵子 松月弘恵 編著 山部秀子 他著	
論文					
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 准教授	氏名 勝野 由美子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)				
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年08月01日 ～ 2011年08月01日	三訂応用栄養学（p 217～220）：建帛社				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
論文							

空腹時、満腹時の味覚の検討	共著	2015年09月26日	栄養学雑誌、vol. 73, No. 5	勝野由美子、山口敦子、石黒利佳、岩瀬彩奈、川合佑香、児玉悠月、小松佳奈、清水彬可、高城美里杏、深貝友香梨、賀来亨	352～352
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2007年01月01日 ～ 2012年12月31日		日本時間生物学会評議員			
2011年08月06日 ～ 2011年08月06日		(社) 日本メディカル給食協会 管理栄養士国家試験受験準備講習会 講師			
2012年08月05日 ～ 2012年08月05日		(社) 日本メディカル給食協会 管理栄養士国家試験受験準備講習会 講師			
2013年08月04日 ～ 2013年08月04日		(社) 日本メディカル給食協会 管理栄養士国家試験受験準備講習会 講師			
2014年08月01日 ～ 2014年08月01日		(社) 日本メディカル給食協会 管理栄養士国家試験受験準備講習会 講師			
2015年08月01日 ～ 2015年08月01日		(社) 日本メディカル給食協会 管理栄養士国家試験受験準備講習会 講師			

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 准教授	氏名 金澤 康子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2010年04月01日 ～ 現在に至る	要点を書き込む形式の資料を配付し、プレゼンテーションソフトを利用して授業を行っている。 理解を助けるよう、動画、CGなどの視聴覚教材を活用している。 授業では、ほぼ毎回宿題を課し、自己学習を促している。 有機化学の授業では、提出された宿題を添削して、次回授業開始時に返却している。 出席確認カードに書かれた質問には、次回の授業開始時に答えるようにしている。		
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					

論文					
青年女性においてカモミール茶並びにローズヒップ+ハイビスカス茶の1回摂取と4週間連続摂取が脳波左右偏側性に与える影響	共著	2011年05月01日	Aroma Research (12巻2号)	◎清水やよい, 森谷 紉, 金澤康子, 百々瀬いづみ, 坂本恵, 関谷千尋	166頁～171頁
ローズヒップを中心とするハーブ茶のリラックス効果と脳波α波パワー値変化の比較	共著	2011年09月01日	第58回日本栄養改善学会学術総会発表	◎清水やよい, 森谷 紉, 坂本恵, 金澤康子, 西隆司, 荒川義人	
北海道産ハスカップ茶の創製と官能評価による嗜好性の検討	共著	2011年11月01日	第43回日本食生活学会研究集会発表	◎坂本恵, 清水やよい, 金澤康子, 荒川義人, 三好孝二, 森谷 紉	
飲用時刻の異なるカモミール茶摂取による自律神経反応の比較	共著	2011年11月01日	第43回日本食生活学会研究集会発表	◎森谷 紉, 金澤康子, 清水やよい, 坂本恵, 百々瀬いづみ, 古橋卓, 山口敦子, 勝野由美子	
北海道産ハスカップ茶飲用によるストレス軽減と自覚的睡眠感改善の検討	共著	2012年01月01日	バイオフィードバック研究 (39巻1号)	◎坂本恵, 清水やよい, 金澤康子, 森谷 紉	11頁～22頁
北海道産ハスカップ茶の創製と官能評価	共著	2012年09月01日	日本食品科学工学会誌 (59巻9号)	◎坂本恵, 荒川義人, 三好孝二, 金澤康子, 森谷 紉	456頁～464頁
ハマナス茶の官能評価および食後血糖上昇抑制効果の検討	共著	2013年09月01日	第60回日本栄養改善学会学術総会発表	◎金澤康子, 森谷 紉, 大塚吉則	
ハスカップを中心とするミックスハーブ茶のストレス軽減効果の検討	共著	2014年12月01日	天使大学紀要 (第15巻第1号)	◎坂本恵, 長能 (清水) やよい, 金澤康子, 荒川義人, 森谷 紉	1頁～18頁
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2014年04月01日 ～ 現在に至る		日本栄養改善学会評議員			

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 准教授	氏名 清水 真理	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2013年04月01日 ～ 現在に至る	地域の栄養・健康課題抽出のための情報収集から、公衆栄養マネジメント、他職種との連携を公衆栄養行政の一連の流れとして捉えられるよう講義と実習を連動させて行っている。学生自らが考え、討議する時間を設け、受け身にならず理解を深められるよう工夫している。栄養政策を地域健康増進計画の視点から学ぶため、健康行動変容支援に携わる現職の保健所栄養士を招き、意見を交わしながら進めることで地域における健康施策を身近なものとしてとらえられるよう実践内容を取り入れる工夫をしている。資料については、主にパワーポイントを用いて教科書の要点をまとめたものを配布し、補足としての表や図、写真を用いて、確認し覚えてもらうよう努めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		2014年05月30日 ～ 2014年05月30日	公衆栄養学実習～事例から学ぶ公衆栄養プログラムの展開～
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2013年11月11日 2013年12月02日	1)平成25年度管内公衆栄養推進研修会 北海道十勝総合振興局保健環境部メタボリックシンドロームに関連する病態の改善と健康行動の変容～天使健康栄養クリニックを事例に～と題し、健康行動理論の基礎から支援技法、介入成果並びに住民の健康管理への応用の可能性について講演した。 2)第6回「食と健康」研究会 北海道大学産学連携本部 天使健康栄養クリニックの活動とこれから～クリニックの成果と今後目指すもの～と題し、天使健康栄養クリニックにおける健康行動理論に基づいた指導支援プログラムを紹介し、介入成果について解説した。

5)ベターホーム協会勉強会	2014年11月27日	3)平成26年度全道市町村栄養業務担当者等研修会北海道保健福祉部 成果の見える栄養施策のために～現状把握から施策を考える～と題し、地域の健康課題解決のための現状把握、施策の展開と評価について講演及び演習を行った。			
	2014年12月03日	4)健康づくりセミナー 札幌フィジカル・カルチャー 健康は食事・運動・休養バランスからと題し、地域の健康づくりリーダーへの講演を行った。			
	2015年06月26日	日本人の食事摂取基準（2015年版）の変更のポイントとその目的や内容について理解し、食の指導者としての知識を深めてもらうことを目的として解説を行った。			
4 その他教育活動上特記すべき事項	2006年04月01日 ～ 現在に至る	地域住民を対象とした、「天使健康栄養クリニック」のスタッフとして、メタボリックシンドロームの健康行動変容支援を通じた健康行動に関する指導を担当している。			
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
公衆栄養学実習～事例から学ぶ公衆栄養プログラムの展開～	共著	2014年05月01日	同文書院	手嶋哲子，清水真理他6名	87-94，119-122
論文					
10)食行動変容とメタボリックシンドロームの病態改善がQuality of lifeに及ぼす影響	共著	2012年04月01日	天使大学紀要，12号	◎清水真理，森谷紱，伊藤和枝，斎藤昌之，牧田章，小林良子，山口敦子，百々瀬いづみ，原美智子，木谷信子，鈴木純子，松下真美，佐藤あゆみ，梅澤敦子，関谷千尋	33頁～52頁
11)運動実施の支援による体力の向上とメタボリックシンドロームの予防・改善の関係	共著	2012年04月01日	天使大学紀要，12号	◎百々瀬いづみ，森谷紱，清水真理，伊藤和枝，木谷信子，原美智子，牧田章，斎藤昌之，松下真美，渡辺久美子，佐々木正子，金子裕子，中川幸恵，松田清美，佐藤あゆみ，関谷千尋	53頁～67頁

12) トランスセオレティカルモデルに基づく個別支援による健康行動変容で見られた個人差 ～ 「天使健康栄養クリニック」 2008と2009からの検討～	共著	2012年04月01日	天使大学紀要, 12号	◎小林良子, 森谷 紉, 百々瀬いづみ, 清水真理, 牧田章, 伊藤和枝, 木谷信子, 山口敦子, 斎藤昌之, 松下真美, 関谷千尋	69頁～86頁
13) メタボリックシンドロームの予防・改善を目指すクリニック参加者における健康行動および心理的尺度値の変容と性格特性の関連	共著	2012年04月01日	日本健康教育学会雑誌, 20(2)号	◎梅澤敦子, 百々瀬いづみ, 小林良子, 清水真理, 鈴木純子, 森谷 紉	99頁～110頁
16) 食事指導と平行した運動実施支援による体力並びにメタボリックシンドロームの改善～中高年女性における検討	共著	2012年04月01日	北海道体育学研究, 47	百々瀬いづみ, 森谷 紉, 小林良子, 清水真理, 伊藤和枝, 山口敦子, 鈴木純子, 松下真美, 牧田章, 斎藤昌之, 大久保岩男, 関谷千尋	1 頁～13頁
16) トランスセオレティカルモデルに基づく支援による健康行動変容とメタボリックシンドロームの予防・改善	共著	2012年04月01日	第59回日本栄養改善学会	◎森谷 紉, 百々瀬いづみ, 小林良子, 梅澤敦子, 牧田章, 鈴木純子, 山口敦子, 松下真美, 清水真理, 田中明子, 石川恵美, 斎藤昌之, 大久保岩男	
17) 3カ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果 - 2011年度「天使健康栄養クリニック」からの検討	共著	2012年04月01日	第59回日本栄養改善学会	◎鈴木純子, 山口敦子, 松下真美, 清水真理, 田中明子, 森谷 紉, 小林良子, 百々瀬いづみ, 梅澤敦子, 石川恵美, 斎藤昌之, 牧田章, 大久保岩男	
18) トランスセオレティカルモデルに基づく健康行動指導による食行動変容とメタボリックシンドローム改善における男女差の検討	共著	2012年04月01日	第10回日本栄養改善学会北海道学術集会	◎清水真理, 森谷 紉, 伊藤和枝, 斎藤昌之, 牧田章, 小林良子, 山口敦子, 百々瀬いづみ, 原美智子, 木谷信子, 鈴木純子, 松下真美, 佐藤あゆみ, 梅澤敦子, 関谷千尋	
14) 地域の健康課題の抽出・分析を取り入れた臨地実習から得た学生の学び	共著	2013年04月01日	北海道文教大学研究紀要, 37号	◎手嶋哲子, 清水真理, 森樹沙, 岩山直未	149頁～158頁
15) 勤労男性における健康行動および心理尺度値の変容と性格特性の関連	共著	2013年04月01日	天使大学紀要, 13号	梅澤敦子, 原田千佐, 石川紀子, 木谷信子, 清水真理, 長能やよい, 鈴木純子, 森谷 紉	41頁～51頁

19) 3カ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果 - 2011～2012年度「天使健康栄養クリニック」からの検討	共著	2013年04月01日	第60回日本栄養改善学会	◎鈴木純子, 山口敦子, 松下真美, 清水真理, 田中明子, 森谷紉, 小林良子, 百々瀬いづみ, 梅澤敦子, 石川恵美, 宮崎早花, 福士一恵, 和田実央, 大久保岩男	
20) 食生活とメンタルヘルスの関連性	共著	2013年04月01日	第11回日本栄養改善学会北海道学術集会	◎福士一恵, 鈴木純子, 大塚吉則, 大久保岩男, 清水真理, 白幡亜紀, 松下真美, 百々瀬いづみ, 山口敦子, 梅澤敦子, 小林良子, 斉藤昌之, 久保ちづる, 古川直美, 峯岸夕紀子, 武蔵学, 森谷紉	
16) Serum DJ-1 level is positively associated with improvements in some aspects of metabolic syndrome in Japanese women through lifestyle intervention	共著	2014年04月01日	Nutrition Research 34巻10号	Takuya Yamane, Sato Murao, Miyuki Kozuka, Mari Shimizu, Junko Suzuki, Chizuru Kubo, Atsuko Yamaguchi, Manabu Musashi, Yukiko Minegishi, Izumi Momose, Mami Matsushita, Aki Shirahata, Naomi Furukawa, Ryoko Kobayashi, Atsuko Umezawa, Megumi Sakamoto, Kiyoshi Moriya, Masayuki Saito, Akira Makita, Iwao Ohkubo, Hiroyoshi Ariga	852頁～855頁
21) 食生活の変化とメンタルヘルスの関連性	共著	2014年04月01日	第61回日本栄養改善学会	◎福士一恵, 鈴木純子, 大久保岩男, 清水真理, 久保ちづる, 白幡亜紀, 松下真美, 峯岸夕紀子, 山口敦子, 梅澤敦子, 小林良子, 百々瀬いづみ, 武蔵学, 森谷紉	
22) 3か月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果・2011～2013年度「天使健康栄養クリニック」からの検討	共著	2014年04月01日	第61回日本栄養改善学会	◎鈴木純子, 森谷紉, 清水真理, 久保ちづる, 白幡亜紀, 松下真美, 峯岸夕紀子, 山口敦子, 梅澤敦子, 小林良子, 百々瀬いづみ, 武蔵学, 大久保岩男	
23) 運動実施支援による体力改善におよぼす運動実施の季節変動	共著	2014年04月01日	北海道体育学会第54回大会	◎百々瀬いづみ, 森谷紉, 清水真理, 小林良子, 梅澤敦子, 鈴木純子, 久保ちづる, 山口敦子, 峯岸夕紀子, 松下真美, 白幡亜紀, 古川直美, 斉藤昌之, 武蔵学, 大久保岩男	

運動と食行動変容支援による 体力とメタボリックシンド ロームの改善～北海道におけ る自発的運動実施の季節変動 を考慮した解析～	共著	2015年06月02日	北海道体育学研究	◎百々瀬いづみ, 森谷梨, 清水真理, 小 林良子, 梅澤敦子, 鈴木純子, 久保ち づる, 山口敦子, 峯岸夕紀子, 松下真 美, 白幡亜希, 古川直美, 村尾咲音, 斉藤昌之, 武蔵学, 大久保岩男	25～41
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2007年04月01日 ～ 現在に至る	北海道公衆衛生学会正会員・評議員				
2007年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会正会員				
2007年04月01日 ～ 現在に至る	日本健康教育学会正会員				
2009年04月01日 ～ 現在に至る	日本健康栄養体力学会正会員				
2009年04月01日 ～ 現在に至る	北海道医学会正会員				
2010年04月01日 ～ 現在に至る	北海道心理学会正会員				
2012年04月01日 ～ 現在に至る	日本体力医学会北海道地方会臨時会員				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 准教授	氏名 鈴木 純子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
・ペーパーペイシェントによる栄養ケアプラン作成実践教育におけるPOSと栄養ケアプロセスをベースとした記入シートの導入		2011年09月01日 ～ 2011年09月30日	2010年度より、実践に近い形の教育として栄養ケアプラン作成方法の教育の充実を図ってきた。この内容をさらに理解しやすく、必要な情報収集の内容がわかるように、「栄養ケアプロセス記入シート」を作成した。これはPOSの考えをベースとして、アメリカ栄養士会が開発した栄養ケアプロセスの栄養診断の考えを導入した手順書で、手順毎に自分で拾った情報を記入する形となっている。このシートを導入したことで、学生の理解度が高まった。
・4年次の臨地実習科目臨床栄養学実習Ⅴにおける学生指導強化の為の実習指導教員導入		2012年08月01日 ～ 2012年08月31日	2011年度より、臨床栄養学実習Ⅴにおいては「症例報告」を学生1名につき、1報作成するように指導している。しかし、事前指導・事後指導ともに教員に過度な負担が生じたため、2012年度からは経験のある管理栄養士を実習指導教員として学生の指導に携わって貰うこととした。このことにより、綿密な事前指導と症例報告の指導を行うことが出来、実習の質が高まった。
・4年次の臨地実習科目臨床栄養学実習Ⅴにおける学生指導強化		2013年08月01日 ～ 2013年08月31日	2011年度より、臨床栄養学実習Ⅴにおいては「症例報告」を学生1名につき、1報作成するように指導している。また、2012年度からは臨床経験のある管理栄養士に実習指導教員を担っていただき、学生の指導を行っている。2013年度からは教員が臨地実習先に出向いて行う実習指導の他に、事前訪問にも同行し、学生だけでは不足がちな症例の情報収集を行うことを可能にした。このことにより、症例報告の質を高めることが出来た。
・臨床栄養学実習Ⅲにおける事前指導の強化および実習指導教員の導入		2015年10月01日 ～ 現在に至る	臨地実習で求められる学生のコミュニケーション能力の向上を目的に、専任教員と実習指導教員で事前指導を行い、実習前に学習を深め、課題に取り組めるようグループワークを行った。
・学士課程教育における看護師・管理栄養士のチーム医療連携教育プログラムの試行- NST臨床実習をととして -		2015年10月01日 ～ 現在に至る	看護師、管理栄養士のチーム医療連携に必要な能力を習得できるための学士教育課程における学習プログラムとして、一般病院においてNST ; Nutrition Support Team の臨床実習を行った。栄養学科、看護学科の学生の病院での活動が支障なく進むように、栄養学科、看護学科の教員を各1名配置し、サポートを行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
天使大学のレシピBOOK Vol.2		2014年03月01日 ～ 現在に至る	栄養学科の学生が考案したレシピを一人暮らしの方に向けたレシピにアレンジし、レシピ本としてまとめ発行した。看護学科の学生が、若い世代の健康に関するコラムを担当した。これらの作成のアドバイスを行った。

・臨床栄養学－栄養診断から栄養管理計画作成までの手順－/同文書院		2014年05月01日 ～ 2014年05月31日		栄養アセスメントを行うために必要な情報とは何か、栄養診断を的確に行うためにはどうすれば良いのか、栄養診断で明らかになった問題をどのように解決していけばよいかの手順を症例を通して学ぶことを目的とし作成した。栄養管理が必要な代表的疾患の症例を用いて実例を示したことで、理論のみを学ぶより、症例を用い展開することにより、初学者にも理解しやすいように工夫した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
学士課程教育における看護師・管理栄養士のチーム医療連携教育プログラムの試行- NST臨床実習をとおして -		2013年04月01日		看護師、管理栄養士のチーム医療連携に必要な能力を習得できるための学士教育課程における学習プログラムとして、一般病院においてNST ; Nutrition Support Team の臨床実習を試行し検討を行った。本学習プログラムは、チーム医療連携の必要性の実感、動機付け、チームを形成する過程の実感などにおいて、学習効果があることが示唆された。この教育方法の検討結果は、The 6th International Conference for Interprofessional Education and Collaborative Practice. で発表するとともに、天使大学紀要 Vol. 13に掲載された。	
卒後教育プログラムの構築とその評価 ― e-ラーニング活用の可能性 ―		2014年04月01日		初任者の管理栄養士を対象とし、e-ラーニングを活用した実践的な卒後教育プログラムを試行し、評価した。このプログラムは参加者の能力を高めたと考えられた。しかし、参加者は一人で学ばなければならない、挫折し易いため、より強力なサポートが必要であったと考えられる。この教育方法の検討結果は、第12回日本栄養改善学会北海道支部学術総会で発表するとともに、天使大学紀要 Vol. 14に掲載された。	
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

食行動変容とメタボリックシンドロームの病態改善が Quality of life に及ぼす影響	共著	2012年03月01日	天使大学紀要 Vol.12(2012)	清水真理, 森谷 紉, 伊藤和枝, 斉藤昌之, 牧田章, 小林良子, 山口敦子, 百々瀬いづみ, 原美智子, 木谷信子, 鈴木純子, 松下真美, 佐藤あゆみ, 梅澤敦子, 関谷千尋	p33～52
メタボリックシンドローム予防・改善を目指すクリニック参加者における健康行動及び心理的尺度値の変容と性格特性の関連	共著	2012年05月01日	日本健康教育学会 Vol.20(2012)	梅澤敦子, 百々瀬いづみ, 小林良子, 清水真理, 鈴木純子, 森谷 紉	p99～110
食事指導と平行した運動実施支援による体力並びにメタボリックシンドロームの改善～中高年女性における検討～	共著	2012年07月01日	北海道体育学研究 Vol.47(2012)	百々瀬いづみ, 森谷 紉, 小林良子, 清水真理, 伊藤和枝, 山口敦子, 鈴木純子, 松下真美, 牧田章, 斉藤昌之, 大久保岩男, 関谷千尋	p1～13
学士課程教育における看護師・管理栄養士のチーム医療連携教育プログラムの試行-NST臨床実習をとおして -	共著	2013年06月01日	天使大学紀要 Vol.13	瀧断子, 長谷川真澄, 茎津智子, 鈴木美和, 鈴木純子, 高野良子, 児玉佳之	p13～25
勤労男性における健康行動および心理的尺度値の変容と性格特性の関連	共著	2013年06月01日	天使大学紀要 Vol.13	梅澤敦子, 原田千佐, 石川紀子, 木谷信子, 清水真理, 長能やよい, 鈴木純子, 森谷紉	p41～51
卒後教育プログラムの構築とその評価 ― e-ラーニング活用の可能性 ―	共著	2014年06月01日	天使大学紀要 Vol.14	鈴木純子、小林良子、白幡亜希、松下真美、百々瀬いづみ、山口敦子	p1～14
Serum DJ-1 level is positively associated with improvements in some aspects of metabolic syndrome in Japanese women through lifestyle intervention	共著	2014年09月01日	Nutr Res.Vol.34(10)	Yamane T, Murao S, Kozuka M, Shimizu M, Suzuki J, Kubo C, Yamaguchi A, Musashi M, Minegishi Y, Momose I, Matsushita M, Shirahata A, Furukawa N, Kobayashi R, Umezawa A, Sakamoto M, Moriya K, Saito M, Makita A, Ohkubo I, Ariga H.	p851～855
運動と食行動変容支援による体力とメタボリックシンドロームの改善～北海道における自発的運動実施の季節変動を考慮した解析	共著	2015年07月01日	北海道体育学研究 Vol.50	百々瀬いづみ, 森谷紉, 清水真理, 小林良子, 梅澤敦子, 鈴木純子, 久保ちづる, 山口敦子, 峯岸夕紀子, 松下真美, 白幡亜希, 古川直美, 村尾咲音, 斉藤昌之, 武蔵学, 大久保岩男	25～41

香辛料などの食品成分による ヒト褐色脂肪組織の活性化と 肥満予防	共著	2015年08月01日	天使大学紀要 Vol. 15(2)	松下真美, 米代武司, 杉田淳, 鈴木純 子, 大久保岩男, 斉藤昌之	31～40
青年と中高年における食生活 とメンタルヘルスの関連性	共著	2015年12月01日	天使大学紀要 Vol. 16(1)	福士一恵, 鈴木純子, 大塚吉則, 大久 保岩男, 清水真理, 白幡亜希, 松下真 美, 百々瀬いつみ, 山口敦子, 梅澤敦 子, 小林良子, 斉藤昌之, 久保ちづ る, 古川直美, 峯岸夕紀子, 武蔵学, 森谷 紉	1～19
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2010年04月01日 ～ 現在に至る	日本臨床栄養学会北海道地方会 幹事				
2011年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養食糧学会会員				
2011年05月01日 ～ 現在に至る	日本臨床栄養学会会員				
2012年04月01日 ～ 2015年03月31日	公益社団法人日本栄養士会「日本栄養士会雑誌」査読委員会委員				
2012年04月01日 ～ 現在に至る	特定非営利活動法人日本栄養改善学会評議員				
2013年06月01日 ～ 現在に至る	一般社団法人日本栄養学教育学会代議員				
2013年11月01日 ～ 2014年06月30日	第68回 日本栄養・食糧学会大会 実行委員				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科		職名 准教授		氏名 西 隆司		大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)		(表10)	
I 教育活動									
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				2008年04月01日 ～ 現在に至る		・プレゼンテーションソフトを用いた視覚的な授業を展開するとともに、スライド内容に沿った書き込み式のプリントを作成して授業内容の要点を学生がまとめられるように工夫し、ただ話を聞くだけの授業にならないよう心がけた。 ・管理栄養士国家試験問題を基に毎回復習プリントを作成し、次回授業の最初に解答と解説を行って、授業で学んだ知識の補充に努めた。 ・授業評価では、講義、実験ともに80％以上の学生から満足、やや満足の評価を得ている。			
2 作成した教科書、教材、参考書				2013年06月01日 ～ 2013年06月30日		食べ物と健康分野における教科書（「食べ物と健康Ⅰ 食品の分類と成分」、「食べ物と健康Ⅱ 食品の機能」 いずれも三共出版株式会社）の一部を執筆した。これらの教科書は、自分の担当する授業で使用している。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等									
4 その他教育活動上特記すべき事項									
II 研究活動									
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）		発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称		編者・著者名 （共著の場合のみ記入）		該当頁数
著書									

食べ物と健康Ⅱ 食品の機能	共著	2013年06月01日	三共出版株式会社	中河原俊治編著 荒川義人、金澤匠、菊地和美、松坂裕子、西 隆司、小野寺秀一、知地英征 共著	78～113頁
食べ物と健康Ⅰ 食品の分類と成分	共著	2013年10月01日	三共出版株式会社	荒川義人編著 船津保浩、板垣康治、松坂裕子、中河原俊治、西 隆司、岡本匡代 共著	46～65頁、123～128頁
論文					
ローズヒップを中心とするハーブ茶のリラックス効果と脳波α波パワー値変化の比較	共著	2011年09月01日	第58回日本栄養改善学会学術総会	清水やよい、森谷紉、坂本恵、金澤康子、西 隆司、荒川義人	
ローズヒップを中心とするハーブ茶のリラックス効果と睡眠への影響	共著	2011年11月01日	第36回日本睡眠学会	清水やよい、森谷紉、坂本恵、金澤康子、西 隆司、荒川義人	
いももちのテクスチャーに対する片栗粉湯種添加の影響	共著	2012年12月01日	第10回日本栄養改善学会北海道支部学術総会	西 隆司、高橋典子、高橋由依、竹田美咲、小田嶋千晶、成田悠里子、渡邊郁美	
米粉麺のテクスチャーに対する片栗粉湯種添加の影響	単著	2013年09月01日	第60回日本栄養改善学会学術総会		
いももちのテクスチャーに対する片栗粉湯種添加の影響	共著	2013年12月01日	第11回日本栄養改善学会北海道支部学術総会	西 隆司、片原裕子、木村麻優、根本湖斗乃	
片栗粉湯種を添加した米粉麺のテクスチャーにおける麺の寝かせ時間の検討	単著	2014年09月01日	第61回日本栄養改善学会学術総会		
道産高アミロース米「北瑞穂」を用いた米粉麺のテクスチャー特性について	共著	2014年12月01日	第12回日本栄養改善学会北海道支部学術総会	西 隆司、今城早紀、小野寺夏奈、北辻有紗	
レジスタントスターチ高含有米を用いた米粉麺のテクスチャーについて	単著	2015年09月01日	第62回日本栄養改善学会学術総会		
アミロース含量の異なる米を用いた米粥ゼリーのテクスチャーについて	共著	2015年12月01日	第13回日本栄養改善学会北海道支部学術総会	西 隆司、大西彩花、柿添雪奈、菅原美紗希、野坂美緒	

低アミロース米を用いた嚥下 食用米粥ゼリーの物性について	単著	2016年09月01日	第63回日本栄養改善学会学術総会 要旨集		309～309
米粉のゲル化に及ぼす甘味料 添加の影響	共著	2016年12月01日	第14回日本栄養改善学会北海道支 部学術総会	西 隆司、青山愛理、佐久間涼未、佐 藤梨華子	17～17
III 学会等および社会における主な活動					
2011年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養・食糧学会北海道支部幹事				
2011年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会北海道支部幹事				
2011年10月23日 ～ 2011年10月23日	日本栄養・食糧学会北海道支部会シンポジウム世話人				
2012年08月04日 ～ 2012年08月04日	社団法人メディカル給食協会 管理栄養士国家試験対策講座 講師				
2013年04月01日 ～ 2014年06月30日	第68回日本栄養・食糧学会大会 準備・実行委員				
2013年08月03日 ～ 2013年08月03日	社団法人メディカル給食協会 管理栄養士国家試験対策講座 講師				
2013年10月05日 ～ 2013年10月05日	社団法人メディカル給食協会 管理栄養士国家試験対策講座 講師				
2014年08月02日 ～ 2014年08月02日	社団法人メディカル給食協会 管理栄養士国家試験対策講座 講師				
2014年10月04日 ～ 2014年10月04日	社団法人メディカル給食協会 管理栄養士国家試験対策講座 講師				
2014年11月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会評議員				
2015年08月01日 ～ 2015年10月03日	公益社団法人日本メディカル給食協会 管理栄養士国家試験対策講座 講師				
2015年08月20日 ～ 2015年09月17日	平成27年度 北海道調理師試験問題作成委員				
2016年01月07日 ～ 2016年01月07日	札幌商工会議所主催 食品表示法セミナー 講師				
2016年03月04日 ～ 2016年03月04日	コープさっぽろ 食品表示学習会 講師				
2016年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会北海道支部支部長				
2016年07月14日 ～ 2016年09月15日	平成28年度 北海道調理師試験委員				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

(表16)

所属 栄養学科		職名 講師		氏名 岩渕 絵里子		大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)		
I 教育活動								
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				2012年04月01日 ～ 現在に至る		実験科目では、実験技術の習得だけではなく、講義等で学んだ知識と結びつくよう配慮し、レポート提出により学生の理解度を把握しながら行っている。ゼミ等では、プレゼンテーションでの発表をもとにディスカッションを行うなど、積極的に学生が参加できるよう工夫してる。 授業評価では、特に問題はないと認識しているが、要望等がある場合には、改善等できるよう努力している。		
1) 実験・実習等								
2 作成した教科書、教材、参考書								
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等								
4 その他教育活動上特記すべき事項				2014年06月16日 ～ 2015年03月31日		ブラジル連邦共和国より研究生1名を受け入れ、食品の衛生管理に関する専門的な知識の習得ができるようサポートを行った。		
1) 海外からの研究生の受け入れ								
II 研究活動								
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称		編者・著者名 （共著の場合のみ記入）		該当頁数
著書								

論文					
黒毛和牛におけるListeria monocytogenesの疫学的研究		2012年03月29日	第150回日本獣医学会学術集会(埼玉)		
Prevalence and characteristics of Listeria monocytogenes in bovine colostrum in Japan	共著	2013年02月01日	Journal of Food Protection, Vol. 76, No. 2.	Hasegawa, M., E. Iwabuchi, S. Yamamoto, H. Esaki, K. Kobayashi, M. Ito, and K. Hirai.	p. 248～255
Prevalence and molecular epidemiological characterization of antimicrobial-resistant Escherichia coli isolates from Japanese black beef cattle	共著	2013年03月01日	Journal of Food Protection, Vol. 76, No. 3.	Yamamoto, S., E. Iwabuchi, M. Hasegawa, H. Esaki, M. Muramatsu, N. Hirayama, and K. Hirai.	p. 394～404
Prevalence and characteristics of Listeria monocytogenes in feces of black beef cattle reared in three geographically distant areas in Japan	共著	2014年02月01日	Foodborne pathogens and disease, Vol. 11, No. 2.	Hasegawa, M., E. Iwabuchi, S. Yamamoto, M. Muramatsu, I. Takashima, and K. Hirai.	p. 96～103
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
1998年04月01日 ～ 現在に至る	栄養士会会員				
2001年01月01日 ～ 現在に至る	日本食品衛生学会会員				
2001年01月01日 ～ 現在に至る	日本食品微生物学会会員				
2001年01月01日 ～ 現在に至る	日本食品科学工学会会員				
2001年01月01日 ～ 現在に至る	日本食品化学学会会員				
2012年04月01日 ～ 2014年03月31日	北海道栄養士会 研究教育栄養士協議会運営委員				
2014年04月01日 ～ 現在に至る	北海道栄養士会 代議員				
2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	札幌歯科学院専門学校歯科衛生士科2年次生科目「栄養指導法」講師				
2014年06月01日 ～ 2015年03月31日	ブラジル研究生の受け入れ（北海道出身海外移住者子弟留学生受入事業）				

2015年04月01日 ～ 2016年03月31日	札幌歯科学院専門学校歯科衛生士科2年次生科目「栄養指導法」講師
2016年04月01日 ～ 2017年03月31日	札幌歯科学院専門学校歯科衛生士2年次生「栄養指導」講師

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 講師	氏名 岡部 哲子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
2) 給食経営管理論実習Ⅰにおけるウェブサイト構築・技術指導、および給食経営管理論Ⅰにおけるウェブサイト情報の利用		2008年04月01日 ～ 2016年03月31日	給食経営管理論実習Ⅰにおいて、レシピ等の情報発信を目的にウェブサイトを構築している。学生はこのサイトを利用し、授業で作成した献立のレシピ・画像及び栄養情報を発信している。2015年度は、システム変更に伴い、利用しやすい内容にリニューアルした。さらにアップロードについては、グループ単位の指導から、クラス単位への指導に変え、各自の進行に偏りがないように技術面における工夫を行った。次年度の授業、給食経営管理論Ⅰの献立作成で紹介し運用・役立てている。
1) 給食経営管理論Ⅰにおける「施設と設備」理解のための実践的指導		2012年06月01日 ～ 2016年03月31日	1) 給食経営管理論Ⅰの「施設と設備」の理解を深めるために、講義に加えて、グループ単位で施設見学および演習を行っている。具体的には、食事計画の立案段階において、実習施設の見学、機器の説明を演習形式で行い、学生のグループ内の食事計画にフィードバックできるように工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書			
給食経営管理論実習Ⅰの実習用テキストの編集		2008年04月01日 ～ 2015年03月31日	給食経営管理実習用書籍「給食の運営管理実習テキスト」および大量調理施設衛生管理マニュアルの改正（厚生労働省）を参考に、本学の実習内容に適した実習ノートの作成および内容の見直しを行った。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
2) 三川女子調理師学校職員研修会「医療分野におけるフードサービスの変遷と現状～給食経営管理における栄養士と調理師のかかわり・施設設備を中心に～」		2014年03月10日	医療分野のフードサービスにおいて栄養士と調理師のかかわりは深い。給食経営管理における歴史的な変遷を踏まえ、最新の話題提供・事例報告を行った。
3) 三川女子調理師学校職員研修会「アレルギー対応給食の取り組み～栄養士と調理師の役割をについて～」		2015年03月10日	給食でアレルギー対応食を提供する学校が増えてきているが、学校、家庭、給食を作る現場の連携体制が重要である。栄養士と調理師の役割について、北海道の事例をもとに報告を行った。
4) 三川女子調理師学校職員研修会「集中調理センターにおける栄養士と調理師の業務内容について」		2015年03月11日	集中調理センターにおける栄養士と調理師の業務内容について、病院・福祉施設給食の提供を中心に講義を行った。
5) 三川女子調理師学校職員研修会「おいしい食事提供と調理師の役割」		2016年03月11日	病院給食の個別対応における調理師労働について

4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
天使大学のレシピBOOKvol.1 学生から家族に贈る健康レシ ピ33	共著	2012年03月01日	天使大学、正文舎	丸山知子、山部秀子、岡部哲子、鹿内 あずさ、白石直美、菅井このみ、長谷 川めぐみ、渡邊泰央、和田実央	
管理栄養士・栄養士のための 困りごと相談ハンドブック	共著	2013年09月01日	新日本法規出版	編者：早野貴文、木戸康博、著者：岡 部哲子、氏家志乃他	p. 394-410
天使大学のレシピBOOKvol.2 学生から一人暮らしのあなた に贈る健康レシピ	共著	2014年03月01日	天使大学、正文舎	丸山知子、山部秀子、岡部哲子、白幡 亜希、鈴木純子、臺野美奈子、中居香 織、中田真依、長谷川めぐみ、松下直 美、和田実央	
論文					
天使大学とコープさっぽろの 産学連携プロジェクトにおけ る料理レシピの共同開発と課 題	共著	2011年11月06日	第7回日本給食経営管理学会学術総 会	◎岡部哲子、山部秀子、長谷川めぐ み、中田史郎	
産学連携プロジェクトにおけ る栄養学科学生の料理レシピ 開発と教育効果（第三報）	共著	2012年11月25日	第8回日本給食経営管理学会学術総 会	◎岡部哲子、山部秀子	
産学連携プロジェクトにおけ る 栄養学科学生の料理レシ ピ開発と紙面掲載による教育 効果（第三報）	共著	2012年12月01日	第10回日本栄養改善学会北海道支部 学術総会	◎岡部哲子、山部秀子	

北海道有床診療所における給食経営管理の現状 栄養士・管理栄養士の雇用形態と地域特性を軸に	共著	2013年09月01日	第60回日本栄養改善学会学術総会	◎岡部哲子、久保田のぞみ、佐藤信	
北海道の有床診療所における栄養士・管理栄養士の配置状況と課題	共著	2013年12月01日	第11回日本栄養改善学会北海道支部学術総会	◎岡部哲子、久保田のぞみ、佐藤信	
大学生協における非栄養学専攻学生に対する栄養情報の提供と販売促進に関する研究	共著	2013年12月01日	第11回日本栄養改善学会北海道支部学術総会	池田祐佳里、石戸谷侑、岡部哲子	
北海道の有床診療所における管理栄養士の配置状況と栄養管理の課題	共著	2014年03月01日	天使大学紀要第14巻第2号	◎岡部哲子、久保田のぞみ、佐藤信	
給食会社に勤務する管理栄養士の就業実態	共著	2015年09月24日	第62回日本栄養改善学会学術総会	◎岡部哲子、白幡亜希、山部秀子	
病院給食運営におけるセントラルキッチン方式導入の意義	共著	2015年10月11日	第29回日本流通学会全国大会	◎岡部哲子、佐藤信	
天使大学給食経営管理実習における指導教員が抱える問題点の構造化-ISM) による分析 -	共著	2016年02月06日	日本医療情報学会北海道地方会	小川美弥子、山部秀子、岡部哲子、白幡亜希、工藤啓子、長谷部理子、谷祐児、小笠原克彦	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2008年12月01日 ～ 現在に至る	北海道公衆衛生学会評議員				
2010年04月01日 ～ 2012年03月31日	北海道栄養士会研究教育栄養士協議会副会長				
2013年04月01日 ～ 現在に至る	北海道食の安全・安心委員会委員				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科		職名 講師	氏名 長谷川 めぐみ	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)			
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
ウェブサイトを活用した情報発信技術の習得		2006年04月01日～ 現在に至る	レシピや栄養に関する情報を学生が発信するためのウェブサイトを構築した。このウェブサイトを利用して、学生は授業で作成した献立のレシピ及び栄養情報を発信している。学生が情報をネット上に公開するための技術指導を行っている。				
2 作成した教科書、教材、参考書							
栄養教育のための統計処理		2014年04月01日～ 現在に至る	統計処理を栄養教育に導入しやすいように、ICT教材を作成し、栄養教育論実習に導入し、担当教員と連携して授業で活用している。学生からの評価は良好である。				
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
「コープさっぽろ天使大学連携プロジェクト」		2009年09月01日～ 現在に至る	学生が作成したレシピをコープさっぽろへ提供。消費者へレシピを提案し、栄養情報を提供することをおして、学生が情報提供の実際を学ぶことができるよう、支援した。				
「天使大学のレシピブック」		2011年04月01日～ 現在に至る	栄養・看護学科学生が共同してレシピブックを作成することを支援した。				
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
改訂 マスター栄養教育論	共著	2015年04月01日	建帛社	編著者：逸見幾代、佐藤香苗 執筆：長谷川めぐみ、他11名	執筆箇所：第11章2. (5) 171, 173		

マスター栄養教育論実習	共著	2016年05月01日	(株) 建帛社	編著者：佐藤香苗、杉村留美子 執筆著者：長谷川めぐみ、他9名	第2章3「データを用いた演習」 P. 29-41、第3章1-1「母親教室」 P. 46-49、8-2「フィードバック を反映したロールプレイ」P. 97- 103
論文					
黒毛和牛におけるListeria monocytogenesの疫学的研究	共著	2012年03月01日	第153回日本獣医学会 (さいたま)	長谷川めぐみ、岩渕絵里子、江寄英剛、江口正志、高島郁夫、平井克哉	
Prevalence and characteristics of Listeria monocytogenes in bovine colostrum in Japan	共著	2013年02月01日	J. Food Prot. 76 (2)	Hasegawa, M., Iwabuchi, E., Yamamoto, S., Esaki, H., Kobayashi, K., Ito, M., Hirai, K.	248～255
Prevalence and molecular epidemiological characterization of antimicrobial-resistant Escherichia coli Isolates from Japanese black beef cattle	共著	2013年03月01日	J. Food Prot. 76 (3)	Yamamoto, S., Iwabuchi, E., Hasegawa, M., Esaki, H., Muramatsu, M., Hirayama, N., Hirai, K.	394～404
Prevalence and characteristics of Listeria monocytogenes in feces of black beef cattle reared in three geographically distant areas in Japan	共著	2014年02月01日	Foodborne Pathog. Dis. 11 (2)	Hasegawa, M., Iwabuchi, E., Yamamoto, S., Muramatsu, M., Takashima, I., Hirai, K.	96～103
ICTを活用した食育授業の有効性～小学5年生・中学2年生を対象として～	共著	2014年07月01日	第23回日本健康教育学会学術大会 (札幌)	佐藤香苗、長谷川めぐみ	
カウンセリング演習におけるOSCEの実施概要	共著	2014年08月01日	第3回日本栄養学教育学会学術総会 (横須賀)	佐藤香苗、長谷川めぐみ、百々瀬いづみ、菅原千鶴子、山部秀子	
栄養教育演習における客観的臨床能力試験 (OSCE) の評価 (第一報) - 評価者側の教育力向上の観点から -	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会学術総会 (横浜)	長谷川めぐみ、百々瀬いづみ、菅原千鶴子、山部秀子、◎佐藤香苗	

栄養教育演習における客観的臨床能力試験（OSCE）の評価（第一報）－学生面接能力の振り返りから－	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会学術総会（横浜）	百々瀬いづみ、長谷川めぐみ、菅原千鶴子、山部秀子、◎佐藤香苗	
客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた臨床実践力の育成に関する研究（第一報）～管理栄養士課程学生の到達度、とくに食事の聴き取り力の自己評価について～	共著	2014年08月01日	第3回日本栄養学教育学会学術総会（横須賀）	佐藤香苗、長谷川めぐみ、百々瀬いづみ、菅原千鶴子、山部秀子	
客観的臨床能力試験（OSCE）を用いた臨床実践力の育成に関する研究（第二報）～OSCEと知識試験の関連性、とくに情意領域評価の課題について～	共著	2014年08月01日	第3回日本栄養学教育学会学術総会（横須賀）	長谷川めぐみ、百々瀬いづみ、菅原千鶴子、山部秀子、◎佐藤香苗	
スポーツをしている児童生徒の栄養・生活教育の効果に関する研究－野球教室に通う小中学生への食育活動の取組とその評価－	共著	2015年03月01日	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター受託研究成果報告書	佐藤香苗、長谷川めぐみ	
スポーツをしている小中学生の体格、体力、食事バランスと相互関連性～野球教室に通う子どもの調査成績から	共著	2015年09月25日	第62回日本栄養改善学会学術総会（福岡）	長谷川めぐみ、◎佐藤香苗	
認知症高齢者の安静時エネルギー消費量	共著	2015年11月21日	日本食生活学会第51回大会（岡山）	佐藤香苗、長谷川めぐみ、神明子、鈴木みずえ、山内太郎	
スポーツをしている小中学生の栄養状態、体格、体力、食習慣の関連 ～野球教室に通う子どもの調査成績から～	共著	2015年12月19日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	長谷川めぐみ、◎佐藤香苗	
認知症高齢者の代謝は亢進しているか	共著	2015年12月19日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	佐藤 香苗、長谷川 めぐみ、神 明子、鈴木 みずえ、山内 太郎	
認知症高齢者のエネルギー・栄養素並びに食品群別摂取量	共著	2015年12月19日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	長谷川 めぐみ、小山田 文、神 明子、田中 祐里恵、◎佐藤 香苗	
在宅訪問栄養指導に必要なカウンセリング演習プログラム	共著	2015年12月19日	日本生理人類学会 健康栄養科学研究部会 第1回研究会（札幌）	長谷川めぐみ、◎佐藤香苗	

認知症高齢者の食事特性	単著	2016年06月03日	日本食生活学会 第52回大会（埼玉） 講演要旨集		30～30
認知症高齢者の安静時エネルギー消費量の予測因子	共著	2016年06月04日	日本生理人類学会 第73回大会（大阪） 日本生理人類学会誌 21（3） 講演要旨集	佐藤香苗、長谷川めぐみ、神明子、鈴木みずえ、山内太郎	125～125
成人前期における食物繊維の習慣的摂取量と食後血糖推移との関連性	共著	2016年06月05日	第25回日本健康教育学会学術大会（沖縄） 日本健康教育学会誌 24、講演要旨集	佐藤 香苗，長谷川 めぐみ	116～116
認知症グループホームにおけるエネルギー・栄養素摂取状況－管理栄養士による栄養管理の有無に着目して－	共著	2016年06月12日	第25回日本健康教育学会学術大会（沖縄） 日本健康教育学会誌 24、講演要旨集	長谷川めぐみ，佐藤香苗	114～114
Health promotion proposal using the PRECEDE-PROCEED model for preventing listeriosis in pregnant women in Hokkaido, Japan	共著	2016年06月28日	ISEE-ISES AC2016 (Sapporo, Japan)	ISEE-ISES AC2016 (Sapporo, Japan)	
ICTを活用した在宅栄養支援の演習プログラムの効果	共著	2016年09月08日	第63回日本改善学会 学術総会（青森） 栄養学雑誌 74(5) 講演要旨集	長谷川めぐみ、多田賢代、川上祐子、杉村 留美子、佐藤香苗	202～202
認知症高齢者の栄養・食事特性	共著	2016年09月17日	日本健康科学学会 第32回学術大会（名古屋） Health Sciences 32（3） 講演要旨集	佐藤香苗、長谷川めぐみ	162～162
認知症高齢者の安静時エネルギー消費量～認知機能別の比較と推定～	共著	2016年10月22日	日本生理人類学会 第74回大会（石川） 生理人類学会誌 21 特別号2	佐藤香苗、長谷川めぐみ、神明子、鈴木みずえ、山内太郎	34～34
摂取食品からみた認知症高齢者の食事特性～管理栄養士による栄養管理の有無に着目して～	共著	2016年11月26日	第81回日本民族衛生学会総会（東京） 82（講演要旨集）	佐藤香苗、長谷川めぐみ、神 明子	66～67
Effectiveness of Dietary Education Using the Ishikari Food Guide Spinning Top: A Study of Second-Year Junior High School Students	共著	2016年11月28日	Health Sciences 32（4）	Kanae Sato, Megumi Hasegawa, Aoi Kurokawa, Yoshihito Arakawa	215～228

Ⅲ 学会等および社会における主な活動

2015年02月09日 ～ 2015年05月31日	日本生理人類学会 実行委員
2015年12月20日 ～ 2015年12月20日	生理人類学会栄養研究部会 座長

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 講師	氏名 峯岸 夕紀子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)				
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
論文							
新入学生のうつ傾向とその関連要因	共著	2013年03月01日	北海道医療大学看護福祉学部学会誌 (9) 1	◎峯岸夕紀子、上原尚紘、佐藤徹光、 澤目亜希、志渡晃一	p141～145		

大学生における抑うつ傾向と食生活習慣との関連について	共著	2013年11月01日	第65回北海道公衆衛生学会	◎峯岸夕紀子、小野瑞茉、佐々木美奈、但木友美、鶴巻奈津、中村朱里	
運動と食行動変容支援による体力とメタボリックシンドロームの改善～北海道における自発的運動実施の季節変動を考慮した解析～	共著	2015年03月31日	北海道体育学研究	◎百々瀬いづみ、森谷紜、清水真理、小林良子、梅澤敦子、鈴木純子、久保ちづる、山口敦子、峯岸夕紀子、松下真美、白幡亜希、古川直美、村尾咲音、斉藤昌之、武蔵学、大久保岩男	25～41
青年と中高年における食生活とメンタルヘルスの関連性	共著	2015年12月01日	天使大学紀要Vol. 16 (1)	福士一恵、鈴木純子、大塚吉則、大久保岩男、清水真理、白幡亜希、松下真美、百々瀬いづみ、山口敦子、梅澤敦子、小林良子、斉藤昌之、久保ちづる、古川直美、峯岸夕紀子、武蔵学、森谷紜	1～19
III 学会等および社会における主な活動					
2000年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会会員				
2002年04月01日 ～ 現在に至る	北海道IBD食・食事療法研究会幹事				
2005年04月01日 ～ 現在に至る	北海道医療大学看護福祉学部学会会員				
2005年12月01日 ～ 現在に至る	北海道公衆衛生学会会員				
2012年03月01日 ～ 2012年03月31日	第14回北海道IBD患者会調理実習 講師				
2013年11月01日 ～ 2013年11月30日	第65回北海道公衆衛生学会 座長				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 講師	氏名 百々瀬 いづみ	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)				
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
論文							
管理栄養士の学び直し：特定 健診・保健指導スキルアップ プログラム3か年の実践と成 果	共著	2011年09月01日	第58回日本栄養改善学会学術総会講 演要旨集	百々瀬いづみ、伊藤和枝、木谷信子、 森谷紉、小林良子、山口敦子、菅原千 鶴子、本間鄙子、斉藤昌之	135頁～135頁		

健康運動および心理的尺度の変容に対する性格特性の関与—天使健康栄養クリニックを事例に—	共著	2011年09月01日	第58回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集	梅澤敦子、森谷絜、百々瀬いづみ、小林良子、清水真理、伊藤和枝、木谷信子、山口敦子、鈴木純子、松下真美、斉藤昌之	160頁～160頁
公衆栄養学臨地実習の効果的プログラムの検討—5年間の公衆栄養学実習前後の調査から—	共著	2011年09月01日	第58回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集	小林良子、百々瀬いづみ、石川紀子、原美智子	180頁～180頁
運動実施の支援による体力・自己効力感の向上とメタボリックシンドロームの予防・改善	共著	2011年11月01日	第51回北海道体育学会発表	百々瀬いづみ、森谷絜、清水真理、小林良子、伊藤和枝、木谷信子、山口敦子、鈴木純子、松下真美、牧田章、斉藤昌之、関谷千尋	34頁～34頁
運動実施の支援による体力の向上とメタボリックシンドロームの予防・改善の関係	共著	2012年03月01日	天使大学紀要 第12巻	百々瀬いづみ、森谷絜、清水真理、伊藤和枝、木谷信子、原美智子、牧田章、斉藤昌之、松下真美、渡辺久美子、佐々木正子、金子裕子、中川幸恵、松田清美、佐藤あゆみ、関谷千尋	53～67頁
食行動変容とメタボリックシンドロームの病態改善がQuality of life に及ぼす影響	共著	2012年03月01日	天使大学紀要 第12巻	清水真理、森谷絜、伊藤和枝、斉藤昌之、牧田章、小林良子、山口敦子、百々瀬いづみ、原美智子、木谷信子、鈴木純子、松下真美、佐藤あゆみ、梅澤敦子、関谷千尋	33～52頁
トランスセオリアルモデルに基づく個別支援による健康行動変容で見られた個人差～「天使健康栄養クリニック」2008と2009からの検討	共著	2012年03月01日	天使大学紀要 第12巻	小林良子、森谷絜、百々瀬いづみ、清水真理、牧田章、伊藤和枝、木谷信子、山口敦子、斉藤昌之、松下真美、関谷千尋	69～86頁
メタボリックシンドローム予防・改善を目指すクリニック参加者における健康行動および心理的尺度値の変容と性格特性の関連	共著	2012年05月01日	日本健康教育学会 第20巻第2号	梅澤敦子、百々瀬いづみ、小林良子、清水真理、鈴木純子、森谷絜	99～110頁
運動実施支援による体力の向上とメタボリックシンドロームの改善～対照グループとの比較	共著	2012年06月01日	第14回日本体力医学会北海道地方会発表	百々瀬いづみ、森谷絜、小林良子、梅澤敦子、牧田章、鈴木純子、山口敦子、松下真美、清水真理、田中明子、石川恵美、斉藤昌之、大久保岩男	13頁～13頁

食事指導と平行した運動実施支援による体力並びにメタボリックシンドロームの改善～中高年女性における検討	共著	2012年12月01日	北海道体育学研究 第47巻	百々瀬いづみ、森谷梨、小林良子、清水真理、伊藤和枝、山口敦子、鈴木純子、松下真美、牧田章、斉藤昌之、大久保岩男、関谷千尋	1～13頁
3カ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果 - 2011-12年度「天使健康栄養クリニック」からの検討	共著	2013年09月01日	第60回日本栄養改善学会学術集会	鈴木純子、山口敦子、松下真美、清水真理、田中明子、白幡亜希、森谷梨、小林良子、百々瀬いづみ、梅澤敦子、石川恵美、宮崎早花、福士一恵、和田実央、大久保岩男	244頁～244頁
卒後教育プログラムの構築とその評価－eラーニング活用の可能性	共著	2014年06月01日	天使大学紀要 第14巻第2号	鈴木純子、小林良子、白幡亜希、松下真美、百々瀬いづみ、山口敦子	1～11頁
栄養教育演習における客観的臨床能力試験（OSCE）の評価（第二報）学生の面接能力の振り返りから	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会学術集会	百々瀬いづみ、長谷川めぐみ、菅原千鶴子、山部秀子、佐藤香苗	236頁～236頁
栄養教育演習における客観的臨床能力試験（OSCE）の評価（第一報）評価者側の教育力向上の観点から	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会学術集会	長谷川めぐみ、百々瀬いづみ、菅原千鶴子、山部秀子、佐藤香苗	236頁～236頁
食生活の変化とメンタルヘルスの関連性	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会学術集会	福士一恵、鈴木純子、大久保岩男、清水真理、久保ちづる、白幡亜希、松下真美、峯岸夕紀子、山口敦子、梅澤敦子、小林良子、百々瀬いづみ、武蔵学、森谷梨	237頁～237頁
3カ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果 - 2011-13年度「天使健康栄養クリニック」からの検討	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会学術集会	鈴木純子、森谷梨、清水真理、久保ちづる、白幡亜希、松下真美、峯岸夕紀子、山口敦子、梅澤敦子、小林良子、百々瀬いづみ、武蔵学、大久保岩男	247頁～247頁
運動実施支援による体力改善におよぼす運動実施の季節変動	共著	2014年11月01日	第54回北海道体育学会発表	百々瀬いづみ、森谷梨、清水真理、小林良子、梅澤敦子、鈴木純子、久保ちづる、山口敦子、峯岸夕紀子、松下真美、白幡亜希、古川直美、斉藤昌之、武蔵学、大久保岩男	24頁～24頁

運動と食行動変容支援による 体力と代謝リックシンド ロームの改善～北海道におけ る自発的運動実施の季節変動 を考慮した解析	共著	2015年11月04日	北海道体育学研究	百々瀬いづみ・森谷梨・清水真理・小 林良子・梅澤敦子・鈴木純子・久保ち づる・山口敦子・峯岸夕紀子・松下真 美・白幡亜希・古川直美・村尾咲音・ 斉藤昌之・武蔵学・大久保岩男	25～41
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2008年04月01日 ～ 2017年11月30日		北海道公衆衛生学会評議員			
2010年04月01日 ～ 2012年03月31日		学習教材作成検討会検討委員長（北海道健康づくり財団）			
2010年04月01日 ～ 2012年03月31日		全国健康保険協会北海道支部におけるヘルシーレシピ事業の助言及び応募作品の審査業務の委嘱			
2011年04月01日 ～ 2013年06月30日		北海道食の安全・安心委員会委員			
2013年04月01日 ～ 2015年03月31日		北海道体育学会理事			
2014年11月01日 ～ 2016年10月31日		日本栄養改善学会評議員			

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 講師	氏名 吉田 真弓	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)								
I 教育活動											
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要								
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2011年04月01日 ～ 現在に至る	授業の最終回に授業評価シートを配布し評価を受けて、その結果を参考にして次年度の授業改善に取り組んでいる。								
学生による授業評価											
2 作成した教科書、教材、参考書		2011年04月01日 ～ 現在に至る	授業ごとに独自の映像資料（パワーポイントなど）やプリント教材を作成している。国家試験対策を意識し、学生の受験勉強に役立つ独自の資料を作成し、学生の勉強意欲を高めるよう努力している。								
映像資料、プリント教材の作成											
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等											
4 その他教育活動上特記すべき事項		2012年04月01日 ～ 現在に至る	学生が作成したレシピをコープさっぽろへ提供。消費者へレシピを提案し、栄養情報を提供することをおして、学生が情報提供の実際を学ぶことができるよう、支援している。								
「コープさっぽろ天使大学連携プロジェクト」											
II 研究活動											
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数						
著書											

論文					
長期入院中の虚弱入院患者における食事満足度と食事観の検討	共著	2011年09月01日	第58回日本栄養改善学会	◎角張敬子、吉田真弓、藤井義博	184頁～184頁
特別養護老人ホーム入所者と高齢入院患者における主観的食事満足度の比較検討（第2報）	共著	2011年09月01日	第58回日本栄養改善学会	◎山田美智子、吉田真弓、角張敬子、藤井義博	307頁～307頁
特別養護老人ホーム入所者と施設職員の食事関連満足度に対する認識の差異についての検討（第2報）	共著	2013年09月14日	第60回日本栄養改善学会	◎吉田真弓、渡部瞳、荒木由香、佐々木栞	365頁～365頁
配偶者との死別及び死別後年数が特別養護老人ホーム入所者の食事満足度に与える影響についての検討	共著	2014年08月01日	第61回日本栄養改善学会	◎吉田真弓、藤井義弘	364頁～364頁
特別養護老人ホーム入所者と施設職員の食事関連満足度に対する認識の差異についての検討（第3報）	共著	2015年09月25日	第62回日本栄養改善学会学術総会	◎吉田真弓、佐々木瞳、菅原さなえ、高橋実恵子、若林千春	287～287
配偶者との死別及び死別後年数が特別養護老人ホーム入所者の食事満足度に与える影響についての検討（第2報）	共著	2016年09月09日	第63回日本栄養改善学会	吉田真弓、鎌倉梢、野村友香、増子夕花、柳田亜咲実	337～337
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
1997年02月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会会員				
2011年01月01日 ～ 現在に至る	日本健康・栄養システム学会会員				
2011年06月01日 ～ 現在に至る	日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会会員				
2011年09月07日 ～ 2011年09月07日	日本栄養士会会長表彰				
2016年06月01日 ～ 2018年06月30日	北海道栄養士会研究教育栄養士協議会 運営委員会計				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 助教	氏名 高桑 暁子	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
「広報さっぽろ東区版」レシピ掲載		2014年07月01日 ～ 2014年07月31日	広報さっぽろ東区版「教えてタッピー」での学生のレシピ考案、撮影を支援した。		
「広報さっぽろ東区版」レシピ掲載		2015年01月01日 ～ 2015年01月31日	広報さっぽろ東区版「教えてタッピー」での学生のレシピ考案、撮影を支援した。		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

短鎖脂肪酸がマクロファージ細胞α ディフェンシンに与える影響 について		2014年10月01日	第10回 日本食品・免疫学会発表, 東京都		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2014年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養・食糧学会 会員				
2014年04月01日 ～ 現在に至る	日本食品・免疫学会 会員				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 栄養学科	職名 助教	氏名 松下 真美	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)				
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要				
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
2 作成した教科書、教材、参考書							
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4 その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
褐色脂肪組織とエネルギー消費・肥満	共著	2012年05月01日	日本糖尿病学会, 糖尿病 55(5)	斉藤昌之、米代武司、松下真美	302頁～305頁		
天使大学のレシピBOOK vol.2 学生から一人暮らし のあなたに贈る健康レシピ	共著	2014年04月01日	株式会社正文舎	2013年度卒業栄養学科・看護学科学生、 山部秀子、岡部哲子、白幡亜希、鈴木 純子、葦野美奈子、中居香織、中田真 依、長谷川めぐみ、松下真美、和田実 央、丸山知子			

肥満の医学 臨床と研究の最先端 ヒトの褐色脂肪組織	共著	2014年04月01日	医歯薬出版株式会社、医学のあゆみ 第250巻9号	斉藤昌之、松下真美	806頁～810頁
「解明」から「制御」へ 肥満症のメディカルサイエンス	共著	2016年01月21日	羊土社、実験医学増刊Vol. 34 No. 2	斉藤昌之、松下真美、米代武司	
論文					
The role of brown adipose tissue in increased energy expenditure after oral ingestion of an extract of grains of paradise in men (poster)		2011年05月01日	シンポジウム「褐色脂肪研究の新展開」, 札幌市		
減量によるメタボリックシンドロームの改善とTNF- α (口頭)		2011年07月01日	第19回西日本肥満研究会, 福岡市		
Age-Related Decrease in Cold-Activated Brown Adipose Tissue and Accumulation of Body Fat in Healthy Humans	共著	2011年09月01日	Obesity Vol.19 (9)	Takeshi Yoneshiro, Sayuri Aita, Mami Matsushita, Yuko Okamatsu-Ogura, Toshimitsu Kameya, Yuko Kawai, Masao Miyagawa, Masayuki Tsujisaki and Masayuki Saito	1755頁～1760頁
TRP チャネル刺激による褐色脂肪の活性化 (口頭)		2011年09月01日	平成23年度温熱生理研究会, 岡崎市		
健康行動および心理的尺度の変容に対する性格特性の関与ー天使健康栄養クリニックを事例にー (示説)		2011年09月01日	第58回日本栄養改善学会, 広島市		
Age-Related Decrease in Brown Adipose Tissue and Obesity in Humans (Poster)		2011年10月01日	Obesity 2011: The 29th Annual Scientific Meeting of the Obesity Society, Orlando		
運動実施の支援による 体力・自己効力感の向上と メタボリックシンドロームの予防・改善 (口頭)		2011年11月01日	北海道体育学会, 旭川市		

食行動変容とメタボリックシンドロームの病態改善がQuality of lifeに及ぼす影響	共著	2012年03月30日	天使大学紀要 Vol. 12	清水真理、森谷 紉、伊藤和枝、斉藤昌之、牧田章、小林良子、山口敦子、百々瀬いづみ、原美智子、木谷信子、鈴木純子、松下真美、佐藤あゆみ、梅澤敦子、関谷千尋	33頁～52頁
運動実施の支援による体力の向上とメタボリックシンドロームの予防・改善の関係	共著	2012年03月30日	天使大学紀要 Vol. 12	百々瀬いづみ、森谷 紉、清水真理、伊藤和枝、木谷信子、原美智子、牧田章、斉藤昌之、松下真美、渡辺久美子、佐々木正子、金子裕子、中川幸恵、松田清美、佐藤あゆみ、関谷千尋	53頁～67頁
トランスセオレティカルモデルに基づく個別支援による健康行動変容で見られた個人差～「天使健康栄養クリニック」2008と2009からの検討～	共著	2012年03月30日	天使大学紀要 Vol. 12	小林良子、森谷 紉、百々瀬いづみ、清水真理、牧田章、伊藤和枝、木谷信子、山口敦子、斉藤昌之、松下真美、関谷千尋	69頁～86頁
食事指導と平行した運動実施支援による体力並びにメタボリックシンドロームの改善～中高年女性における検討～	共著	2012年04月01日	北海道体育学研究 Vol. 47	百々瀬いづみ、森谷 紉、小林良子、清水真理、伊藤和枝、山口敦子、鈴木純子、松下真美、牧田章、斉藤昌之、大久保岩男、関谷千尋	1頁～13頁
カプシノイド長期摂取によるヒト褐色脂肪組織の増強（口頭）		2012年05月20日	第66回日本栄養・食糧学会大会，仙台市		
運動実施の支援による体力の向上とメタボリックシンドロームの改善～対照グループとの比較～（口頭）		2012年06月17日	第14回日本体力医学会北海道地方会，札幌市		
ACUTE AND CHRONIC EFFECTS OF COLD EXPOSURE ON BROWN ADIPOSE TISSUE AND ENERGY EXPENDITURE IN HUMANS (Poster)		2012年08月27日	BENZON SYMPOSIUM No. 58, ADIPOSE TISSUE IN HEALTH AND DISEASE, COPENHAGEN, DENMARK		
ACTIVATION OF BROWN ADIPOSE TISSUE BY TRPV1 AGONISTS, CAPSINOIDS IN HUMANS (Poster)		2012年08月27日	BENZON SYMPOSIUM No. 58, ADIPOSE TISSUE IN HEALTH AND DISEASE, COPENHAGEN, DENMARK		

3 カ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果 - 2011年度「天使健康栄養クリニック」からの検討 - (口頭)		2012年09月12日	第59回日本栄養改善学会, 名古屋市		
トランスセオレティカルモデルに基づく支援による健康行動変容の効果と観察された個人差の検討 (示説)		2012年09月12日	第59回日本栄養改善学会, 名古屋市		
トランスセオレティカルモデルに基づく支援による健康行動変容とメタボリックシンドロームの予防・改善 (示説)		2012年09月12日	第59回日本栄養改善学会, 名古屋市		
エネルギー活性におけるヒト褐色脂肪組織の意義と活性化・増量による肥満対策の試み (口頭)		2012年10月12日	第33回日本肥満学会, 京都市		
ヒト褐色脂肪の代謝活性と体脂肪量や血中パラメーターとの関係 (示説)		2012年10月12日	第33回日本肥満学会, 京都市		
Grains of Paradise抽出物の長期摂取による褐色脂肪組織の活性化 (示説)		2012年10月12日	第33回日本肥満学会, 京都市		
トランスセオレティカルモデルに基づく健康行動指導による食行動変容とメタボリックシンドローム改善における男女差の検討 (口頭)		2012年12月01日	第11回日本栄養改善学会北海道支部学術総会, 札幌市		
Impact of UCP1 and β 3AR Gene Polymorphisms on Age-related Changes in Brown Adipose Tissue and Adiposity in Humans.	共著	2013年04月01日	International Journal of Obesity Vol. 37	T Yoneshiro, T Ogawa, N Okamoto, M Matsushita, S Aita, T Kameya, Y Kawai, T Iwanaga and M Saito	993頁～998頁
Recruited brown adipose tissue as an antiobesity agent in humans.	共著	2013年04月01日	The Journal of Clinical Investigation Vol.123 (8)	Yoneshiro T, Aita S, Matsushita M, Kayahara T, Kameya T, Kawai Y, Iwanaga T, Saito M.	3404頁～3408頁

3ヵ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果 - 2011~2012年度「天使健康栄養クリニック」からの検討- (口頭)		2013年09月01日	第60回日本栄養改善学会, 神戸市		
寒冷誘導熱産生の季節変動: 褐色脂肪組織の寄与 (口頭)		2013年09月01日	平成25年度温熱生理研究会, 岡崎市		
近赤外線時間分解分光法によるヒト褐色脂肪組織の新しい評価法 (口頭)		2013年10月01日	第34回日本肥満学会, 東京都		
適応的エネルギー消費調節: 褐色脂肪組織と筋肉の寄与 (口頭)		2013年10月01日	第34回日本肥満学会, 東京都		
”黒ショウガ”の摂取がヒトのエネルギー消費量へ及ぼす影響 (口頭)		2013年10月01日	第34回日本肥満学会, 東京都		
Evaluation of brown adipose tissue using near-infrared time-resolved spectroscopy	共著	2014年	International Society on Oxygen Transport to Tissue 876	Nirengi S., Yoneshiro T., Saiki T., Aita S., Matsushita M., Sugie H., Saito M., Hamaoka T.	371~376
Impact Of Brown Adipose Tissue On Body Fatness And Blood Glucose In Healthy Humans (Poster)		2014年03月19日	International Congress on Obesity (ICO)2014, Kuala Lumpur, Malaysia		
Contribution Of Brown Adipose Tissue To The Regulation Of Energy Expenditure In Healthy Humans (Oral)		2014年03月19日	International Congress on Obesity (ICO)2014, Kuala Lumpur, Malaysia		
Transient receptor potential channel-mediated activation and recruitment of brown adipose tissue in humans (Oral)		2014年03月19日	International Congress on Obesity (ICO)2014, Kuala Lumpur, Malaysia		
A novel simple method for detecting human brown adipose tissue using near-infrared time-resolved spectroscopy (Oral)		2014年03月19日	International Congress on Obesity (ICO)2014, Kuala Lumpur, Malaysia		

Impact of brown adipose tissue on body fatness and glucose metabolism in healthy humans.	共著	2014年04月01日	International Journal of Obesity Vol.38(6)	Matsushita M, Yoneshiro T, Aita S, Kameya T, Sugie H, Saito M.	812頁～817頁
卒後教育プログラムの構築とその評価 -e-ラーニング活用 の可能性 -	共著	2014年04月01日	天使大学紀要 Vol.14(2)	鈴木純子、小林良子、白幡亜希、松下真美、百々瀬いづみ、山口 敦子	1頁～11頁
Serum DJ-1 level is positively associated with improvements in some aspects of metabolic syndrome in Japanese women through lifestyle intervention.	共著	2014年04月01日	Nutrition Research Vol.34(10)	Yamane T, Murao S, Kozuka M, Shimizu M, Suzuki J, Kubo C, Yamaguchi A, Musashi M, Minegishi Y, Momose I, Matsushita M, Shirahata A, Furukawa N, Kobayashi R, Umezawa A, Sakamoto M, Moriya K, Saito M, Makita A, Ohkubo I, Ariga H	851頁～855頁
Human brown fat assessed by simple noninvasive near-infrared time-resolved spectroscopy (poster)		2014年05月30日	American College of Sports Medicine (ACSM) 2014		
適応性熱産生の季節変動におけるヒト褐色脂肪組織の寄与（口頭）		2014年06月01日	第68回日本栄養・食糧学会大会，江別市		
脂肪エネルギー代謝をターゲットとした抗肥満食品素材の探索・利用（口頭）		2014年06月01日	第68回日本栄養・食糧学会大会，江別市		
体脂肪と糖代謝に対する褐色脂肪組織の関与：ヒトでの横断的解析（口頭）		2014年06月01日	第68回日本栄養・食糧学会大会，江別市		
Evaluation of brown adipose tissue using near-infrared time-resolved spectroscopy (poster)		2014年07月01日	42nd Meeting of the International Society on Oxygen Transport to Tissue		
3カ月間の継続健康教育が食生活改善に及ぼす効果 - 2011～2013年度「天使健康栄養クリニック」からの検討 -（口頭）		2014年08月20日	第61回日本栄養改善学会，横浜市		

食生活の変化とメンタルヘルスの関連性（口頭）		2014年08月20日	第61回日本栄養改善学会，横浜市		
ヒト褐色脂肪と2型甲状腺ホルモン脱ヨード化酵素（DIO2）の一塩基多型（口頭）		2014年10月24日	第35回日本肥満学会，宮崎市		
生活習慣病の予防・改善のための卒後教育プログラムの構築とその評価 ― e-ラーニング活用の可能性 ―（口頭）		2014年12月06日	第12回日本栄養改善学会北海道支部学術総会，札幌市		
高脂肪食が健常若年女性の食事誘導熱産生と安静時代謝に及ぼす影響（口頭）		2014年12月06日	第12回日本栄養改善学会北海道支部学術総会，札幌市		
香辛料などの食品成分によるヒト褐色脂肪組織の活性化と肥満予防	共著	2015年	天使大学紀要 Vol.15(2)	松下真美、米代武司、杉田淳、鈴木純子、大久保岩男、 斉藤昌之	32～40
運動と食行動変容支援による体力とメタボリックシンドロームの改善～ 北海道における自発的運動実施の季節変動を考慮した解析	共著	2015年	北海道体育学研究 Vol.50	百々瀬いづみ，森谷 紉，清水真理，小林良子，梅澤敦子，鈴木純子，久保ちづる，山口敦子，峯岸夕紀子，松下真美，白幡亜希，古川直美，村尾咲音，斉藤昌之，武蔵学，大久保岩男	25～41
Food ingredients as anti-obesity agents	共著	2015年	Trends in Endocrinology and Metabolism Vol.26 (11)	Saito M, Takeshi Yoneshiro T, and Matsushita M	585～587
寒冷適応と体脂肪制御における褐色脂肪組織の生理学的意義		2015年	日本生理人類学会誌 Vol.20, No.4		219～223
Evaluation of brown adipose tissue using near-infrared time-resolved spectroscopy	共著	2015年	Advances in Experimental Medicine and Biology Vol.876	Nirengi S., Yoneshiro T., Saiki T., Aita S., Matsushita M., Sugie H., Saito M., Hamaoka T.	371～376
Roles of Brown Adipose Tissue in Seasonal Variations of Thermogenesis in Men (poster)		2015年03月01日	Experimental Biology 2015		

Green Tee Catechin Increases Brown Fat- dependent Thermogenesis (poster)	共著	2015年04月	Keystone Symposium 2015	Takeshi Yoneshiro, Mami Matsushita, Hiroshi Tone, Masanobu Hibi, Masao Takeshita, Koichi Yasunaga, Yoshihisa Katsuragi, Masayuki Saito	
Kaempferia parviflora extract increases whole- body energy expenditure in humans: roles of brown adipose tissue	共著	2015年04月01日	Journal of Nutritional Science and Vitaminology Vol.61(1)	Matsushita M, Yoneshiro T, Aita S, Kamiya T, Kusaba N, Yamaguchi N, Takagaki K, Kameya T, Sugie H, Saito M.	79頁～83頁
褐色脂肪組織の適応的熱産生 能と肥満予防	共著	2015年05月	日本生理人類学会 第72回大会, 札 幌市	米代武司、松下真美、斉藤昌之	
寒冷曝露時の鎖骨上窩皮下組 織温と褐色脂肪活性の関係 (示説)	共著	2015年05月	日本生理人類学会 第72回大会, 札 幌市	小林 功嗣, 鷹野 翔一, 高屋敷 亮太, 前田 享史, 米代 武司, 松下 真美, 斉藤 昌之	
黒ショウガエキス摂取による ヒト褐色脂肪組織の活性化と 肥満予防 (口頭)	共著	2015年09月	第62回日本栄養改善学会, 福岡市	松下真美、米代武司	
Relationship between Brown Adipose Tissue Activity and Subcutaneous Tissue Temperature of Supraclavicular Region during Mild Cold Exposure (poster)	共著	2015年10月	12th International Congress of Physiological Anthropology, Chiba	Koji KOBAYASHI, Takafumi MAEDA, Takeshi YONESHIRO, Mami MATSUSHITA, Masayuki SAITO	
褐色脂肪組織は日常生活での エネルギー消費量増大に貢献 するのか (口頭)	共著	2015年10月	第36回日本肥満学会, 名古屋市	中江悟司, 米代武司, 松下真美, 山田 陽介, 高田和子, 斉藤昌之, 田中茂穂	
緑茶カテキンのヒト褐色脂肪 活性化・増量効果	共著	2015年10月	第36回日本肥満学会, 名古屋市	米代武司, 松下真美, 刀禰寛, 竹下尚 男, 安永浩一, 大崎紀子, 斉藤昌之	
食品成分によるTRPを介した ヒトBAT活性化機構	共著	2015年10月	第36回日本肥満学会, 名古屋市	米代武司, 松下真美, 斉藤昌之	
鎖骨上窩皮下組織温から見た 褐色脂肪活性	共著	2015年11月	第23回衛生工学シンポジウム	小林 功嗣, 鷹野 翔一, 高屋敷 亮太, 前田 享史, 米代 武司, 松下 真美, 斉藤 昌之	

Tea Catechin Activates and Recruits Brown Fat-dependent Thermogenesis in Men	共著	2015年11月	2015 International Congress on Obesity and Metabolic Syndrome (ICOMES)	Masayuki Saito, Takeshi Yoneshiro, Mami Matsushita, Masanobu Hibi, Hiroshi Tone, Masao Takeshita, Koichi Yasunaga, Noriko Osaki, Yoshihisa Katsuragi	
青年と中高年における食生活とメンタルヘルスの関連性	共著	2015年12月	天使大学紀要 第16巻	福士一恵, 鈴木純子, 大塚吉則, 大久保岩男, 清水真理, 白幡亜希, 松下真美, 百々瀬いづみ, 山口敦子, 梅澤敦子, 小林良子, 斉藤昌之, 久保ちづる, 古川直美, 峯岸夕紀子, 武蔵学, 森谷梨	1~19
Brown adipose tissue is involved in the seasonal variation of cold-induced thermogenesis in humans	共著	2016年03月	American Journal of Physiology, Regulatory, Integrative and Comparative Physiology Vol. 310(10)	Yoneshiro T, Matsushita M, Nakae S, Kameya T, Sugie H, Tanaka S, Saito M.	R999~R1009
Brown adipose tissue is involved in diet-induced thermogenesis and whole body fat utilization in healthy humans		2016年05月	International Congress on Obesity (ICO) 1-4 May 2016, Vancouver, Canada		
食事誘導熱産生の日内変動と褐色脂肪組織の役割: ヒューマンカロリーメーターによる検討 (口頭)		2016年05月	第70回日本栄養・食糧学会大会, 神戸市		
Brown adipose tissue is involved in diet-induced thermogenesis and whole-body fat utilization in healthy humans	共著	2016年08月	International Journal of Obesity (Lond) Vol.40(11)	Hibi M, Oishi S, Matsushita M, Yoneshiro T, Yamaguchi T, Usui C, Yasunaga K, Katsuragi Y, Kubota K, Tanaka S, Saito M.	1655~1661
Assessment of human brown adipose tissue density during daily ingestion of thermogenic capsinoids using near-infrared time-resolved spectroscopy	共著	2016年09月	Journal of Biomedical Optics Vol. 21(9)	Nirengi S, Homma T, Inoue N, Sato H, Yoneshiro T, Matsushita M, Kameya T, Sugie H, Tsuzaki K, Saito M, Sakane N, Kurosawa Y, Hamaoka T	091305~091305
Activation and recruitment of brown adipose tissue by cold exposure and food ingredients in humans	共著	2016年10月	Best Practice & Research Clinical Endocrinology & Metabolism Vol. 30(4)	Saito M, Yoneshiro T, Matsushita M.	537~547

褐色脂肪組織は食事誘導熱産生の日内変動に寄与する（示説）		2016年10月	第37回日本肥満学会，東京都		
食事誘導熱産生及び基質利用量に与える褐色脂肪組織の影響（示説）		2016年10月	第37回日本肥満学会，東京都		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2007年04月01日 ～ 現在に至る	日本栄養改善学会 会員				
2008年04月01日 ～ 現在に至る	日本肥満学会 会員				
2011年04月01日 ～ 現在に至る	天使健康栄養クリニック				
2016年06月01日 ～ 現在に至る	日本栄養・食糧学会 会員				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 教養教育科	職名 教授	氏名 川口 雄一	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		2007年04月01日 ～ 現在に至る	授業中に課題提出や発表会を取り入れ、学生が自分で問題解決に当る機会を設けた。
		2007年04月01日 ～ 現在に至る	講義科目ではあるが、授業中に小試験や演習をできる限り取り入れ、学生が自分で考える機会を確保した。かつ、学習内容の定着を細かく確認した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2007年04月01日 ～ 現在に至る	オンライン教材公開用ポータルサイト(XOOPS, Nucleu, など)
		2007年04月01日 ～ 現在に至る	学習管理システム (Moodle CMS/LMS)
		2007年04月01日 ～ 現在に至る	オンライン教材 (情報処理演習 I, I, III, 統計処理 I, II)
		2013年04月01日 ～ 現在に至る	電子版教育ポートフォリオ (Mahara, 試用)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2012年03月22日	天使大学 特別研究費 報告会
		2013年03月20日	天使大学 特別研究費 報告会 (2件)
4 その他教育活動上特記すべき事項		2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	天使大学 特別研究費
		2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	北海道大学 情報基盤センター 共同研究 (A4-6)

			2013年04月01日 ～ 2014年03月31日	天使大学 特別研究費	
			2013年04月01日 ～ 2014年03月31日	天使大学 特別研究費	
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
Dispelling of Confusion of Equations in Learning Affine Cipher and An Application of the Result	単著	2012年11月30日	天使大学 紀要, No. 13, Vol. 1		pp. 1～4
Moodle LMS による HLS スト リーミング	共著	2013年06月28日	天使大学紀要 13巻 2号	川口 雄一 目時 光紀 小島 洋一郎	73～77
動画像をストリーミング配信 する場合の転送速度測定実験	共著	2013年07月01日	天使大学 紀要 第14巻 1号	川口 雄一, 目時 光紀, 小島 洋一郎	pp. 41～47
電子版教育ポートフォリオの 運用可能性に関する研究	共著	2014年06月01日	天使大学 紀要 第14巻 2号	川口 雄一, 相内 泰三	125～130
非アップル端末によるHLSス トリーミング動画の再生	共著	2014年06月01日	天使大学 紀要 第14巻 2号	川口 雄一, 目時 光紀	131～136
等分散の検定に対する同等な 2つの説明		2014年12月04日	天使大学 紀要 15巻 1号		19～22
グーグル・アカウントの認証 を利用したウェブ・アプリ ケーション	共著	2015年08月31日	天使大学 紀要 15巻 2号	川口 雄一 目時 光紀	65～70
	単著	2016年03月11日			1～4

Ⅲ 学会等および社会における主な活動	

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 教養教育科	職名 教授	氏名 田島 忠篤	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
2 作成した教科書、教材、参考書					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4 その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
世界宗教百科事典	共著	2012年12月01日	丸善株式会社	世界宗教百貨辞典編集委員会編	p. 388-389
論文					
書評 岡田典夫・小澤浩・櫻 井義秀・島菌進・中村圭志著 『はじめて学ぶ宗教－自分で 考えたい人のために－』	単著	2012年06月01日	宗教と社会 第18号		pp. 76～83

日韓宗教のトランスナショナルリティ (パネル・コメンテーター)	単著	2012年09月09日	第71回日本宗教学会学術大会 (皇學館大学)		
Christianity In Korea: Special Reference to Catholic Church in Seoul, Busan, Taejon at Home and in Tokyo and Kyoto Abroad	共著	2013年03月05日	International Workshop: Social Change and Religious Transformation in East Asia, Venue: Faculty of Letters, Hokkaido University		
Korean Catholic Church in Japan: the Role of Religion for the Immigrants	共著	2013年03月23日	Workshop on the Role of Religion in Global Civil Society by the Center for Global Studies at Shanghai University and the Orfalea Center for Global and International Studies at University of California, Santa Barbara, USA. Shanghai University, China		
ワークショップ/ チャイニーズネズ2013 (宗教関係コメンテーター)	単著	2013年03月30日	愛媛大学法文学部		
New Religion and Rural-to-Urban Migration in Japan	単著	2013年06月01日	天使大学紀要 (第13巻2)		
Religion and communities in Late Modern Societies in the Asian context (Organiser)	共著	2013年06月29日	32nd ISSR/SISR Conference, Turku-Abo, Finland		
戦後の北海道における民族マツリの展開について	単著	2013年10月26日	第28回韓国日本近代学会 国際学術大会		
第12章 戦後北海道における民族マツリの展開についてーまじりも祭り、アンニョンフェスタ、はこだて国際民俗芸術祭の諸病を中心にして	単著	2014年02月28日	『民族マツリの創造と展開』(上) 論考編 JSPS 科学研究費基礎研究 (C) 研究成果報告書 課題番号 22520069 2010年度ー13年度 研究代表 飯田剛史 (大谷大学文学部)		234~254
Korean Immigrants and Religion in Contemporary Japan: Globalization and Diaspora	単著	2014年04月01日	『未来と宗教的文化全地球的興在地化国際検討会論文集』		A33 1~15

Krean Immigrants and Religioun in Contemporaray Japan: Globalization and Diaspora	単著	2014年04月02日	仏光大学 主催 未来興宗教的文化 全地球的興在地化国際検討会（招 待）		
研究と私と家族	単著	2014年06月27日	北海道ジェンダー研究会		
奄美におけるカトリック研究 の現状と課題—東アジアキリ スト教交流史との関連から	単著	2015年01月30日	第5回 東アジアキリスト教交流史 研究会ワークショップ in Nanzan		
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2002年04月01日 ～ 現在に至る	日本宗教学会 理事 国際委員（2002－2011）				
2011年06月04日 ～ 2011年06月05日	第59回北海道社会学会大会				
2011年07月02日 ～ 2011年07月02日	第31回国際宗教社会学会（ISSR/SISR）テーマセッション39主催				
2014年07月17日 ～ 2014年07月17日	平成26年度都道府県宗教法人事務担当者研修会（北海道・東北地区） 講演「現代の宗教事情」				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

(表10)

所属 教養教育科	職名 教授	氏名 堀井 泰明	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
2 作成した教科書、教材、参考書 ・看護学生のための医療倫理		2012年05月01日 ～ 2012年05月31日	倫理学でも利用できる教科書として『看護学生のための医療倫理』丸善、を出版した。堀井は企画の段階から関わり全90項目のうち10項目（在宅ケア、ナーシングエシックスの誕生、世界の看護師倫理綱領、日本の看護師倫理綱領、専門看護師、ケアリングの倫理としての看護倫理、看護学におけるケア理論、看護倫理のキーワード、倫理的意思決定モデル、コラム等）を執筆した。要点が項目ごとにまとまっており使いやすい教科書との評価を頂き、すでに4刷目である。（担当頁pp.8-9, 14-15, 24-25, 26-27, 108-109, 110, 116-117, 122-123, 124-125, 126-127, 128.）（編者）盛永 審一郎、長島正、（著者）堀井泰明、朝倉輝一、浅見省吾、池辺寧、板井孝一郎、伊野連、遠藤寿一、沖永隆子、香川知昌、黒須三恵、ケン・スレイマン、清水哲郎、服部健司、細見博志。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称 編者・著者名 （共著の場合のみ記入） 該当頁数
著書			

看護学生のための医療倫理	共著	2012年05月01日	丸善	(編者)盛永審一郎、長島正 (共著者) 堀井泰明、清水哲郎ほか	(担当頁pp. 8-9, 14-15, 24-25, 26-27, 108-109, 110, 116-117, 122-123, 124-125, 126-127, 128.)
福音み一つけた!—「宗教」「倫理」を考えるために—高校編	共著	2016年10月10日	燎葉出版社	日本カトリック教育学会編	48-49, 72-73, 98-99
論文					
保健医療福祉系大学における教養教育の問題(2)—人文社会系教養の意義を考える	共著	2011年06月01日	大学教育学会第33回大会	◎小野滋男、志水幸、今井道夫、町田修三、遠藤良仁、堀井泰明、森元拓	
専門職養成課程における哲学・倫理学教育の意味とは?—天使大学における12年間の実践をふりかえって	単著	2012年05月01日	2012年度第2回応用倫理研究会		
保健医療福祉系大学における教養教育の問題(3)—コア・カリキュラムにおける人文社会系教養の意義を考える	共著	2012年06月01日	大学教育学会第34回大会	◎小野滋男、志水幸、町田修三、遠藤良仁、堀井泰明	
ケアの倫理学—対人支援の倫理学とは	単著	2013年02月01日	北海道生命倫理研究会第2回大会		
保健医療福祉系大学における教養教育の問題(4)—多ルート問題と大学の独立性について考える	共著	2013年06月01日	大学教育学会第35回大会	◎小野滋男、志水幸、堀井泰明	
ケアすることの哲学的意味—ケアリングを看護倫理の基礎としてどう位置づけるか	単著	2013年06月01日	日本看護倫理学会第6回年次大会		
人間学の役目とは?	単著	2013年08月01日	第41回上智人間学会大会シンポジウム「人間教育—その原点と可能性」		
Philosophy of Caring as a universal Foundation of Nursing Ethics	単著	2013年09月01日	17th Annual International Philosophy of Nursing Conference, Atlanta, USA		
医療と価値—哲学めきで医療は語れるのか	単著	2013年12月01日	北海道哲学会・北海道大学哲学会合同シンポジウム「医療と哲学」		

徳としてのケアリングを基盤にした看護倫理学の構築	単著	2014年03月01日	平成23-25年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書		pp. 1～60
倫理を教えるということー「共感」のまえにまずは「関心」を	単著	2014年06月01日	日本看護倫理学会第7回年次大会交流集会2「看護倫理教育の課題と可能性」		
ベルギーのsTimulケア倫理ラボに学ぶ看護倫理教育	単著	2015年01月01日	看護管理、25巻1号		pp. 66～70
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2008年04月01日 ～ 現在に至る	札幌医療生協 札幌南青洲病院 倫理審査委員会 委員				
2010年04月01日 ～ 現在に至る	国立病院機構 北海道医療センター 倫理審査委員会 委員				
2012年05月01日 ～ 現在に至る	日本看護倫理学会 評議員				
2012年10月01日 ～ 現在に至る	上智人間学会 監事				
2013年04月01日 ～ 現在に至る	医療法人母恋 天使病院 治験審査委員会 委員				
2013年09月01日 ～ 現在に至る	日本カトリック教育学会 理事				
2016年11月04日 ～ 現在に至る	日本医学哲学倫理学会評議員				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 教養教育科	職名 教授	氏名 室橋 春光	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
土曜教室活動		1997年 ～ 2015年	発達障害のある子どもたちの学習支援のために、富山大学ならびに北海道大学において土曜教室を開催し、20年余にわたり運営してきた。学部生・大学院生をスタッフとして、事前・事後ミーティング、保護者との話し合い等を行い、子どもの認知特性、行動特性に応じた支援を模索しつつ実施してきた。スタッフを経験した学生たちは80名近くにのぼり、その大半が教育・福祉・医療関係の仕事に就いている。
毎講義時の感想・疑問の提出と提示		1997年 ～ 2015年	講義終了時に聴講学生にA5用紙を配布し、授業の感想と質問を提出することを求めた。そして次回にコメントを記入した用紙を返却したり、講義の最初に主要な質問に対する回答をプレゼンテーションして、前回の理解不足の部分を補った。これにより、これにより、学生は講義内容に対してより一層の関心を示し、教授者側は学生の理解度をはかることができた。
クリッカーを使用した授業		2009年 ～ 2015年	講義において授業応答システムを用い、双方向授業を行ってきた。いわゆるクリッカーを聴講学生に配布し、授業中のプレゼンテーションの中に随時挿入した質問に対して回答させた。これにより、学生は講義内容に対してより一層の関心を示し、教授者側は学生の理解度をはかることができた。
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			
II 研究活動			

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
保護者とかかわりと連携） 「特別支援教育の理論と実 践.Ⅲ特別支援教育士 （S.E.N.S）の役割・実習D- 4）	単著	2012年	金剛出版		55-70
発達障害と認知：読み書きの 困難（「発達の基盤：身体、 認知、情動」第19章）	単著	2013年	新曜社		242-254
論文					
	共著	2011年			1～8
	共著	2011年			109～122
発達障害における視知覚形成 過程に対する大細胞系の役割 について	単著	2011年	心理学評論, 54(1)		54～63
ADHDスペクトラム？	単著	2011年	心理学評論, 54(1)		73～75
	共著	2012年			62～66
	共著	2013年			395～403
	共著	2013年			175～185
		2013年			131～143
フォニックスとライムのパ ターンを用いた英単語の読み 書き指導法-読み書き困難の ある生徒2事例の指導経過よ り-	共著	2013年	LD研究-研究と実践, 22(4)	奥村安寿子, 室橋春光	445～456
MEGによるfunctional connectivityの解析-Default Mode Networkモデルに関連し たAutism Spectrum Disorder と定型発達の比較	共著	2013年	生理心理学と精神生理学, 31(1)	豊巻敦人, 渡辺隼人, 柳生一自, 室橋 春光	41～49

発達障害におけるワーキングメモリー特性を活かした学習支援	単著	2013年	LD研究-研究と実践, 23(2)		134～141
	共著	2014年			
	共著	2014年			
「実行機能」再考-発達障害研究の視点から-	単著	2015年	心理学評論, 58(1)		175～180
Representational levels of bilateral N170 for Japanese Hiragana strings during focal spatial attention to letters.	共著	2016年	生理心理学と精神生理学, 25	奥村安寿子 河西哲子 室橋春光	
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
1986年 ～ 2015年	日本生理心理学会・評議員（平成20年より編集委員兼任）				
1994年 ～ 2016年	日本発達障害学会・編集委員（平成21年より評議員兼任）				
2001年 ～ 2016年	日本特殊教育学会・常任編集委員（平成13年～平成14年、平成19年～現在）				
2003年 ～ 2012年	日本LD学会・編集委員（～平成24年常任編集委員）				
2004年 ～ 2014年	日本臨床神経生理学会・評議員				
2006年 ～ 2014年	札幌市発達障害者支援関係連絡会議会長				
2006年 ～ 2015年	札幌市教育委員会特別支援教育振興審議会委員・会長				
2006年 ～ 2016年	北海道広域特別支援教育連携協議会委員				
2009年 ～ 2016年	一般社団法人日本LD学会・理事、一般社団法人日本特別支援教育士認定協会・理事				
2009年 ～ 2013年	日本心理学会・編集委員（～平成25年3月）				
2012年 ～ 2012年	日本生理心理学会第30回大会・会長				
2013年 ～ 2016年	札幌市発達障害者支援開発事業企画・推進委員会委員				
2016年 ～ 2016年	北海道の後期中等教育段階における特別支援教育に関する検討委員会・委員長				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 教養教育科	職名 准教授	氏名 新井 英志	大学院における研究指導担当 資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
・ 化学（基礎）		2014年04月01日 ～ 2016年07月31日	・ 大学における専門科目の基礎となる高校化学の内容を平易に解説・指導した。
・ 教職概論		2014年04月01日 ～ 2016年07月31日	・ 教職の意義、教師の役割、教育の今日的課題等について、グループ活動、学校見学、体験学習を取り入れながら解説・指導した。
・ 生徒指導論		2014年09月01日 ～ 2017年01月31日	・ 生徒指導の意義・原理や指導方法について、アクティブ・ラーニングを活用しながら、実践的指導力を高める指導を行った。
・ 教育課程論		2014年11月01日 ～ 2017年01月31日	・ 教育課程の意義・歴史・編成の方法等を解説するとともに、アクティブ・ラーニングを活用して栄養教諭としての資質・能力を高める指導を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			
・ 「化学（基礎）」講義資料 ・ 「教職概論」講義資料 ・ 「生徒指導論」講義資料 ・ 「教育課程論」講義資料		2014年04月01日 ～ 2017年01月31日	・ 上記科目において、講義用パワーポイントを作成して学習理解を促進するとともに、学生の主体的な学習を支援するための資料プリント教材を作成・配布し効果を上げた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
講演「学校教育の現状と課題」		2011年07月07日	「平成23年度公立高等学校学校運営研修会」：函館市で開催された道南ブロック高等学校の新任教務部長20数名対象の研修会において、「学校教育の現状と課題」と題して講演を行った。内容は、教育改革の流れ、現在の教育課題、その解決方策等について解説した。
講演「校長・副校長に期待される資質」		2012年07月30日	「平成24年度全道副校長研修会」：札幌市で開催された全道の新任副校長13名対象の研修会において、「校長・副校長として期待される資質」と題して講演を行った。内容は、東京都の事例や自分の経験による学校改革の方策等について解説した。
発表「インターネット検索調査を利用した履修カルテの現状分析－文部科学省の例示との比較検討－」		2016年09月17日	日本教師教育学会において上記テーマで発表した。内容は、「教職実践演習」の履修で作成が必要な「履修カルテ」について、全国35大学の内容や運用の状況を調査・分析した結果を報告したものである。

4　その他教育活動上特記すべき事項					
北海道教育委員会指定事業「高校生ステップアップ・プログラム」の事業推進と学校改革の推進		2009年04月01日　～ 2011年09月30日	北海道上磯高等学校の校長として、北海道教育員会指定事業「高校生ステップアップ・プログラム」の指定を受け、スクールカウンセラーを活用して、生徒のコミュニケーション能力を高める実践や、教員の資質向上プログラムを実施するなど指導力を発揮した。同時に、生徒指導の改善や、少人数指導やコース制導入などの教育課程改善を行うなど、生徒が楽しく学べる魅力ある学校づくりのための改革を推進した。		
文部科学省指定事業「スーパーサイエンスハイスクール」の指導・担当		2011年10月01日　～ 2014年03月31日	北海道札幌啓成高等学の校長として、文部科学省指定事業「スーパーサイエンスハイスクール」の教育課程研究開発・改善の推進を指導するとともに、2012～2014（平成24～26）年度報告書の一部も執筆した。		
・北海道高等学校理科研究会会長 ・日本理化学協会副会長		2012年04月01日　～ 2014年03月31日	北海道高等学校理科研究会会長を務め、北海道高等学校理科教育の向上に尽力した。また、日本理化学協会副会長も務め、2012（平成24）年度全国理科教育大会及び日本生物教育会全国大会合同北海道大会の実行委員長も歴任した。		
Ⅱ　研究活動					
著書・論文等の 名　　　　　称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
北海道高等学校長協会調査研究部会「管理運営委員会」報告書	共著	2012年01月01日	北海道高等学校長協会	◎後藤寿樹、新井英志、澤田和宏、中村雅之、西田正史	p24～p30
北海道高等学校長協会調査研究部会「高校入選改善検討特別委員会」報告書	共著	2013年01月01日	北海道高等学校長協会	◎辻敏裕、赤間幸人、新井英志、金濱茂、広瀬寛	p144～p147
北海道高等学校長協会調査研究部会「高校入選改善検討特別委員会」報告書	共著	2013年01月01日	北海道高等学校長協会	◎辻敏裕、赤間幸人、新井英志、金濱茂、広瀬寛	p151～p152
インターネット検索調査を利用した履修カルテの現状分析－文部科学省の例示との比較を中心として－	単著	2016年12月26日	天使大学紀要　Vo1. 17　No. 1　2016		13～26

T大学における入学形態と入学時の化学・生物診断テスト結果の関係	単著	2016年12月26日	天使大学紀要 Vol. 17 No. 1 2016		27～40
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
1978年09月01日 ～ 現在に至る	日本化学会教育部会会員				
2014年06月01日 ～ 現在に至る	初年次教育学会会員				
2015年06月13日 ～ 現在に至る	日本教師教育学会会員				

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

所属 教養教育科	職名 准教授	氏名 小原 琢	大学院における研究指導担当 資格の有無 (有)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
2 作成した教科書、教材、参考書			
「ラテン語変化一覧」「ラテン語文法要綱」作成		2010年04月01日 ～ 2012年03月31日	名詞・形容詞・動詞の変化表作成。ラテン語初級文法の解説書作成。
「ラテン語解答集」作成		2010年04月01日 ～ 2013年03月31日	『楽しいラテン語』（教文館）所収の問題に対する解答作成。
「ラテン語エピソード集」作成		2012年04月01日 ～ 2014年03月31日	文法事項に応じたコラム作成。
「ラテン語接続法用例集」作成		2013年04月01日 ～ 2015年03月31日	接続法の用例を紹介する解説書作成。
「チャペルアワー説教集（4年）」作成		2014年04月01日 ～ 2015年03月31日	チャペルアワーの説教を文書化。
「ラテン語エピソード集」増補改訂		2015年04月01日 ～ 2016年03月31日	文法事項に応じたコラム作成
「ラテン語接続法用例集」増補改訂		2015年04月01日 ～ 2016年03月31日	接続法の用例を紹介する解説書作成
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項			

・「チャペルアワー」担当	2008年04月01日 ～ 2016年03月31日	聖書朗読及び説教（各学年対象）
・「クリスマス・オリエンテーション」担当	2008年12月01日 ～ 2015年12月31日	「クリスマスの集い」のオリエンテーション（1年対象、講話を含む）
「出会いと親睦ゼミ：講話2」担当	2015年04月06日 ～ 現在に至る	建学の精神「愛をとおして真理へ」に関する講話：イースターの集い（1年対象）

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					

III 学会等および社会における主な活動	
2012年04月01日 ～ 2013年03月31日	北海道哲学会幹事

V 教育研究等環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表18)

(表16)

所属 教養教育科	職名 准教授	氏名 目時 光紀	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 大学英語教育学会（JACET）北海道支部20周年記念特別表彰・実践プロジェクト部門受賞（共同）	2007年02月01日～ 現在に至る		
II 研究活動			
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称
著書			編者・著者名 （共著の場合のみ記入）
			該当頁数
論文			
Moodle LMSによるHLSストリーミング	共著	2013年06月01日	天使大学紀要（第13巻第2号）
			◎川口雄一、目時光紀、小島洋一郎
			73頁～77頁

Moodle LMSによるHLSストリーミング	共著	2013年06月28日	天使大学紀要（第13巻第2号）	◎川口雄一、目時光紀、小島洋一郎	73頁～77頁
動画をストリーミング配信する場合の転送速度測定実験	共著	2013年11月01日	天使大学紀要（第14巻第1号）	◎川口雄一、目時光紀、小島洋一郎	41頁～47頁
T大学における入学形態と学生の英語力の関係	単著	2014年06月01日	天使大学紀要（第14巻第2号）		53頁～60頁
習熟度別にみたT大学1年生の英語力の変化	単著	2014年06月01日	天使大学紀要（第14巻第2号）		61頁～75頁
非アップル端末によるHLSストリーミング動画の再生	共著	2014年06月01日	天使大学紀要（第14巻第2号）	◎川口雄一、目時光紀	131頁～136頁
III 学会等および社会における主な活動					
2008年04月01日 ～ 2017年03月31日	国際教育交流協会（現 日本国際生活体験協会）交換留学生派遣プログラム面接委員				
2010年04月01日 ～ 2017年03月31日	大学英語教育学会北海道支部研究企画委員				
2013年04月01日 ～ 2017年03月31日	大学英語教育学会運営委員				
2015年10月01日 ～ 2017年03月31日	日本コミュニケーション学会北海道支部事務局長				